

デジタルモンスター

DIGITALMONSTER

ART BOOK Ver.PENDULUM





デジタルモンスター DIGITALMONSTER ART BOOK Ver.PENDULUM

CONTENTS

Chapter1>>>

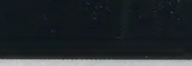
DIGITALMONSTER ART WORK

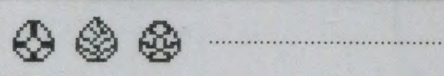
「デジモンペンデュラムver.20th」で登場するデジモンの公式イラストを、
全カラー分を収録。液晶玩具内で表示されているドット絵や、
生態がわかる可愛らしいイラストも掲載する。



「デジタマ」の見方

『デジモンペンデュラムver.20th』に収録されている、どのデジタマから育成可能かを表します。
一部のカラーでのみ育成可能なデジモンがいます。

 ……すべてのカラーで育成可能。

 ……「オリジナルシルバーブラック」で育成可能。

 ……「オリジナルシルバーブルー」で育成可能。

 ……「ベルゼブモンカラー」で育成可能。

 ……「デュークモンカラー」で育成可能。

※表記がないものはコピモン・敵として登場。

バブモン

BUBBMON

幼年期 I

スライム型



デジタマ>>> 





アラカルト>>>

PROFILE >>>

一見、ただの薄緑色の泡のようだが、自由に行動し豊かな表情を見せる泡型のデジモン。表面はまだ固まっていないため、防御力は無いに等しく戦闘には向いていない。口にくわえたおしゃぶりのように見える部分から、小型の泡を発生させ、無限に増殖していく。その増殖性は、かつてコンピュータウィルス開発に使用されかかったが、あまりに生命力が弱いため幸い実行されなかった。はかない命だが、懸命に生きる愛すべきデジモンベビー。体の中から発生させる粘着性の泡で外敵の動きを封じ、その間に逃げるのが得意。

モチモン

MOCHIMON

幼年期 II

レッサー型



デジタマ>>> 





アラカルト>>>

PROFILE >>>

伸縮性のある外皮を獲得し、胴体下部の突起を使ってヨチヨチ歩く軟体のデジモン。気持ちが高ぶると体を膨らませる様子が、餅の様に見えるところから"モチモン"と呼ばれるようになった。しかし、見た目からは想像もできないくらい高い知性を持っているところから、その発生はコンピュータ内の辞書機能からと推測されている。人間の言葉を理解し、自由に体を変形させてコミュニケーションを取ろうとする様子が、時折見受けられる。餅の様に伸縮性のある泡を出して相手の動きを封じる。

テントモン

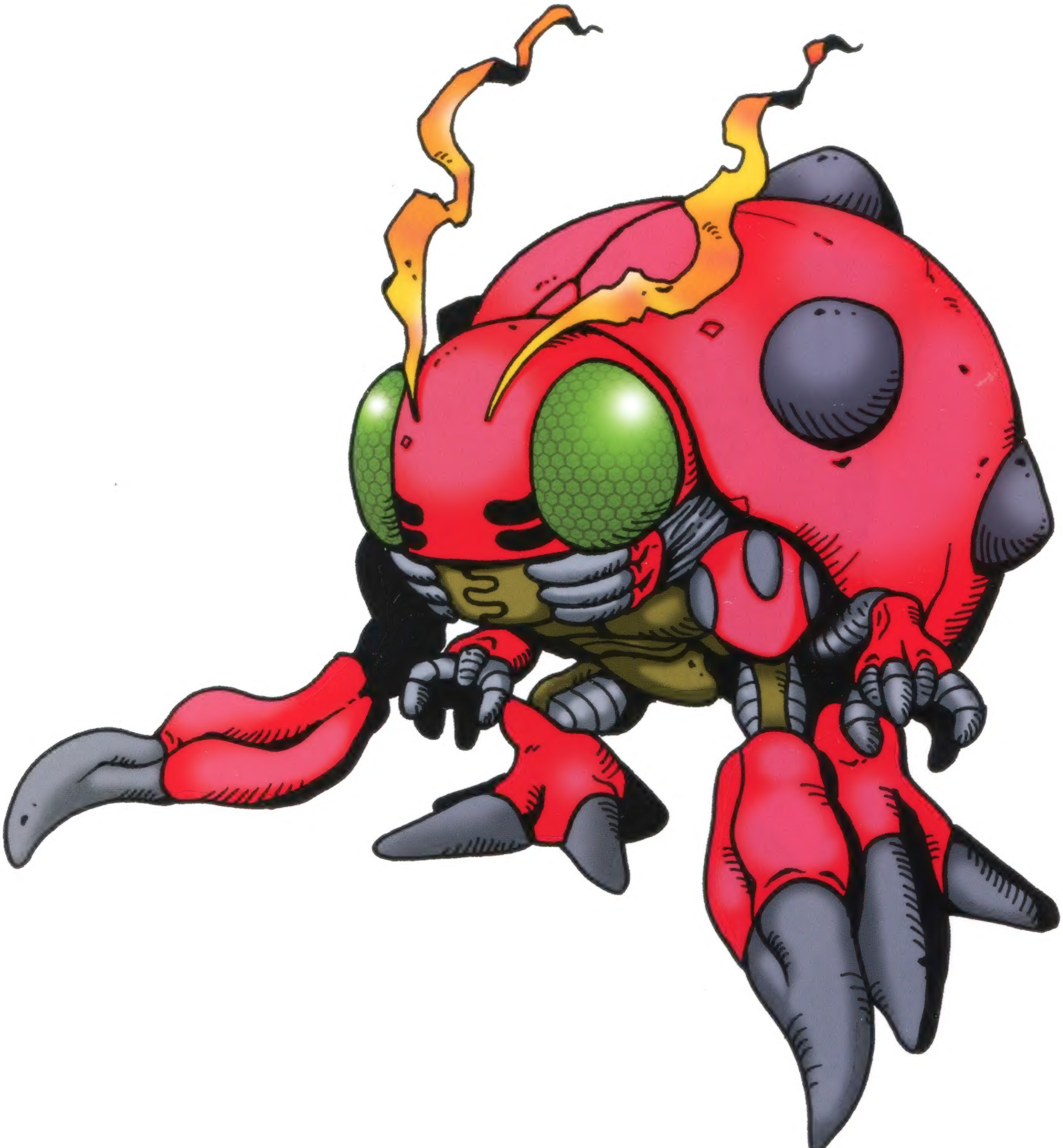
TENTOMON

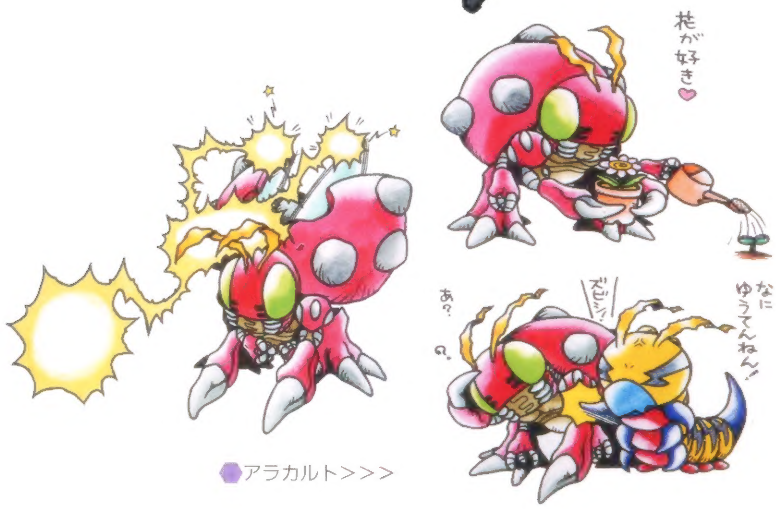
成長期
ワクチン種
昆虫型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

硬い甲殻を持つが、まだ攻撃性の低い昆虫型デジモンの原初タイプ。前肢に１本、中肢と後肢に４本の硬質爪を持ち、特に中肢は人間の手並に器用に物をつかんだりできる。進化型にあたる他の昆虫型は闘争心しか持たないが、この時点では自然を親しむ感情が残っているようで、花の匂いを嗅いだり木陰で昼寝をしたりといった、のんきな生態を見せる。一応持っている必殺技は、羽で増幅させた静電気を飛ばす『プチサンダー』。

ゴツモン

GOTTSUMON

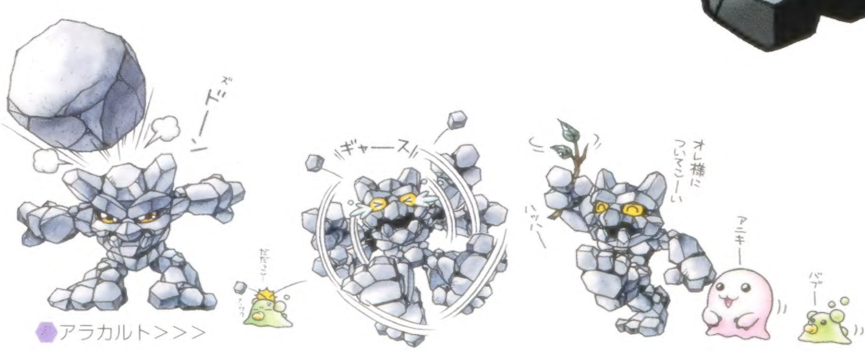
成長期
データ種
鉱石型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

フィールド中の鉱石データをまとい、強力な防御力を持つ鉱石型のデジモン。やんちゃで陽気な性格で、まるでガキ大将のように世代の低いデジモンを引き連れて、システム内を跳ね回る元気者。少々わがままなところもあり、一旦怒ると火山の噴火のような激しさで暴れ回り、手がつけられなくなる。発生場所や条件によって、表出する鉱石データが変化し、様々な進化の可能性を秘めている。必殺技は、超硬度の鉱石を頭頂より射出する『アングリーロック』。

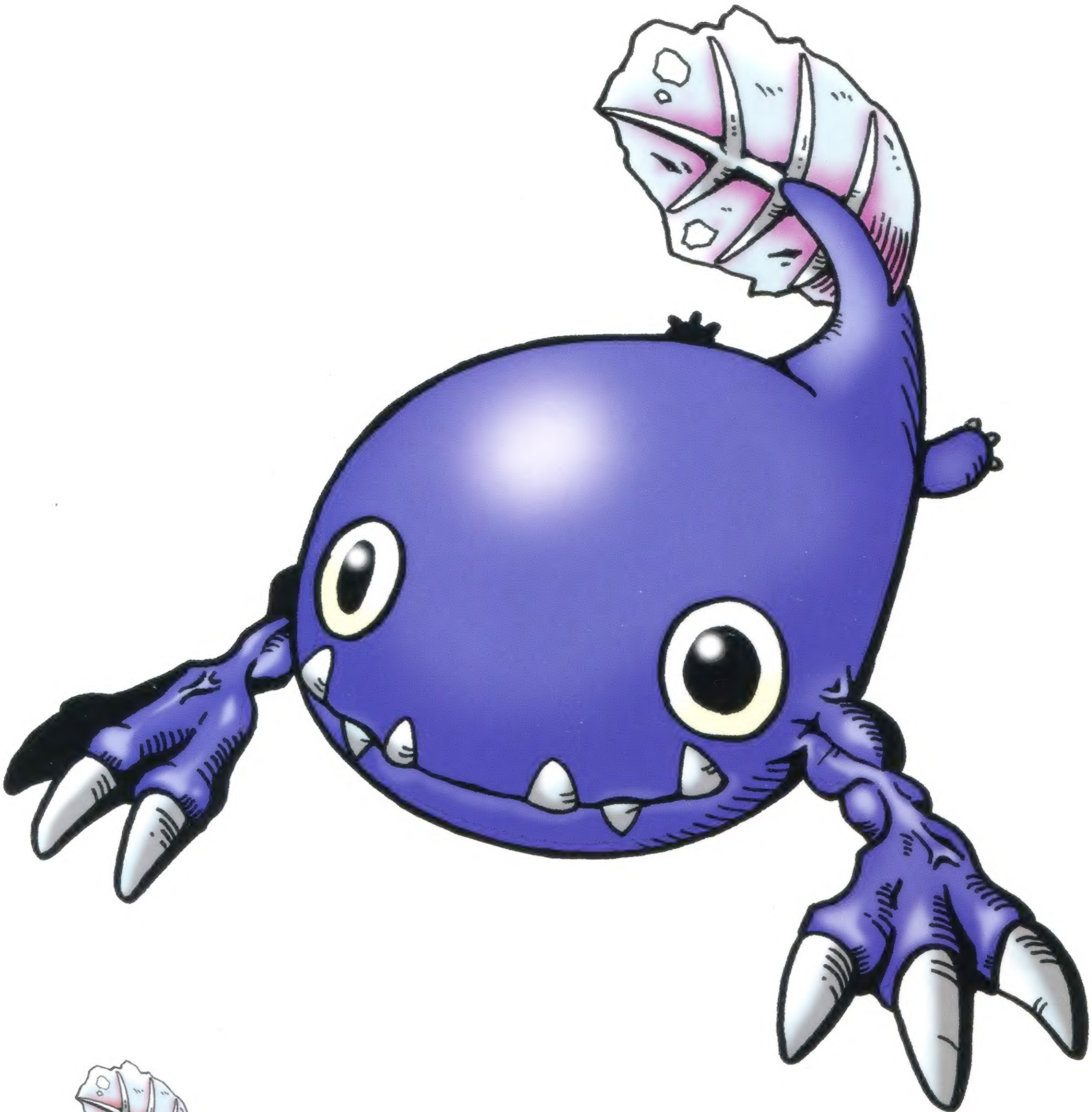
オタマモン

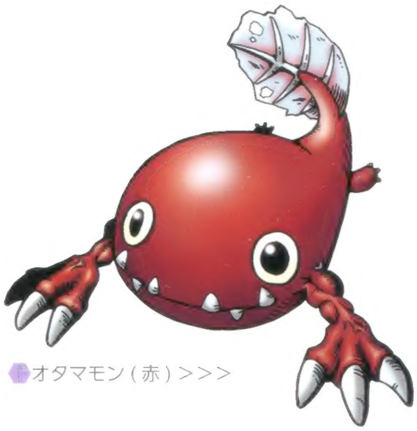
OTAMAMON

成長期
ウィルス種
両生類型



デジタマ>>>





オタマモン(赤)>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

水中生活を選択したため、まだ表皮の固まりきらない幼生デジモン。大きな尾でネットの海上流の沼や川を泳ぎ、ときには発達した前肢で岩によじのぼって発声練習をしている。ほとんど未発達の後肢は、推進力を得ている尾の代りに、舵の役目をしており、普通の生物とは逆になっている。成長期の中では明らかな進化を予感させる貴重な存在だが、突然変異の可能性も極めて高いため、育成には注意が必要。必殺技は相手を永遠の眠りに誘う『ララバイバブル』。

※オタマモン(赤)は「ver.20th」には収録されていません。

トータモン

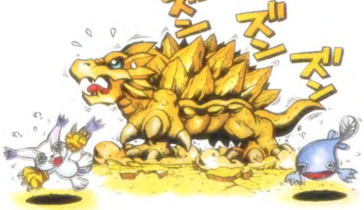
TORTAMON

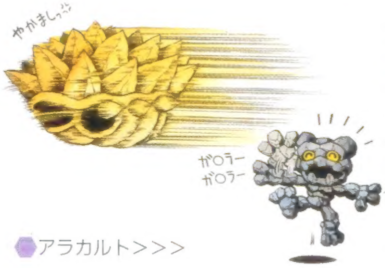
成熟期
ワクチン種
爬虫類型



デジタマ>>>







アラカルト>>>



PROFILE >>>

鋭いブレードの生えた甲羅で武装した陸亀タイプのデジモン。甲羅も本体も高密度で形成されているため、見ためより重く、歩く度に凄まじい地響きを起こす。また、鳴き声は金属的で甲高く“騒音デジモン”の異名を持っている。通常の歩行動作は極めて遅いが、手足を引っ込めて円盤状になり回転すると、通常の１０倍以上の速度で移動できる。必殺技は、甲羅のブレードを多弾頭ミサイルの様に発射する『シェルファランクス』。

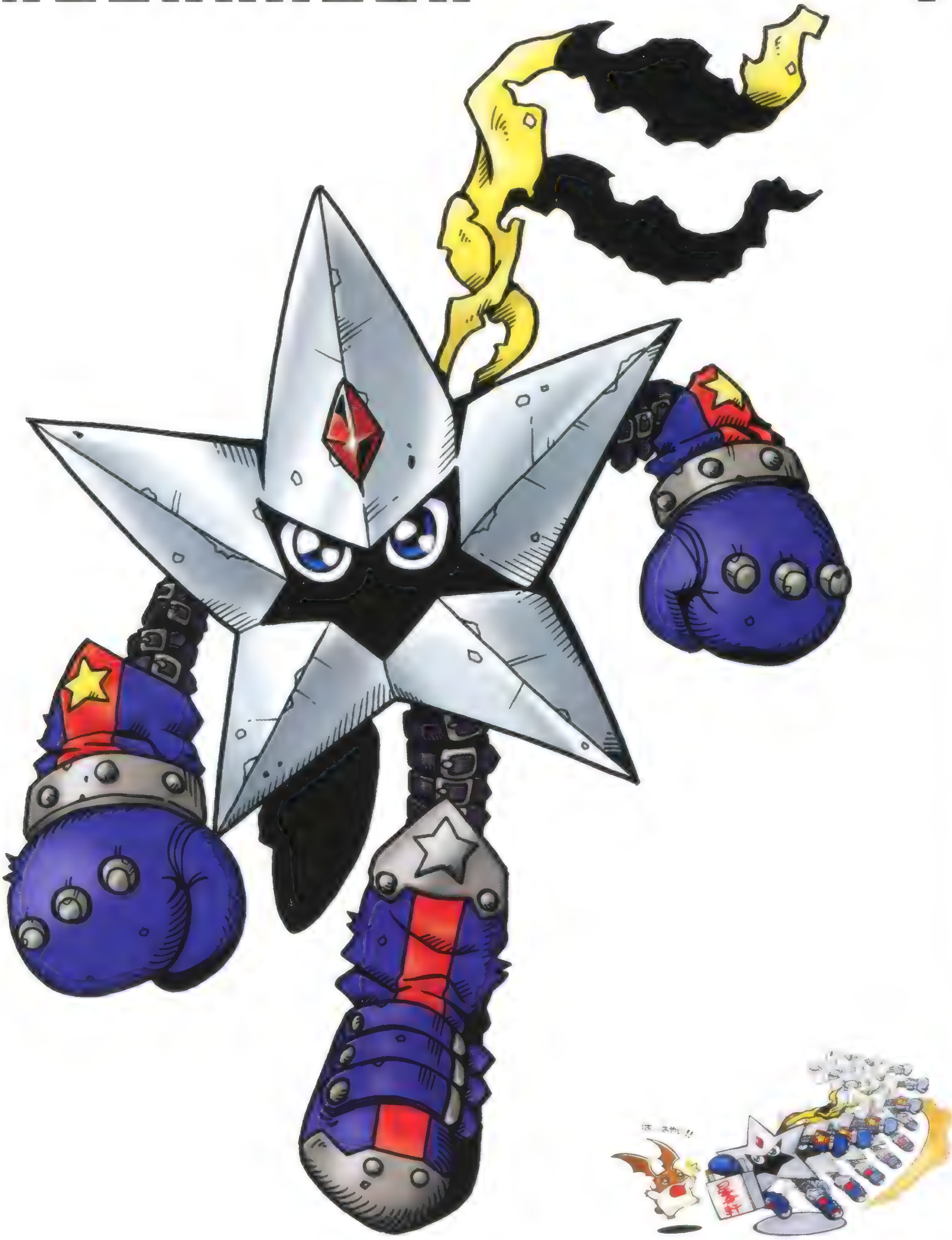
スターモン

STARMON

成熟期
データ種
突然変異型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

宇宙開発センターの惑星解析用ロボット中で偶然発見された惑星型のデジモン。星形のアーマースーツと星マークのグラブとブーツを装備した宇宙の戦士。ズタズタになった黄色マフラーが、スターモンの戦歴を物語っている。体の中央の目は闘志に燃え、言葉を話さなくとも相手に意思を伝えることができる。また、その高度な利用法として、相手に催眠術をかけることも可能。勇者レオモンにあこがれる熱血漢なデジモンだ。必殺技は、小型の流星を敵の頭上に降り注ぐ『メテオスコール』。





アラカルト>>>

ゲコモン

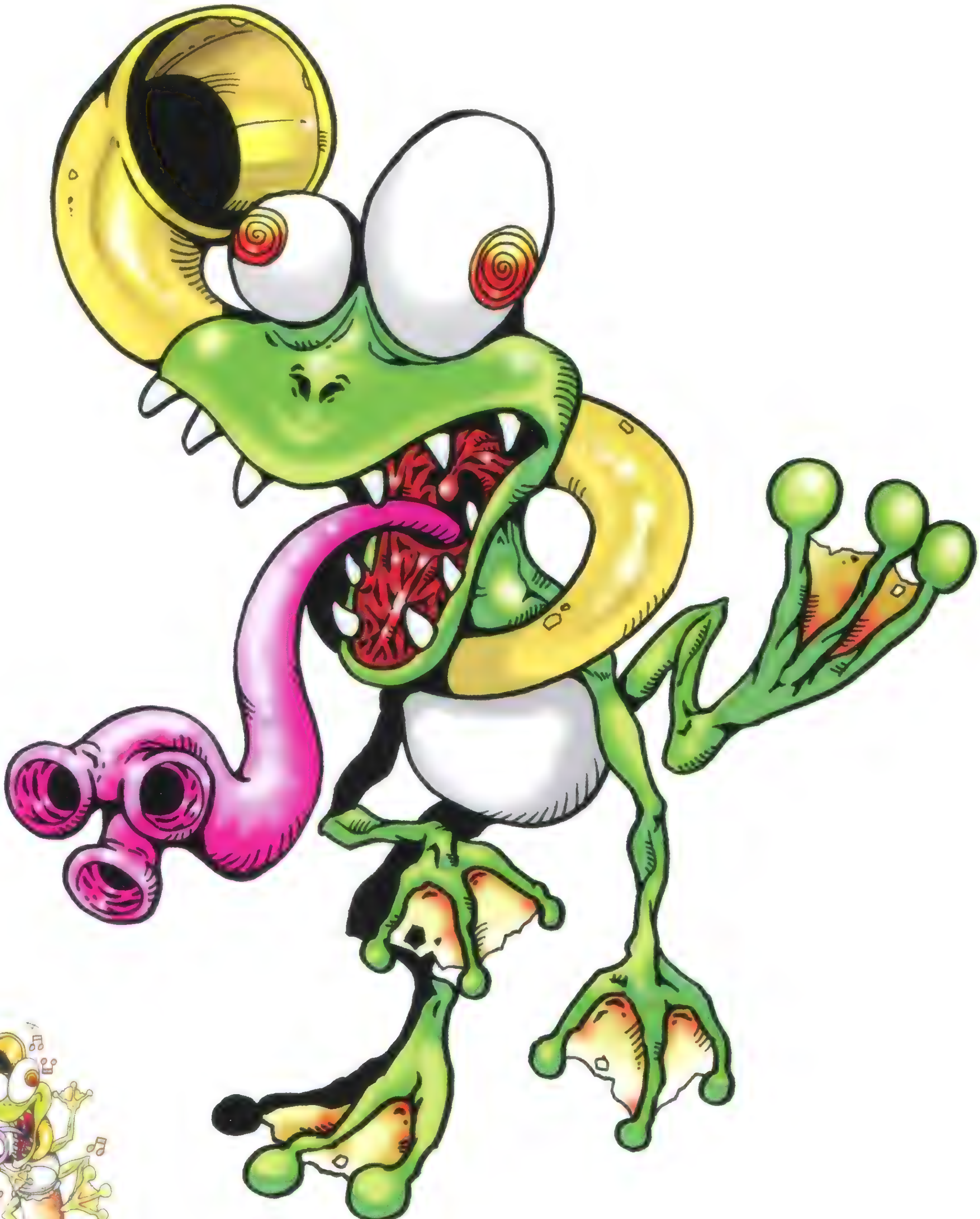
GEKOMON

成熟期
ウィルス種
両生類型



デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

見た目の奇怪さからは想像もできない心地よい鳴き声で、周りを魅了する両生類型のデジモン。舌先の３つの穴が奏でる和音と首に巻かれたホーンのアドリブは、相手の気持ちをどのようにでもコントロールできる。作曲ソフト内で名曲が生み出されると誕生するとの噂が流れ、世の音楽関係者の間では一種のステータスシンボルとなっている。必殺技は超高周波振動によって敵を内部から破壊する「[illegible]フォニー」

テイルモン

TAILMON

成熟期
ワクチン種
聖獣型

デジタマ>>>

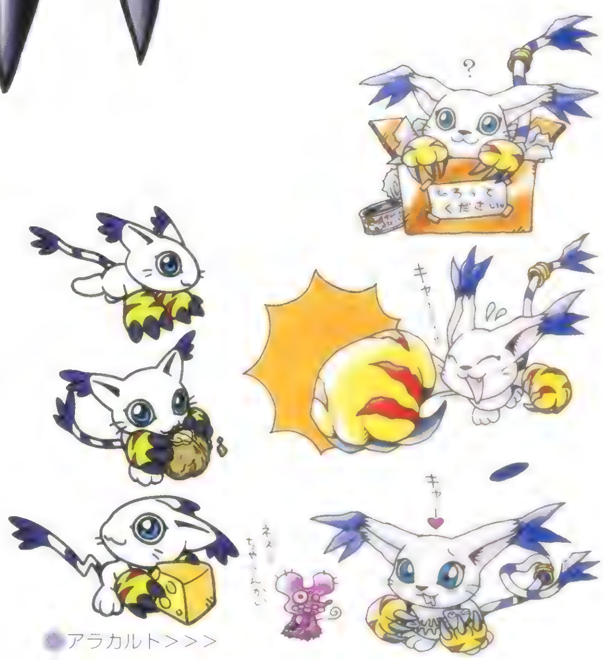




別ポーズ>>>

PROFILE >>>

好奇心がとっても旺盛でイタズラ好き。体は小さいが貴重な神聖系のデジモンであり、見た目にそぐわない実力を持っている。神聖系の証であるホーリーリングを尻尾につけているが、このホーリーリングが外れてしまうと、パワーダウンしてしまい本来の力を発揮できなくなる。身を守るために、サーベルレオモンのデータをコピーした長い爪をつけている。必殺技は長い爪を使って相手を攻撃する「ネコパンチ」と、鋭い眼光で敵を操る「キャッツアイ」。この眼光を受けた者は、自分自身を攻撃してしまう。



アラカルト>>>

アトラーカブテリモン

ATLURKABUTERIMON

完全体
データ種
昆虫型



デジタマ>>>





アトラーカブテリモン（赤）>>>



アラカルト>>>



デザインラフ>>>

PROFILE >>>

熱帯圏のネットエリア内で発見されたカブテリモンの進化型種。サイズは約1.5倍と、昆虫型の中でもかなり大きい。飛行能力は若干退化したものの、主力武器である角の強度が飛躍的に高められている。また、前肢付け根、筋肉状の部分が現われ、格闘能力も向上した。性質的には、生存本能以外に弱いものを守るという行動が認められ、その行動は騎士的にさえ見えることがある。必殺技は巨大な角を敵に突き刺す「ホーンバスター」。

※アトラーカブテリモン（赤）は「ver 20th」には収録されていません。

ジャガモン

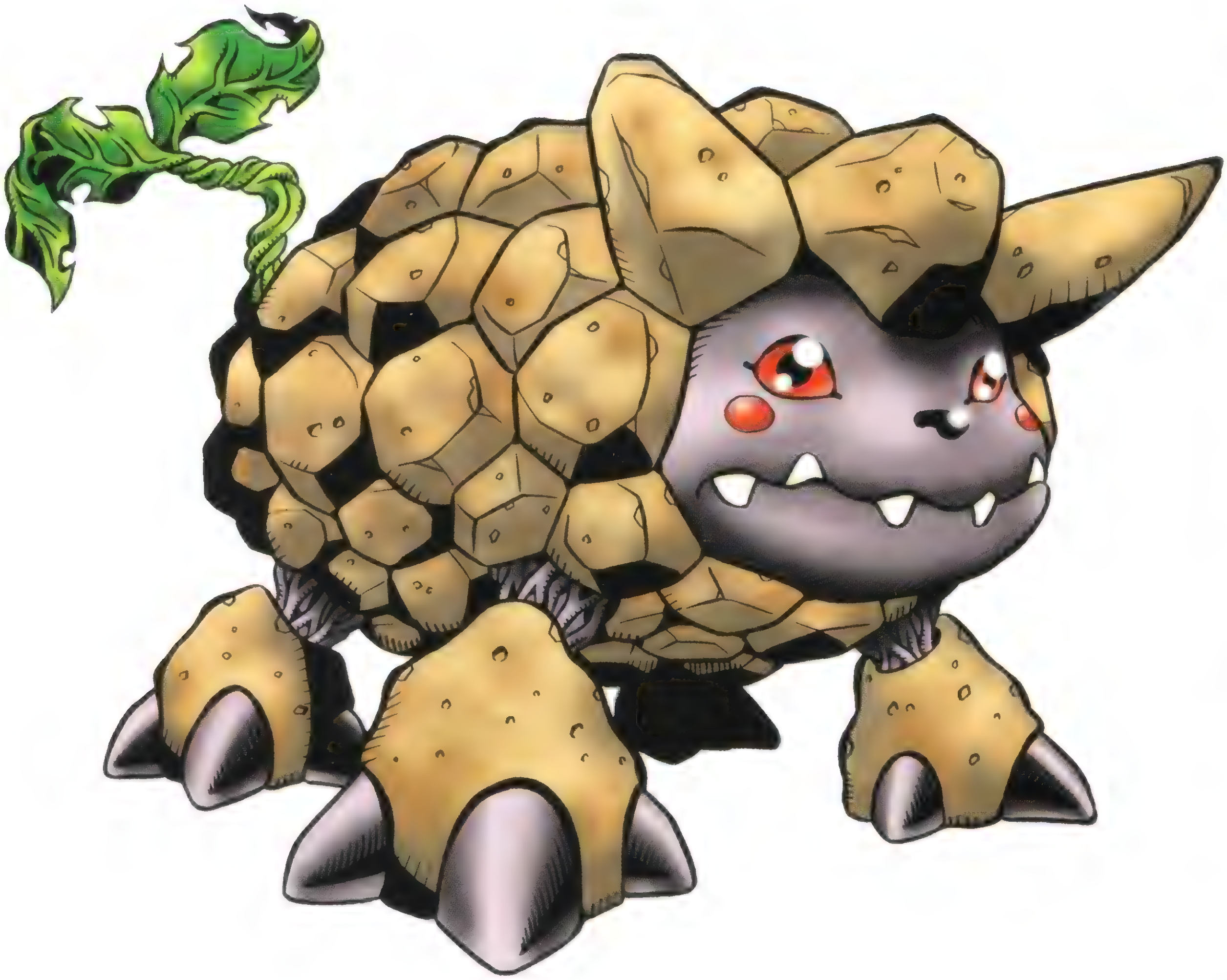
JAGAMON

完全体
ワクチン種
植物型

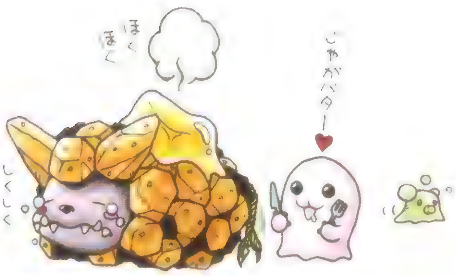


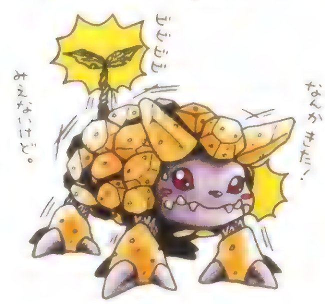
デジタマ>>>











PROFILE >>>

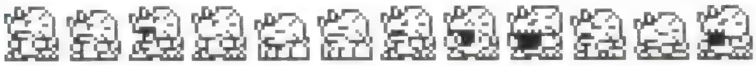
見た目はジャガイモのような外見で敵から身を隠すことができる擬態型デジモン。戦闘はあまり好まず臆病な性格だが、秘めた戦闘能力は極めて高い。食べることと寝ることが大好きな呑気な性格。表皮は見た目より数段硬質で、手足と頭を隠せば相手の攻撃に耐えることができる。芽に見える部分は上空や後方の敵の動きを感知するレーダーの役目を果たしていて、頭を隠していても周りの様子が手に取るようにわかる。必殺技は表皮の一部を発射する[illegible]。

アラカルト>>>

トリケラモン

TRICERAMON

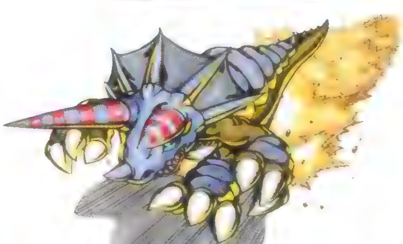
完全体
データ種
角竜型



デジタマ>>>









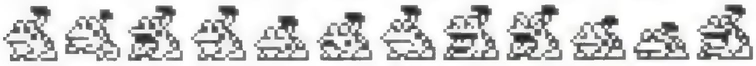
アラカルト>>>

PROFILE >>>
草食恐竜型では一、二を争う攻撃力を持つトリケラトプスの姿を持つ4足歩行の角竜型デジモン。表皮の頑丈さは生物系デジモンの中ではトップクラス。表皮同様、額から生えた2本の角は超硬質で、モノクロモンよりもはるかに硬い。基本的に性格は温厚。しかし、通常時の緩慢な動作からは推測しかねる突進攻撃は、硬質の体を持つ鉱物系デジモンでさえ破壊してしまう攻撃力を持っている。必殺技は額の2本角と鼻先の角で敵に突進していく『トライホーンアタック』。

トノサマゲコモン

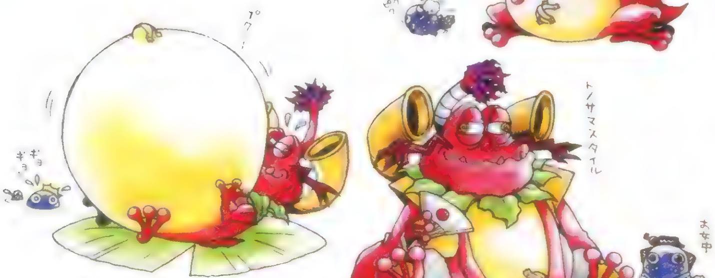
TONOSAMAGEKOMON

完全体
ウィルス種
両生類型



デジタマ>>>





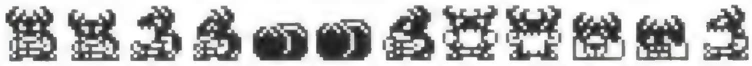
アラカルト>>>

PROFILE >>>

殿様のチョンマゲに似た触角を持つゲコモンがバージョンアップ。その発生はカラオケの採点システムが最初といわれる。双肩から伸びた2本のホーンから旋律を奏で、ゲコモンより数段低い音階の歌声は殿様の貫禄（？）を感じさせる。必殺技はボーカルとホーンの超低周波で敵の体を構成するデータを震わし破壊する「コブシトーン」。しかし、相手によっては低周波で体調が良くなってしまうらしい。

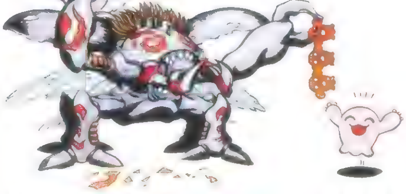
オオクワモン

完全体
ウィルス種
昆虫型



デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

クワガーモンの進化型で、カブテリモン系デジモンより凶々しく進化している。クワガーモンの劣っていた防御面が特に重点的に強化されている。攻撃面では触角の索敵能力が向上し、はさみの攻撃精度が増強された。なお、大きな特徴として生存本能だけでなく、破壊衝動も持っていることが判明した。より攻撃的な進化形態と言える。必殺技は「シザーアームズ」の強化版で、硬度１０のダイヤモンドをも挟み切る「シザーアームズΩ

エンジェウーモン

ANGEWOMON

完全体
ワクチン種
大天使型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

美しい女性の姿をした大天使型デジモン。以前は天使型と分類されていたが、その能力の高さから大天使型と判明した。特徴として、成熟期の天使は6枚の羽を持ち、完全体の天使は8枚の羽を持っている。性格はいたって穏やかだが、まがったことや悪は許しておけず、相手が改心するまで攻撃の手を緩めることはない。その精神とパワーから、デジタルワールドの女神的存在と言われている。必殺技の強力な電撃『ホーリーアロー』は別名「天誅」とも言われ、また、美しさと優しさの詰まった必殺光線『ヘブンズチャーム』は、デジモンの悪しき力が強いほど効果を発揮する。



アラカルト>>>

ヘラクルカブテリモン

究極体
ワクチン種
昆虫型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

カブテリモン種とクワガーモン種のデータを併せ持って進化した究極の昆虫型デジモン。巨大な角とはさみを持ち、正反対の性質だった2種のデジモンの欠点を完全に補った形態といえる。体は黄金色に輝き、アトラーカブテリモンが失った飛行能力も復活強化し、超音速でデジタルワールドを駆ける。もはやこの究極の進化を果たしたヘラクルカブテリモンにかなう存在は少ないだろう。必殺技は「メガブラスター」の強化版「ギガブラスター」。この技を受け消滅しない者は存在しない。

サーベルレオモン

SABERLEOMON

究極体
データ種
古代獣型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

マッハの瞬発力を持つと言われている古代獣デジモン。しかし、その詳細は謎に包まれており、一説にはレオモンが獣化した姿ではないかとも言われている。マッハの瞬発力を持っており、そのスピードはどんなに素早い攻撃でも簡単に避けてしまう。大きく発達した2本のキバと、鋭い爪は絶大な破壊力を持ち究極のデジモンと呼ばれている。必殺技は無数のたてがみの「毛」を硬質化して相手にぶつける「インフィニティアロー」。毛には毒性があり、その攻撃を受けた者は体が麻痺してしまう。そして巨大な爪を使った「ネイルクラッシャー」は相手を八つ裂きにする恐ろしい技。



アラカルト>>>

ホーリードラモン

HOLYDRAMON



究極体
ワクチン種
聖竜型

デジタマ>>> 



アラカルト>>>

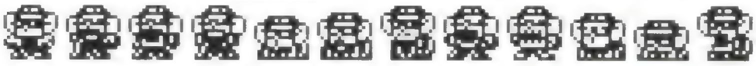
PROFILE >>>

神獣デジモンの究極の形態。その雄々しい姿は空の王者を思わせる。その姿を見た者は少なく、普段はどこにいるのかさえ全く判明していない。しかし、ひとたびデジタルワールドに巨大な悪のエネルギーが発生するとどこからともなく現れ、その巨大な力で悪を無に帰すと言われている。必殺技は全ての正義の光エネルギーを相手にぶつける「ホーリーフレイム」。この技を受けた者は一瞬で姿をかき消される。

メタルエテモン

METALETEMON

究極体
ウィルス種
サイボーグ型



デジタマ>>> 



PROFILE >>>

"キング・オブ・デジモン"。かつてそう呼ばれた最強のデジモンがいた。強者を求め過酷な戦いの旅に出、貴重な戦闘データを得ることができたが、連戦による身体的な損傷もかなりのものであった。そこで戦いで得たデータから自己の弱点を研究し、自らをフルメタル化することで究極の戦闘マシーンとして完全復活した。体表面はメタル系デジモンに使われる「クロンデジゾイドメタル」でフルコーティングしている。基本戦闘能力を最大限に上げておきながら、その必殺技は相手の足をすくう『バナナスリップ』。ストロングスタイルもダーティースタイルもこなす無敵のファイターが誕生した



アラカルト>>>

ゴマモン

GOMAMON

成長期
ワクチン種
海獣型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

陸上での活動が可能になり、体温を保つ毛皮で覆われた海獣型デジモン。体を覆う短く白い体毛は成長するほど長くなり、さらに成長すると茶色く変色していくという。性格は、見るもの全てにちょっかいを出すやんちゃ坊主タイプ。頭から背中にかけて生えている赤い毛はゴマモンの感情に合わせて動き、怒っているときは毛が逆立つ。ゴマモンの爪は硬い氷を簡単に砕くほどで、侮っているといたい目をみる。必殺技は子分の小魚たちを操る『マーチングフィッシィーズ』。

ガニモン

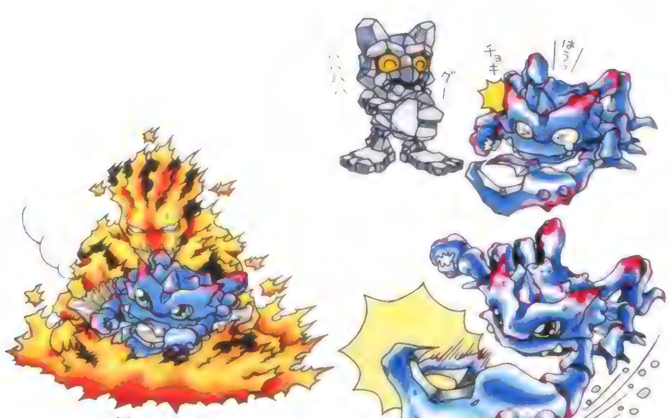
GANIMON

成長期
データ種
甲殻類型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

ネットの海中に溶け込んでいる金属データを体に付着させ、飛躍的に戦闘能力を向上させた甲殻類型デジモン。攻撃は巨大な刃を持つ左前肢と握力の強い右前肢が、防御は攻撃してきた相手にダメージを与えるトゲ付きの表皮が担当し、戦闘には相当の自信を持っている自信家。弱点は間接部分と腹だが、自分でも自覚しているため、なかなか隙を見せない。相手をはめるのが好きな、いたずらっ子的な性格。必殺技は左前肢で相手の首を狙う「シザーズエクスキューション」。

シャコモン

SHAKOMON

成長期
ウィルス種
甲殻類型



デジタマ>>>







甲羅を閉じた姿>>>



アラカルト>>>

PROFILE >>>

硬い殻に覆われている２枚貝の形をしているデジモン。外皮を飛躍的に発達させたため、内部構造は幼年期のようなスライム状になっている。可愛い顔で相手を誘い込み、近づいた相手に攻撃を加えるズルい奴。また、殻を閉じた状態では、ちょっとした攻撃など容易く跳ね返すほどの高い防御力を持つ。必殺技は体内で生成される硬玉を相手に撃ちこむ『ブラックパール』と超高水圧の水流を敵にぶつける『ウォータースクリュー』。

ルカモン

RUKAMON

成熟期
ワクチン種
水棲哺乳類型



デジタマ>>>

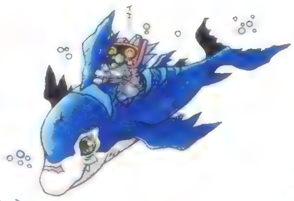




PROFILE >>>

異種族間の会話を研究するソフト中に発生した独特の信号がデジモン化した、特異な存在の水棲哺乳類型デジモン。行動範囲を海中に限定したことにより、高速での海中移動が可能になった。外見から予想される通り、高度な知能を持っているが、思考形態が複雑すぎ常人には理解しがたい。無益な戦闘を好まない種だが、挑んでくる相手に対しては容赦しない。必殺技は通信手段として額から発する超音波を、最高出力にして発する『シェイキングパルス』である







アラカルト>>>

イッカクモン

IKKAKUMON

成熟期
ワクチン種
海獣型

デジタマ >>>





アラカルト >>>

PROFILE >>>

北極探査基地のコンピュータで発見された海獣デジモン。分厚い毛皮と頑丈な体は、極寒の地でも耐えられるような構造をしている。鋭い角はレアメタルのひとつ「ミスリル」でできており、毛皮の下の体皮も同等の硬度を持っている。足先の爪にあたる部分は、自分の意思で高温を発することのできるヒートトップ。そのため氷上では、ガッチリと足場を確保できるが、あまり素早く動くことはできない。戦闘時はライオンに似た堂々とした吠え声で相手を威嚇する。必殺技は再生可能な角を射出する「ハープーンバルカン」。

オクタモン

OCTAMON

成熟期
ウィルス種
軟体型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

邪悪なハッカーが、ウィルスを探索しコンピュータを破壊するために使用したウィルスから発見された軟体型デジモン。収集癖があり、触手の先端にはデビドラモンのデータから得た爪をつけ、ネットの海底から拾った暗宝（アンポウ）を体中にまとっている。頭にかぶっている壷には、貝型デジモンの一種である貝型のフジツモンが付着している。このフジツモンは感覚が発達しており、危険を察知するとオクタモンに知らせるため共存関係が成立していると考えられる。必殺技は、毒性の強い墨のつまった弾を発射する「海鳴墨銃（かいめいぼくじゅう）」。

アラカルト>>>



ゲソモン

GESOMON

成熟期
ウィルス種
軟体型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

ネットの深海に棲むイカの形態をしたデジモン。「深海の白い悪魔」として恐れられているが、知性は高く自分のテリトリーの外にいるデジモンにまで危害を加えることはしない。しかし、いったんテリトリーを侵犯されるようなことがあれば、怒り狂う鬼神のごとく襲いかかる。攻撃のスタイルは一撃を加えると共に、その場から離脱するヒット&アウェイを得意としている。必殺技はたくさんの脚を活かした連打攻撃『デビルバッシング』と、食らうと長時間視覚が麻痺してしまう強力なイカ墨『デッドリーシェード』。

エビドラモン

EBIDRAMON

成熟期
データ種
水棲型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

エビのような硬い殻と巨大なはさみを持ったドラモン系の異端児的存在。見かけにだまされてエビドラモンをあなどると、ドラモン系特有の攻撃力の餌食となる。必殺技は2本のはさみで襲いかかる「ツインネプチューン」。

ズドモン

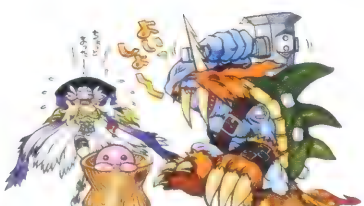
ZUDOMON

完全体
ワクチン種
海獣型



デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>
イッカクモンがさらに進化し二足歩行が可能になったパワー型デジモン。徹底的に鍛え上げられた筋肉を、対戦相手から奪った皮や甲羅で自ら作った防具でさらに守っている。頭の角は再生が不可能になった代りに、これも自ら鋸状に加工した。しかし、なんといっても最強の武器は、太古の氷から掘り起こした、クロンデジゾイド製の「トールハンマー」。必殺技はトールハンマーを振り降ろしたときに生じる衝撃波や火花を相手にぶつける「ハンマースパーク

メガシードラモン
MEGASEADRAMON

完全体
データ種
水棲型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

フォルダ大陸広域の過酷な環境を生き延びたシードラモン種が、更なる強敵のデジタルワールドを生き抜くために進化した形態。体も一回り大きくなり、頭部を覆う外殻も硬度を増し、頭頂部にイナズマ型のブレードが生えている。シードラモン種より知性が発達しており、追尾型魚雷のようにしつこく敵を追い回し、確実に仕留める。必殺技は頭頂部のブレードから発する強力な電撃『サンダージャベリン』。頭部の外殻は、この必殺技を可能にするための発電装置が仕込まれている。





アラカルト>>>

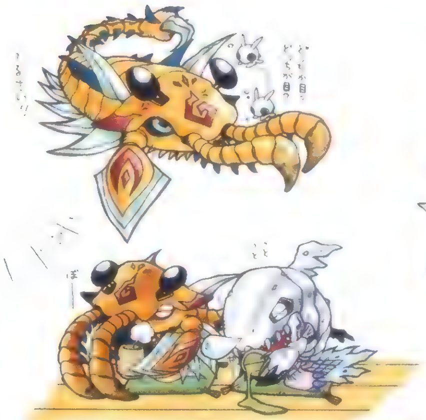
アノマロカリモン

ANOMALOCARIMON

完全体
データ種
古代甲殻類型

デジタマ>>>







メラカルト>>>

PROFILE >>>

古代生物の調査や発掘を行っている研究所のデータバンクにコンピュータウィルスが感染し、古代生物のデータを取り込み進化した。古代に食物連鎖の頂点にいた生物同様、旺盛な食欲と、高い補食能力を身につけている。頭部から生えた触手を器用に使って敵を捕まえ、尻尾から生えた鋭いブレードで仕留める。戦況が不利になると、海底の土を、鋭い触手で巻上げて身を隠す。頭部から突き出ているレーダーアイは暗視装置のように敵を捕捉し、逆転の機会を狙う。必殺技は左右の前肢をクロスさせ放つ『スティンガーサプライズ

ダゴモン

DAGOMON

完全体
ウィルス種
水棲獣人型



デジタマ>>>



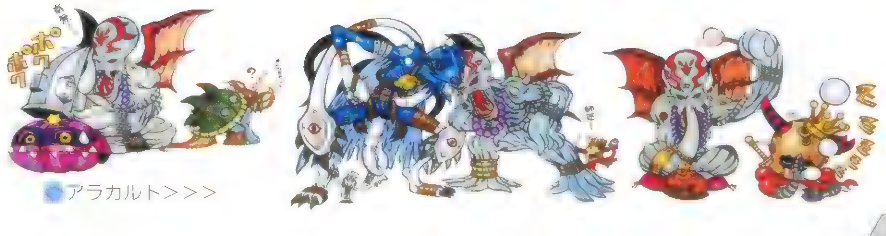


一面図>>>



PROFILE >>>

「海底の破戒僧」と呼ばれる邪神デジモン。船舶などのコンピュータに感染して、方位や航路を狂わせていたコンピュータウィルスが進化したと考えられている。無数に増える触手を束ね、人型に姿を変えているが、その正体は奇怪な軟体型デジモンの進化型である。必殺技は凄まじい腕力で二つ叉の銛を投げつける「フォービドゥントライデント」。倒した相手には、首の数珠を持ち、弔うようなポーズをとる。



アラカルト>>>

マリンデビモン

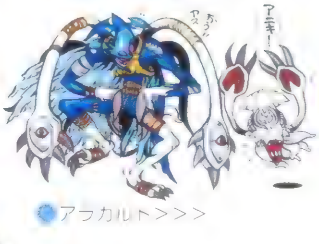
MARINDEVIMON

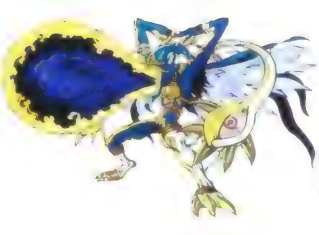
完全体
ウィルス種
水棲獣人型



デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

あのデビモンでさえ、対戦を嫌がるダーティーファイター。デビモンの亜種だが、孤独な深海の生活から、憎悪以外の感情を無くしてしまっている。勝つためには手段を選ばず、相手が戦意を喪失しても攻撃の手をゆるめない。背中から生えた2本の触手は、それぞれ意思を持っていて、獲物を取り合って勝手に行動する。必殺技は口から猛毒の墨を発射する『ギルティブラック』。

ハンギョモン

HANGYOMON

完全体
データ種
水棲獣人型



デジタマ>>>



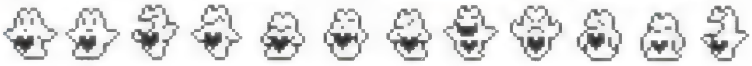
PROFILE >>>

ウェットスーツを着た水棲獣人型デジモン。陽気な性格で、いつも「ネットの海」を泳ぎまわっている。水の中での活動が得意で、戦闘では背中の水中高速移動モーターを使い、スピードを活かした戦い方をする。必殺技は愛用のモリ「トレント」で敵をさす「ストライクフィッシング」。

マリンエンジェモン

MARINANGEMON

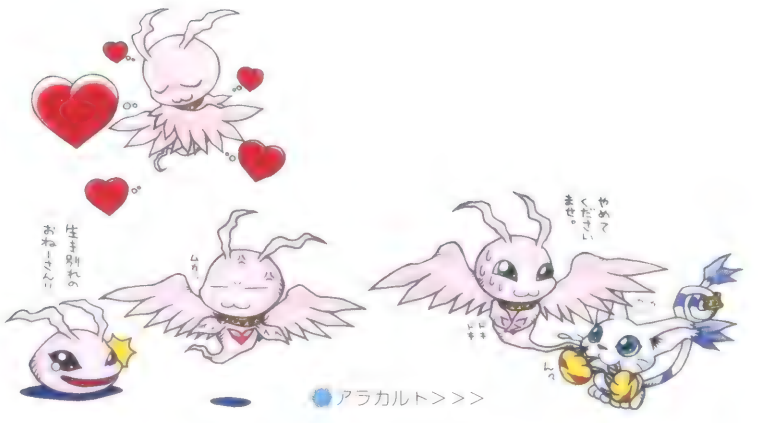
究極体
ワクチン種
妖精型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

滅多に、その姿を見ることのできないネットの海に棲む妖精型デジモン。エンジェモンの名前を持っているが、生態系としては全くエンジェモン系とは別の種族である。マリンエンジェモンの首についているリングはホーリーリングと呼ばれ、テイルモンやエンジェウーモンなども付けている所から聖なるデジモンと何か関係があると思われる。そこに刻まれている文字は今だ解明されていない。基本的に戦闘は好まないが、必殺技である『オーシャンラブ』はあらゆる敵の戦意を喪失させ、結果的に勝利をおさめることになる

メタルシードラモン

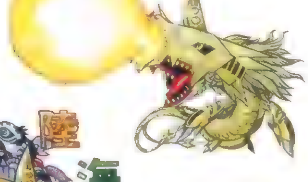
METALSEADRAMON



究極体
データ種
サイボーグ型

デジタマ>>>









アラカルト>>>

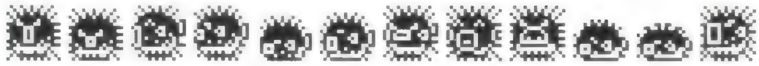
PROFILE >>>

全身を最強金属のクロンデジゾイド合金で覆われたシードラモン種の最終形態。このメタルボディは、あらゆる攻撃を跳ね返す。更に水棲デジモンの中では最速の移動スピードを持っている。メタルシードラモンは水中迎撃用デジモンとして改造された。これにより陸海空全ての迎撃用デジモンが完成した。必殺技は鼻先の砲身から打ち出されるエネルギー砲『アルティメットストリーム』

プクモン

PUKUMON

究極体
ウィルス種
突然変異型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

英国一の最強ハッカーが、自らの持てる知識を全て注ぎ込んだコンピュータウィルスが突然変異をおこし、誕生した英国産のパンクスデジモン。サイズは小さいが、デジタルワールドでも一、二を争う反抗的性格。自分より相手が強かろうが弱かろうが喧嘩を売らずにはいられない。基本的には殴り合いで決着をつけるのが流儀だと考えているが、最終兵器としてクロンデジゾイド製のメタルヘッドから超硬度のトゲを一斉に飛ばす必殺技『ニードルスコール』を持っている

プレシオモン

PLESIOMON

究極体
データ種
首長竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

イギ[illegible]ス未確認生物研究所[illegible]タ内で発見された空想上の存在だったデジモン。すで[illegible]研究者の間では噂になっていたデジモンだった。滅多に姿を現わすことはない。霧に包まれ視界が悪くなると出現するらしい。その姿は[illegible]輝き[illegible]印象を受ける神秘的な存在。甲高く、透き通るような声で鳴き、聞くものを悲しみな気分に[illegible]戦意を喪失させる[illegible]

デジコラム1

アラカルトイラスト1

「デジモンウェブ公式」ツイッターアカウント(@bandai_digimon)で投稿されたイラストを一挙公開！　2017年5月の「デジタルモンスター」誕生20周年に合わせて開設されたツイッターアカウントでは、最新のグッズ情報や時事イラストを配信してきた。その中でも、無料通話アプリで使えそうな、デジモンたちのイラストをまとめた





デジコラム2

アラカルトイラスト２

引き続き、「デジモンウェブ公式」ツイッターアカウントで投稿されたイラストの一部を掲載。お正月や冬季オリンピック、「デジモンペンデュラム ver.20th」予約開始、「デジモンリアライズ」の発表など、時事に合わせた可愛らしいイラストたち。このイラストを見て、投稿された時期のことを思い出してみてはいかがだろうか。





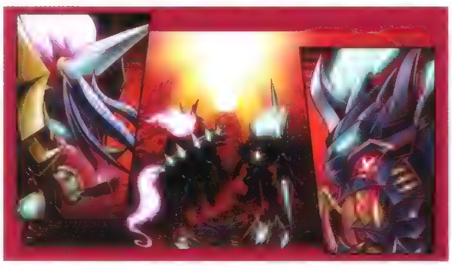
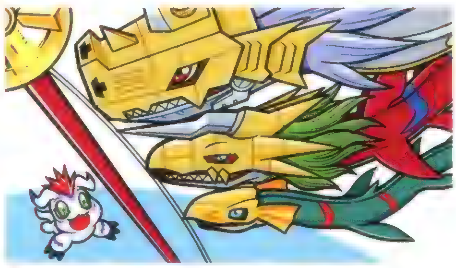
















モクモン

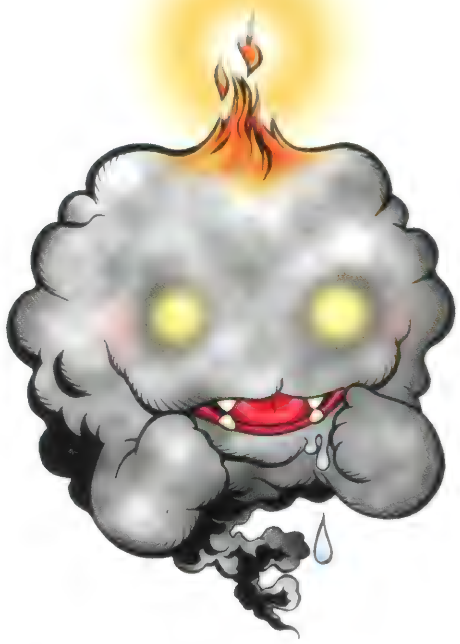
MOKUMON

幼年期 I

スモーク型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

体中に煙のような気体を取り巻いているデジモンベビー。デジモンの体の中にあるといわれている電脳核（デジコア）が剥き出し状態の特殊なデジモンで、そのデジコアをスモークで守っているらしい。モクモンはデジコアが剥き出し状態なので、燃焼したときのスモークが体を覆っている変わった生態系のデジモンである。体から出るスモークを辺り一帯に撒き散らし、その隙に逃げてしまう。

プチメラモン

PETIMERAMON

幼年期 II

火炎型

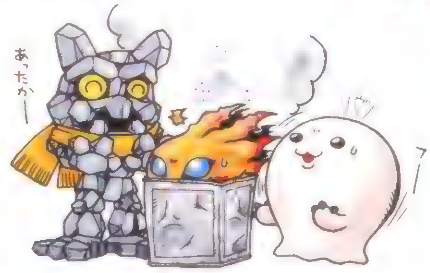


デジタマ>>>





アラカルト>>>



PROFILE >>>

モクモンの進化系デジモンで、小さい体ながらデジコアを激しく燃焼させているため、体中が燃えている姿をしている。小型デジモンにしては気性が荒いため、デジコアを激しく燃焼させており、攻撃的な性格ではあるが、まだまだ攻撃力が低いためまともに戦うことはできない。また、水系・氷雪系のデジモンが非常に苦手で、出会うと直ぐに逃げ出してしまう。ちなみにメラモンとの関係は今だ不明。口から小さな火炎弾を吐き出し相手に攻撃するが威力はイマイチ。

バクモン

BAKUMON

成長期
ワクチン種
霊獣型



● デジタマ >>>







● アラカルト >>>

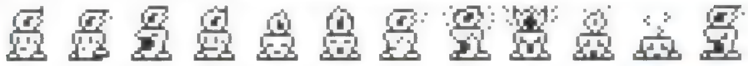
● PROFILE >>>

夢を食べると言われているバクの姿をしたデジモン。脳波を検知する医学用コンピュータから発生したデジモンと見られており、人間の睡眠状態のデータを栄養としているらしい。最近の研究では、特に悪夢や有害なコンピュータウイルスを消去する力を持っていることが判明した。また、取り込んだ悪夢やウイルスを正常なものに変換させる能力をもっており、聖なるデジモンとして考えられている。その神聖さや特殊な能力も、前肢に付けている「ホーリーリング」とも何かしらの関係が有るのだろう。必殺技は取り込んだ悪夢を一気に放出して相手を恐怖に落とす「ナイトメアシンドローム」。パーフェクトデジモンの「デジタマモン」と同じ技だが、バクモンとの関係は謎。

キャンドモン

CANDMON

成長期
データ種
火炎型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

デジモンの心臓部ともいえるデジコアを頭につけ、激しく燃焼させている火炎型デジモン。頭の上で燃えているデジコアの火が消えると、キャンドモンは生命活動を維持できなくなってしまう。一説には頭上の炎が本体で、体の部分はダミーではないかと言われている火炎型のデジモンにしては性格はおとなしく、自ら周りに危害を加えることは無い。必殺技は小さな火球を吐き出す『ボンファイア』

ピコデビモン
PICODEVIMON

成長期
ウィルス種
小悪魔型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

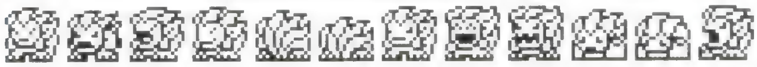
PROFILE >>>

コウモリの姿をした小型の使い魔デジモン。デビモンやヴァンデモンなどの上級デジモンの使い魔として存在しているが、天使系デジモンだったデビモンをそそのかし、ダークサイドに引き込んだ張本人とも言われている。攻撃力などは強くないが、悪知恵が働きあちらこちらで悪さをしたりしている。闇を好み、いつも上級デジモンといることが多く、単体で目撃することは稀だろう。必殺技は大きな注射器を投げつけ、相手から血を抜き取ってしまう「ピコダーツ」。

ハヌモン

HANUMON

成熟期
ワクチン種
獣人型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

黄金色の体毛を持つ伝説の獣人型デジモン。中央アジアのネットワーク圏で、多数の目撃例は報告されていたが、その存在を裏付ける証拠が見つかっていなかった。非常に希少であり、悪質なコンピュータウィルスなどを撃退する能力に優れているため、一部の人間たちにとっては幻のデジモンと言われていた。雲か煙のようなものに乗り、ネットワーク内を高速で駆けまわるという噂もある。必殺技は金属質の体毛を、さらに硬化させて打ち出す「怒髪天」とはこんい

アラカルト>>>

ウィザーモン
WIZARMON

成熟期
データ種
魔人型



デジタマ>>>



PROFILE >>>
別次元のデジタルワールドからやってきた上級の魔人型デジモン。故郷のデジタルワールド「ウィッチェルニー」で全ての魔法(高級プログラム言語)をマスターし、大魔道士になることを目指していたが、修行のためデジモンワールドに現れた。少々いたずら好きな性格だが、恥ずかしがりやの一面も持つため、決して素顔を見せようとしない。必殺技は雷雲を呼びだし、強烈な雷撃をくり出す「サンダークラウド」。





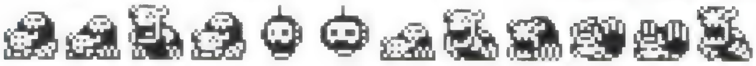


アラカルト>>>

ドクグモン

DOKUGUMON

成熟期
ウィルス種
昆虫型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

自身にコンピュータウィルスを寄生された、蜘蛛の姿をした呪われしデジモン。もともとは蜘蛛型とは言え、昆虫系の普通で大人しいデジモンにすぎなかったが、ある時、強力な電磁波の嵐に巻きこまれ、ネットワークを飛び交っていたコンピュータウィルスに感染してしまった。それ以来、触れるだけで全てを腐食させる、コンピュータウィルスと言う毒の塊となってしまった。また、8本の足を使ったその移動力は特筆すべきものがある。誰がどんなに全力で逃げようとしても、ドクグモンは必ず背後にへばりつき、相手が疲れ果て足を止めるまで追跡を止めることは無い。そして相手が安らかな寝息を立てるとき、凶悪な牙から発せられる恐るべき毒の攻撃「スティンガー・ポレーション」で敵を仕留める。

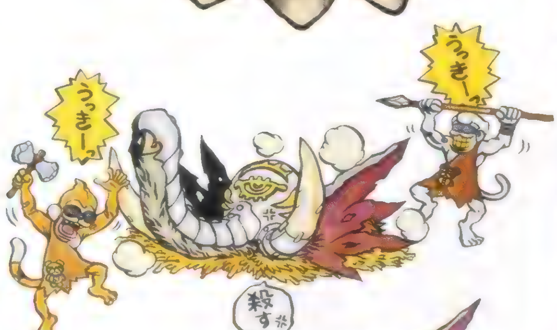
マンモン

MAMMON

完全体
ワクチン種
古代獣型

デジタマ>>>









PROFILE >>>

数々の形跡から、遥か昔に存在していた事実は明らかになっていた古代デジモン。デジタルワールドの温暖化によって、超圧縮されていたデータが解凍され、氷に閉ざされていた雪エリアから姿を現した。全身を濃い体毛で覆われ、大きく強大なパワーを持つデジモンだが、極端な熱さに弱い一面を持つ。顔面を覆う仮面に刻まれた紋章は、超古代の英知の結晶であり、遥か彼方まで見通すことができる千里眼の力を持ち、大きな耳は遠く離れた場所の音まで聞き分ける。必殺技は長く伸びた２本の牙で相手を突き刺す『タスクストライクス』と、長い鼻から一気に冷たい息を吐き出して、どんな相手も一瞬で凍らせる『ツンドラブレス』。

アラカルト>>>

デスメラモン

DEATHMERAMON



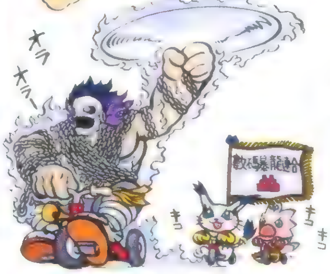
完全体
データ種
火炎型

デジタマ>>>













アラカルト>>>

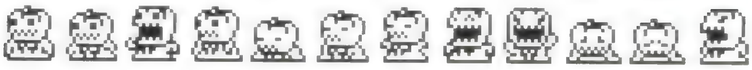
PROFILE >>>

高熱の青い炎に身を包んだメラモンの進化系デジモン。メラモンよりも高熱の炎のため、体から噴き出る炎は青く燃え盛っている。攻撃力・防御力共に数段アップし、炎の威力も加わって超絶な破壊力を持つパワータイプである。火炎型系デジモンは水系や氷雪系に弱いが、デスメラモンの火力の前には、焼け石に水状態である。必殺技は体内で重金属を溶かして、敵に吐きかける『ヘヴィーメタルファイアー』

パンプモン

PUMPMON

完全体
データ種
パペット型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

カボチャの頭をもつヌイグルミのデジモン。欧米のお祭りである「ハロウィン」の時期になると発生していたコンピュータウィルスが突然変異を起こしてパンプモンになったという都市伝説がある。しかし、悪質なウィルスではなかったので危害を加えることは一切ないが、見た目の姿とは裏腹に強力な攻撃力の持ち主でもある。とぼけた顔を見ても分かる通り、喜怒哀楽の表現に乏しい所がパペット系デジモンの特徴である。必殺技は巨大なカボチャを空中に出現させて、敵を押しつぶす『トリックオアトリート』。



アラカルト>>>

ヴァンデモン

VAMDEMON

完全体
ウィルス種
アンデッド型

デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

闇の術方により蘇り、強大なパワーを手に入れたアンデッドデジモンの王。もともとコンピュータのデータを吸収しては破壊する凶悪なコンピュータウィルスで、破壊したデータを悪質なコンピュータウィルスとして復活させる能力を持っていた。非常に残忍かつ狡猾な性格の持ち主で、このデジモンを駆逐するのは非常に難しい。しかし、そのパワーも夜間でないと発揮できず、昼間はパワーが半減してしまうと言われている。必殺技は無数のコウモリを操り、奇襲をかける『ナイトレイド』。

ファントモン

FANTOMON



完全体
ウィルス種
ゴースト型

デジタマ>>> 









PROFILE >>>

巨大な鎖鎌を持った死神のようなデジモン。バケモンとは違い上級のゴーストデジモンで、ファントモンにとり憑かれたが最期、完全に死が訪れるだろう。首からぶら下げている眼球の形をした水晶は、マンモンの紋章と同じく千里眼の力で全てを見通すことができるため、死期の近い者を見抜いてしまう。体を覆う布の中身は別次元のデジタルワールドに通じていると言われ、必殺技は巨大な鎖鎌で敵の魂をも切り裂く『ソウルチョッパー』。この技を受けたものは魂ごと消滅してしまう

アラカルト>>>

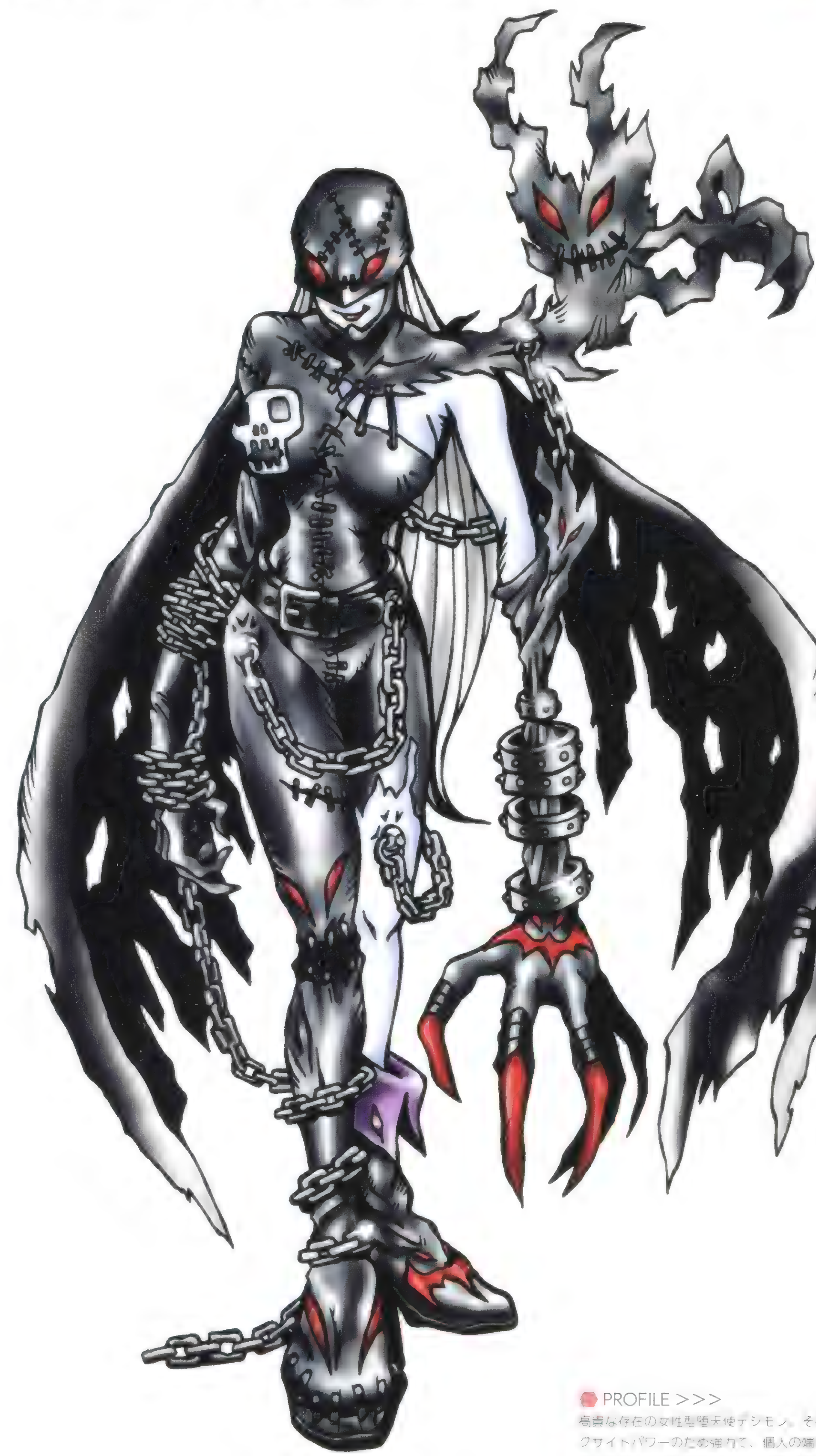
レディーデビモン

LADYDEVIMON

完全体
ウィルス種
堕天使型



デジタマ>>>



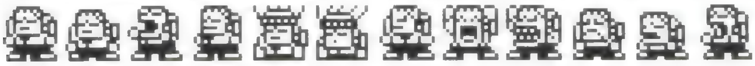
PROFILE >>>

高貴な存在の女性型堕天使デジモン。その強力無比で高純度のダークサイトパワーのため強力で、個人の端末で育て続けた例は限りなく0に近いといわれている。必殺技『ダークネスウェーブ』は、コウモリのような暗黒の飛翔物を無数に放って相手を焼き尽くす。もうひとつの必殺技『プワゾン』は、相手の持つパワーをダークエネルギーと相転移し、敵を内から滅殺する。相手のパワーが大きいほどこの技は完全なものとなる。

ボルトモン

BOLTMON

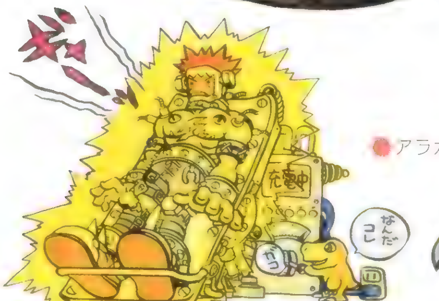
究極体
データ種
サイボーグ型



デジタマ>>>







アラカルト>>>



PROFILE >>>

アンドロモンと同時期に造られた試作型サイボーグデジモン。機械ベースで作られたアンドロモンとは違い、死体ベースで造られたボルトモンは感情を持ち、パワーも優れていたが、制御が難しく暴走してしまい、闇に葬られてしまった。自らの存在を否定され悲しみの闇の中でさまよう悲運なデジモンである。必殺技は巨大なトマホークを軽々と扱う「トマホークシュタイナー」。

ピエモン

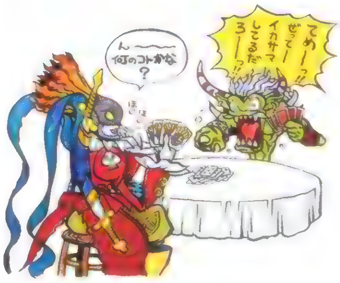
PIEMON

究極体
ウィルス種
魔人型



デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

奇抜な姿と神出鬼没な、全てが謎に包まれている魔人型デジモン。魔人型のデジモンは謎の部分が多く、悪魔系や、アンデット系とはまったく別次元的な存在で、正体はまったくの不明である。何のために出現したのか、その存在目的も不明であり、それを解明する手段も現時点では無い。しかし、その力は強力無比であり、ピエモンと出会ってしまった場合は、己の運命を呪うしか無いだろう。必殺技は背中の「マジックボックス」につきたてた４本の剣をテレポートさせ、次の瞬間には敵を串刺しする脱出不可能な技『トランプ・ソード』。

デジコラム3

アルマジモンのアーマー進化

デジタルワールドの創世記に生息していたデジモン、「古代種」。古代種のデジモンたちは進化の可能性が少ない代わりに、「デジメンタル」のパワーを使用して「アーマー進化」をすることができる。アニメーションや液晶玩具「D-3 VERSION3」で初登場した、アルマジモンが進化できる「アーマー体」の姿を網羅する。



アルマジモン

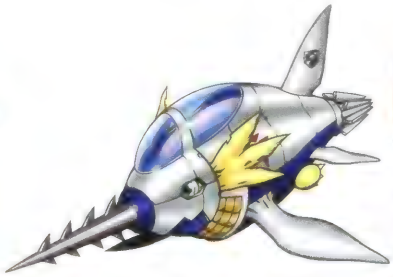
硬い甲羅で体を覆われた哺乳類型デジモン。のんきで愛嬌のある性格で、お調子者。必殺技は体を丸めて敵に突進する、『ローリングストー[illegible]』



知識のデジメンタル

ディグモン

「知識のデジメンタル」で[illegible]の属性を得て、大地を操る力を持つ[illegible]地中での戦いにおいて右に出るものはいな[illegible]必殺技は[illegible]



誠実のデジメンタル

サブマリモン

"水"の属性を持つ「誠実のデジメンタル」で、水中での活動に特化した水棲型デジモン。必殺技は水中で回転しつつ体当りする『サブマリンアタック』。







愛情のデジメンタル

プテラノモン

鉄鋼の翼を持つ翼竜型デジモン[illegible]優れた[illegible]視力で、1万メートル上空からでも敵を攻撃できる。上空から[illegible]落下[illegible]、鋭い[illegible]で敵を射抜く。

奇跡のデジメンタル

エレファモン

巨体による超パワーを持ち、両耳の巨大タービンで高速移動できるサイボーグ型デジモン。空は飛べないが、ホバリング機能で水上でも移動できる。

勇気のデジメンタル

ボアモン

額にクロンデジゾイド製の「突撃額当て」がついている哺乳類型デジモン。一度突進を始めると止まることはなく、前方の障害物を全て砕いて移動する。



友情のデジメンタル

セピックモン

仮面の力により死者の魂との会話ができる、魔人型デジモン。必殺技は変幻自在の軌道で敵を翻弄する、呪いの武器「[illegible]」。



希望のデジメンタル

シープモン

体を極上の羊毛で覆われた、動きの遅いデジモン。背中の「ウールボール・ブースター」は、低速での移動や、敵を眠りに落とす攻撃などに使われる。







純真のデジメンタル

フロッグモン

非常に柔らかい半透明のマスク[illegible]敵の攻撃エネルギーをゼロにする水棲型デジモン。背中[illegible]空を飛び、[illegible]度で長距離移動ができる[illegible]

光のデジメンタル

シーホモン

ネットの海の最も深い海溝に生息し、水深の浅い海域まで上がってくると体が大きくなる。口から七色の光線を吐き出し、敵の心をすべて浄化する。

優しさのデジメンタル

カメレモン

隠密行動に適したデジモンで、周囲の環境をスキャンして皮膚のテキスチャを張り替え同化する。伸縮自在な舌を鞭のように使用して、敵を攻撃する。

ニョキモン

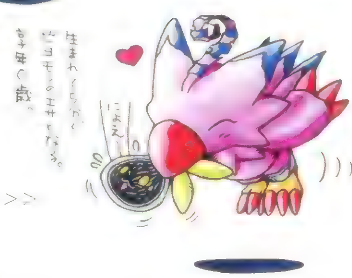
幼年期Ⅰ
種子型

デジタマ>>>





アラカルト>>>



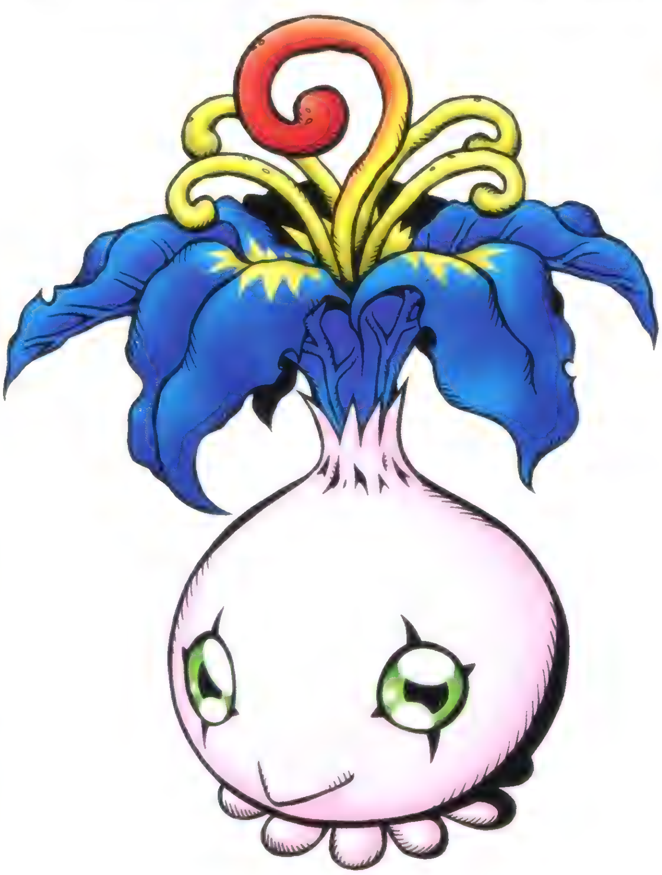
PROFILE >>>

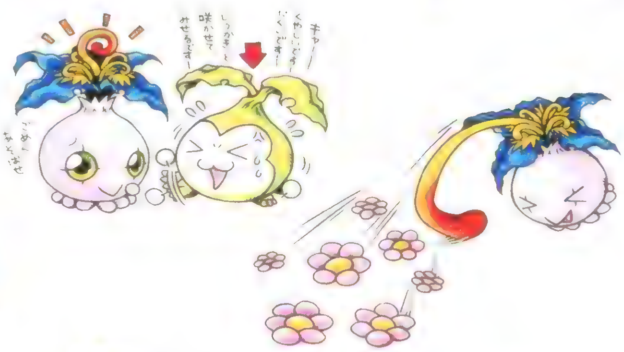
体の表面を透明な体組織に覆われた種子型のデジモン。透明な表皮の中にはボタモンの変種らしき本体が確認できる。おそらくボタモン種が草体化した姿と考えられる。そのため植物系のデジモンだけではなく、竜系等のデジモンへの進化の可能性を秘めている。性格はいたって穏やかで、臆病な面も持っている。攻撃力は無く、弾ける種子の『シードクラッカー』を飛ばして、相手が驚いている間に、こ[illegible]けて[illegible]まう

ピョコモン

幼年期Ⅱ
球根型

デジタマ>>>





アラカルト>>>



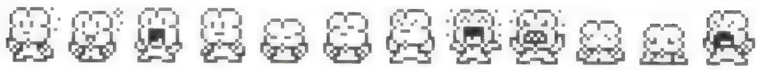
PROFILE >>>

頭に大きな花を咲かせた球根型のレッサーデジモン。根のような触手を器用に動かすことで移動することができ、短い距離だがフワフワと空に浮かび上がることができる。好奇心旺盛で、ちょこまかと動く姿は非常に可愛らしい。群れをなして生活する習性があり、群れによっては数匹から数百匹にもなるという。

フローラモン

FLORAMON

成長期
データ種
植物型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

パルモンと同じく爬虫類的に進化したが、分類上は植物型の珍しいデジモン。顔全体が花の形をしており、普段は花びら型の外殻をヘルメットのようにして頭部を守っている。外敵がいないときや、機嫌が良いときは頭や両腕の花びらを大きく開いている。パルモンをライバル視しており、非常にプライドも高い性格。必殺技は両腕の花から、アレルギーを引き起こす花粉を発生させる『アレルギーシャワー』。この技を受けると、大型のデジモンでも平常心を保つことができず、戦意を喪失してしまう

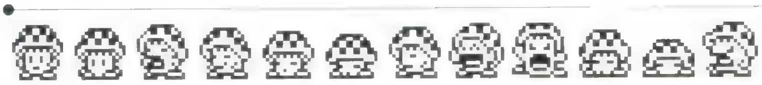


アラカルト>>>

Chapter1>>> DIGITAL MONSTER ART WORK

マッシュモン

成長期
ウィルス種
植物型



デジタマ>>>











アラカルト>>>

PROFILE >>>

毒々しいキノコの形をした小型の植物デジモン。マッシュモンの体からはあらゆる症状を引き起こす、毒性の強い小型キノコ爆弾が生えている。このキノコ爆弾を受けると笑いが止まらなくなったり、体が麻痺してしまったり、今までの記憶が消えてしまったりと、様々な症状がおきる。性格は非常に意地悪で弱い者いじめが好きだが、恥ずかしがりやの一面も持っており、いつも顔半分を隠している。必殺技は小型キノコ爆弾を一斉に放出する『ポイズン・ス・マッシュ』。

ブイドラモン

V-dramon

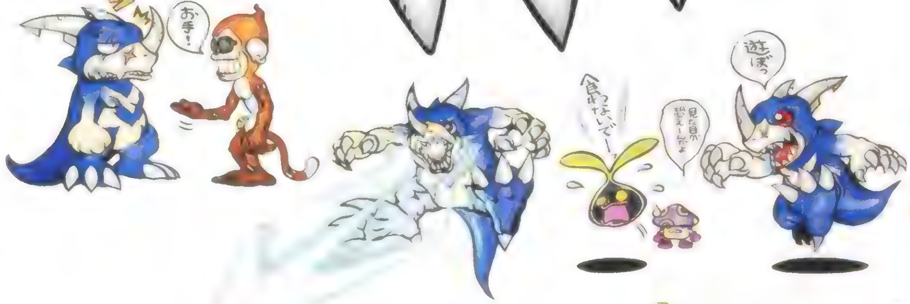
成熟期
ワクチン種
幻竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

広大なデジタルワールドでも、フォルダ大陸にしか存在しないと言われている、幻の古代種デジモン。その存在は非常に貴重であり、フォルダ大陸でも滅多に出会うことは無い。また、ブイドラモンを手なずける事ができたデジモンテイマーも1人しかいないと言われている。胸にある「V」型の模様からブイドラモンと呼ばれるようになったこと以外その生態系は謎であるが、何故か犬に間違えられる。成熟期の中でも並外れた攻撃力の持ち主であるが、窮地に立たされると完全体をも凌ぐパワーを発揮する。必殺技は口から吐き出す高熱の熱線『ブイブレスアロー』。

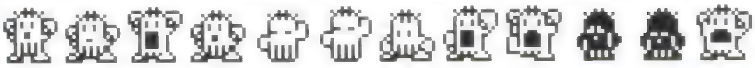


アラカルト>>>

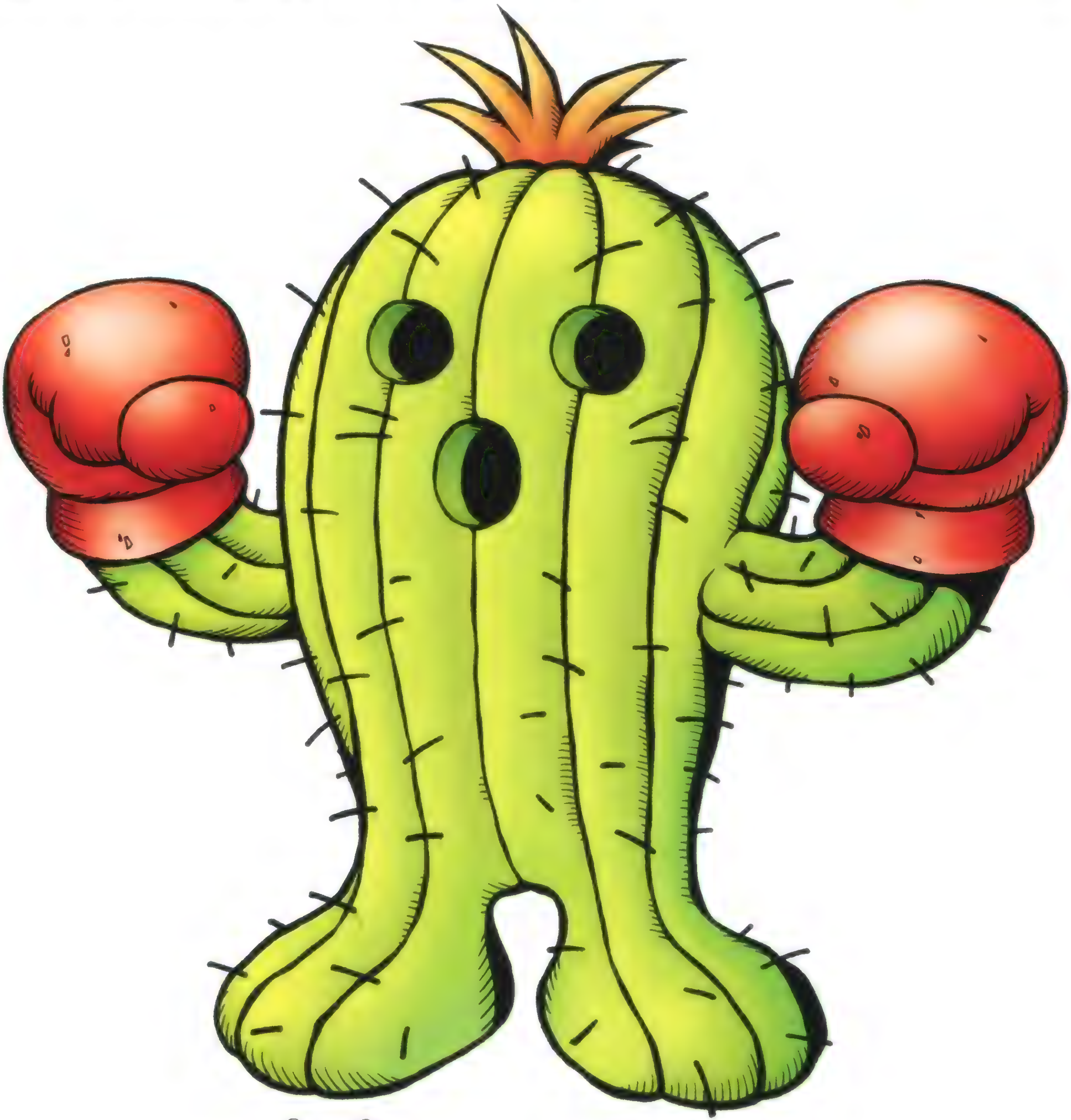
トゲモン

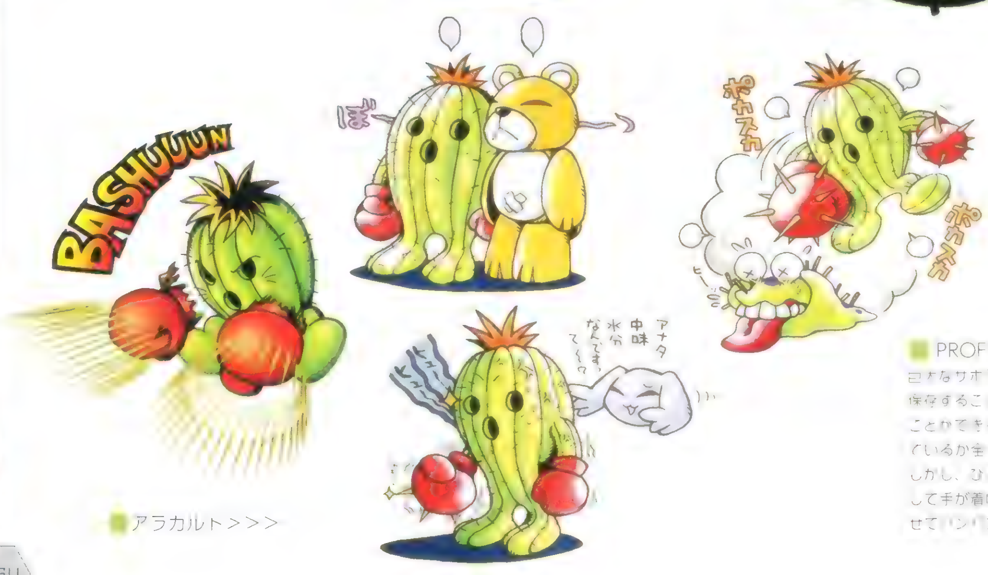
TOGEMON

成熟期
データ種
植物型



■デジタマ>>>





■アラカルト>>>

■PROFILE >>>

巨大なサボテンの姿をした植物型デジモン。体内に栄養素データを保存することができ、何も無い砂漠地帯でもしばらくは生きていくことができる。その表情からも見てとれるように、普段は何を考えているか全く分からず、1日中ボーッとしていることがほとんど。しかし、ひとたびトゲモンを怒らせるとその形相が一変し、暴れ出して手が着けられなくなる。必殺技は腕先のトゲをさらに硬質化させてバンバン殴る「チクチクバンバン」。

キウイモン

KIWIMON

成熟期
データ種
古代鳥型



デジタマ>>> 



PROFILE >>>

インターネットの普及で乱獲にあい絶滅したと言われていた幻の古代デジモン。鳥型のデジモンだが、羽は完全に退化しており空を飛ぶことはできない。しかも、植物型の構造を持っており、頭部に生えている葉っぱのようなもので光合成をして栄養を補給することができる。頭部を覆う硬質の外殻以外、身を守るすべが無く、温和な性格のため外敵に襲われやすい。必殺技は体内に隠れているチビキウイモンを使って敵を攻撃する「リトルペッカー」。キウイモン同様、チビキウイモンのクチバシは非常に硬質で、攻撃を受けると爆発する恐ろしい技。爆発後は真っ黒コゲになっても、チビキウイたちはちゃんと戻ってくる。



アラカルト>>>

ウッドモン

WOODMON

成熟期
ウィルス種
植物型



デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

枯れ果てた大木の姿をした植物型デジモン。普段は普通の木になりすまし、そばを通りかかるデジモンを捕まえてはエネルギーを吸収して生きている。また、木の根のような足で移動することもできる。性格は狂暴で、怒らせると攻撃の手を休めることは無い。硬い木の幹を持つため防御力は高いが火に弱く、メラモンやバードラモンなどの火炎系デジモンが非常に苦手であり、敵対視している。必殺技は枝状の腕を伸ばして敵を突き刺し、エネルギーを吸い取ってしまう『ブランチドレイン』

レッドベジーモン

成熟期
ウィルス種
植物型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

全身が赤く熟したベジーモンの強化版デジモン。まだ成熟していないベジーモンとは違い、攻撃力が強く、知性も高い。この赤く熟した姿こそがベジーモン本来の姿であり、より過酷な環境であるフォルダ大陸での環境がベジーモンを本来への姿にしたのであろう。性格はより陰険に、より狡猾になっている。必殺技は強烈な臭いと毒素を帯びた息を吐き出す『ハザードブレス』。ベジーモンだと思ってうかつに手をだすと酷い目に合うことは間違い無いだろう。

エアロブイドラモン

AERO V-DRAMON

完全体
ワクチン種
聖竜型

デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

ブイドラモンがさらに進化し、空中での移動が行えるようになったのがエアロブイドラモンである。希少種であるブイドラモンの中でも、数々の戦いをくぐり抜いて来た歴戦の強者のみが進化できると言われ、その存在はもはや伝説となっている。翼を得た進化だけではなく体の各所がより格闘的に進化し、より高い攻撃力と防御力を身につけている。そこに空中からの攻撃を加えれば、もはやエアロブイドラモンにかなう敵はいないであろう。必殺技は鼻先のツノと翼のエッジ部分をつなぐようにV字状のエネルギー体が形成され、敵に向かって飛んでいく『Vウィングブレード』と、竜の形をした衝撃波を飛ばす『ドラゴンインパルス』。『Vウィングブレード』は翼の剣が敵を切り裂く技だが、飛行中でないと使用できないのが欠点

ガルダモン

完全体
ワクチン種
鳥人型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

大空を自在に舞うことのできる翼と、巨大な鉤爪を持つ鳥人型デジモン。ガルダモンは正義と秩序を重んじ、自然を愛する大地と風の守護神でもある。鳥型デジモンの中でも知性と戦闘能力の高い、選ばれしデジモンのみ進化すると言われ崇拝されている。デジタルワールドの秩序が乱れると、どこからともなく現れ、乱れの根源を正し平穏に導くと考えられている。また、同じ志を持つ勇者レオモンとは無二の親友でもある。必殺技は超速で真空刃をくり出し、敵を切り刻む『シャドーウィング』。シャドーウィングはあまりの速さのため、その正体を確認することはできず、黒い鳥の形をした影のみ認識することができる





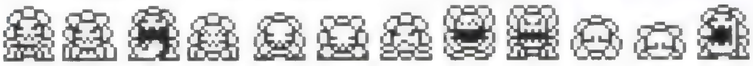


アラカルト>>>

ブロッサモン

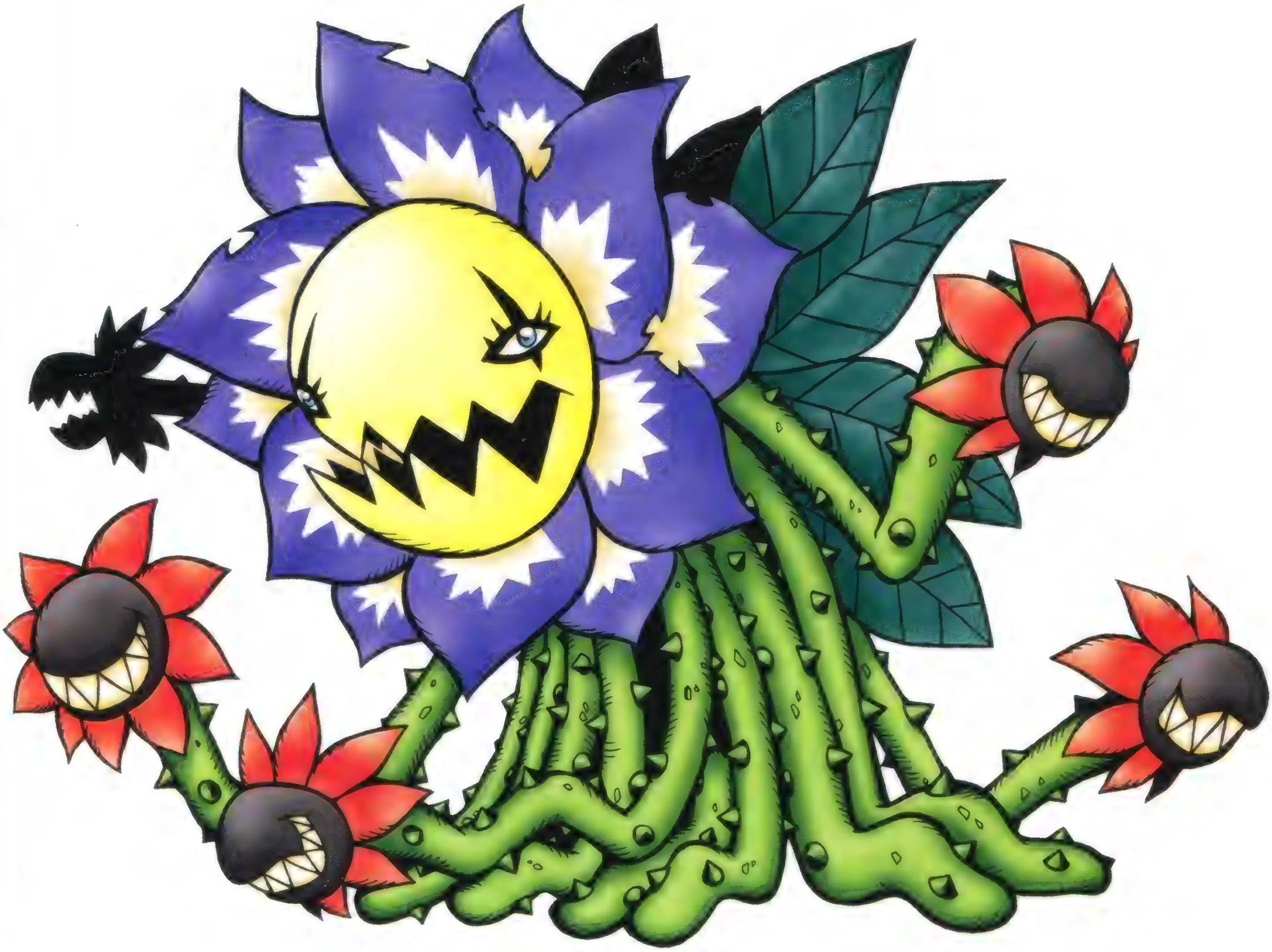
BLOSSOMON

完全体
データ種
植物型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

巨大な花の姿をして、体からは何本もの触手を生やした植物型デジモンの完全体。見た目の奇怪さとは裏腹に非常におとなしく、中々人前には姿を現さない性格。植物にしては珍しく非常に寿命が長く、季節が変わる度に体（顔？）の周辺にある花びらが抜け落ち、新しい花びらを付ける変わった特性を持っている。乾燥した場所を嫌い、いつも水辺のある地域に生息している。必殺技は触手の先に付いている小型の花を手裏剣のように飛ばす『スパイラルフラワー』。この花の花びらはどんなに硬いものでも切り裂いてしまう。

デラモン

DERAMON

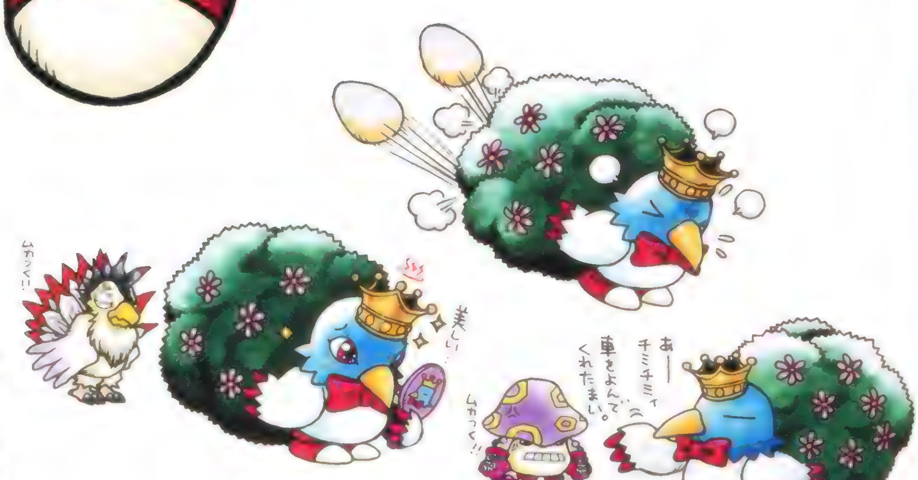
完全体
データ種
鳥型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

一見鳥型のデジモンにも見えるが、背中には青々と茂る植物を生やした奇妙なデジモン。キウイモンと同じく、植物の特性を持っており空を飛ぶことはできない。非常にプライドが高く、自分を高貴な存在だと信じているが、空を飛べないことが本当は悔しいと思っている。しかし、完全体まで進化したデジモンだけあり、戦闘能力は高く実力も備わっている。頭に乗せた王冠と黄金色に輝くクチバシが自慢。必殺技は背中の茂みからタマゴか木の実のような不思議なものを発射する「ロイヤルナッツ」。



アラカルト>>>

ジュレイモン

JYUREIMON

完全体
ウィルス種
植物型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

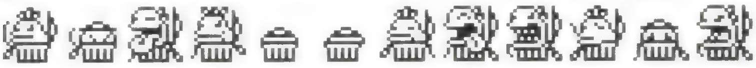
PROFILE >>>

ウッドモンがさらに進化し、非常に高い知性とパワーを得たデジモンがジュレイモンである。樹海の主と呼ばれ、深く暗い森に迷い込んでしまったデジモンをさらに深みに誘い込み、永遠にその森から抜け出せなくしてしまう恐ろしいデジモンでもある。体からは幻覚を見せる霧を発生させ、森の深みに誘い込み、枝のような触手やツタで敵を取りこんで自らの栄養としてしまう。長生きしているウッドモンを見かけたら、ジュレイモンに進化する前に倒すことが得策だろう。必殺技は頭部の茂みに生える禁断の木の実『チェリーボム』。甘い香りに誘われて、この木の実を口にすれば確実な死が待っている。

ガーベモン

GERBEMON

完全体
ウィルス種
突然変異型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

デスクトップ上にあるゴミ箱自体が生命を得て進化したミュータントデジモン。データのカスが突然変異をおこしたスカモンとは違い、ゴミ箱自体がこのデジモンである。今まで最弱と言われていた汚物系のデジモンではあるが、このガーベモンの出現により、その常識は一変するだろう。また、このゴミ箱はブラックホールのようになっており、このゴミ箱に吸い込まれたものは、デジタルワールドから跡形も無く消去されてしまう。必殺技は空き缶を繋げて作ったバズーカから発射される最悪の攻撃『ウンチバズーカ』

アラカルト>>>

リリモン

LILIMON

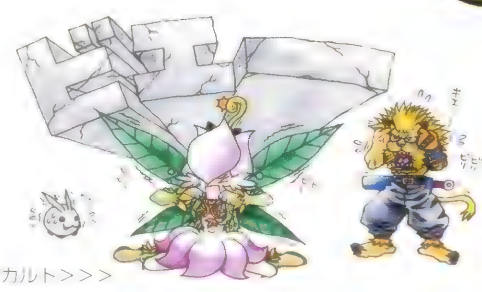
完全体
データ種
妖精型

デジタマ>>>









アラカルト>>>

PROFILE >>>

美しく咲いた花弁から生まれた妖精型デジモン。見た目は人間の子供のような姿をしているが、計り知れないパワーを秘めている完全体のデジモンである。気まぐれでお転婆な性格で、同じような気質を持っている人間の少女には心を開くと言われている。また、泣き虫で泣き出すと手がつけられなくなるので、手なずけるには努力が必要である。しかし、小さなものや弱いものには優しく手を差し伸べる一面もある。背中に生えた４枚の葉状の羽で空を飛ぶことができ、リリモンが飛んだ後は、さわやかなそよ風が吹くという。必殺技は両腕を前に突き出し、手首の花弁を銃口にして、エネルギー弾を撃ち出す「フラウカノン」。

ホウオウモン

HOUOUMON

究極体
ワクチン種
聖獣型

デジタマ>>>





PROFILE >>>

黄金色に輝く４枚の翼を持った聖なるデジモン。全ての鳥型デジモンの長であり、神聖系デジモンを統べるものと言われている。ホーリードラモンが獣型デジモンの究極形態であるのに対し、ホウオウモンは鳥型デジモンの究極形態である。神聖系デジモンの証でもあり、聖なるパワーを引き出す「ホーリーリング」を２つも持つところから、ホウオウモンの持つパワーが計り知れないことが理解できる。必殺技は神々しい４枚の羽を羽ばたかせて黄金色の粒子を降りそそぐ「スターライトエクスプロージョン」。この技を受けると、全ての悪は浄化されるという。



アラカルト>>>

グリフォモン

究極体
データ種
幻獣型

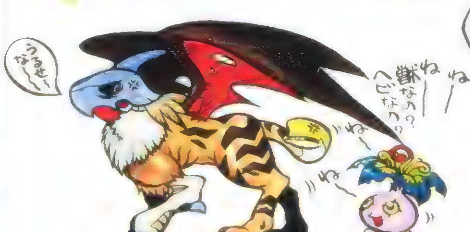


デジタマ>>>





アラカルト>>>





PROFILE >>>

鳥型デジモンの頭と翼、前足を持ち、胴体は獣型デジモン、尻尾には蛇のようなものが付いている合体デジモン。その翼で大空を飛び回ることができるが、普段は砂漠地帯や山岳地帯の洞窟に棲んでいると言われている。また、グリフォモンの攻撃力は非常に高く、俊敏な動きで敵を翻弄するためグリフォモンを倒すことは困難を極める。その性能を生かし、インターネット上では不法な侵入を防ぐ番人や、機密情報のセキュリティとして利用されている。必殺技は超高周波の音波を出し、敵のデータ構造を破壊してしまう『スーパーソニックボイス』。

ロゼモン

ROSEMON

究極体
データ種
妖精型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

草花の女王と呼ばれる薔薇のような姿をした妖精型デジモン。美しく大人な女性の姿をしており、常に美しくあることを願っている。性格は多少、自意識過剰なところもあるが、その実力は他の究極体とも引けを取らないほどである。また、胸元には愛と美のシンボルが刻まれた宝石「ティファレト」を身につけている。このティファレトを持つものは、永遠の美しさと強さを約束されると言われている。必殺技は電気を帯びた棘の鞭でどんなに狂暴なデジモンでも手なずけてしまう「ソーンウィップ」。この技を受けたものは、身も心もロゼモンの虜になってしまうと言われている。また、鞭の切っ先で敵を仕留める「ローゼスレイピア」。そして、ロゼモンの究極にして禁断の誘惑「フォービドゥンテンプテイション」を受けたデジモンは、無数のバラの花に包まれて美しくデータ破壊される。

チョロモン

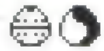
CHOROMON

幼年期 I
マシーン型





デジタマ>>>





アラカルト>>>

PROFILE >>>

光センサーになっている赤い目を持つ超小型のマシーンデジモンちょこまかと動き回る姿はとても可愛らしいが、明るい光に反応して動き回る単純なプログラムしか持ち合わせていないため、周りが暗くなると動くことが出来なくなってしまう。なぜか分からないが機嫌の良いときは尻尾の先から電気を放電させている。持ち技は鉄の粒子を放出して敵の AI(人工知能) を一時的に混乱させる『ジャミングパウダー』。この技で敵が混乱している間に逃げ出してしまう

カプリモン

CAPRIMON

幼年期 II
レッサー型



デジタマ>>>







アラカルト>>>



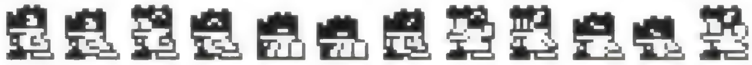
PROFILE >>>

金属性のヘルメットを被った小型の幼年期デジモン。ヘルメットに付いている２本の角の中にはあらゆる電波や音を受信できるアンテナを持っている。カプリモンは視力が弱く、口から超音波を出して、戻ってくる音波で前方の対象物を認識する、コウモリのような特性を持っている。そのために、カプリモンは昼夜関係無く行動することができる。持ち技は、２本の角を共振させて発生する『ハウリングヘルツ』。この技を受けると大型デジモンでも聴覚がマヒしてしまう。

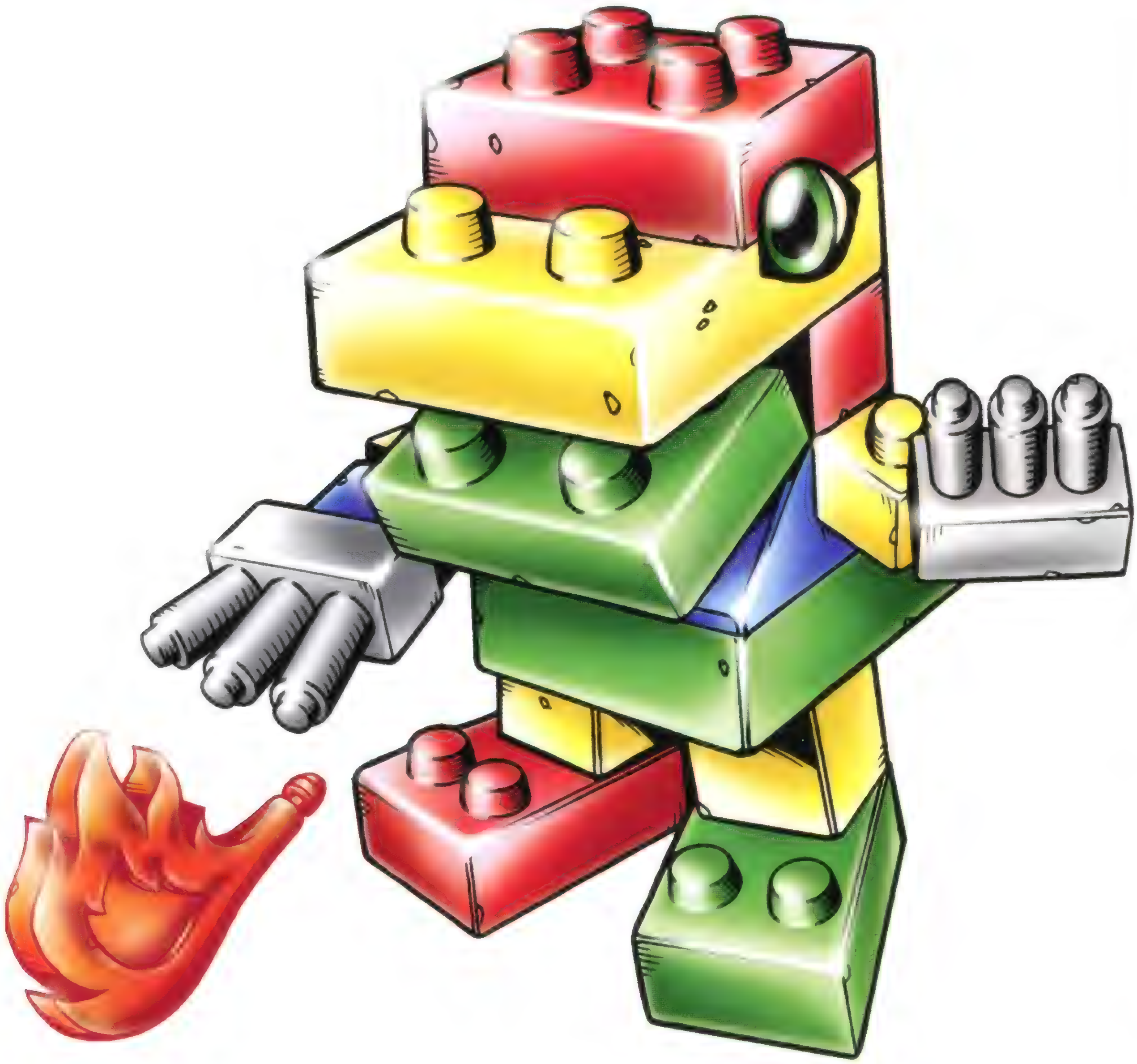
トイアグモン

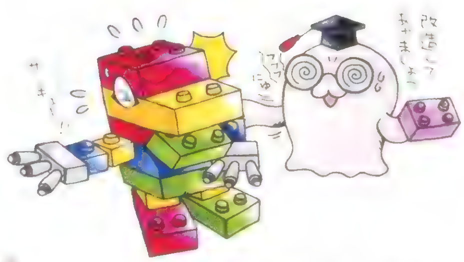
TOYAGUMON

成長期
ワクチン種
パペット型



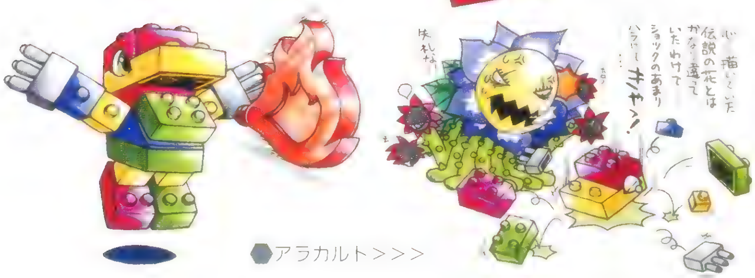
デジタマ>>>





PROFILE >>>

全身が特殊プラスチックのブロックでできている特殊なデジモン。インターネットで楽しんでいる子供がアグモンの姿形を真似て造ったと言われており、とても可愛らしい。強気なアグモンとは違い、臆病な一面があり、驚くとブロックがバラバラになってしまう。しかし、悪いことを見逃せない正義の心を持っている。また、大変な子供好きで、ネットを通して子供たちとコミュニケーションを取ることを楽しんでいる。必殺技は炎の形をしたおもちゃのミサイルを飛ばす「トイフレイム」。結構強力だ。

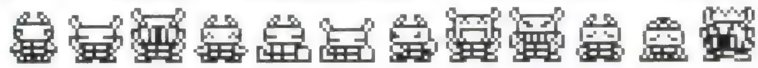


アラカルト>>>

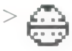
コクワモン

KOKUWAMON

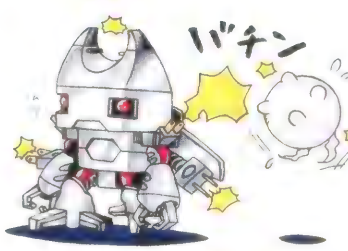
成長期
データ種
マシーン型



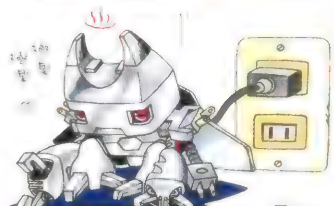
デジタマ>>>

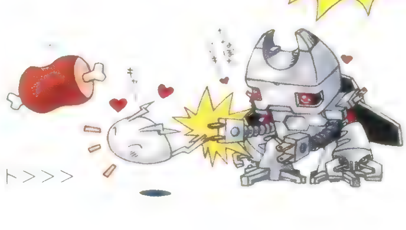












アラカルト>>>

PROFILE >>>

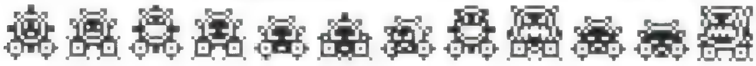
新たに発見された非常に珍しい昆虫型のメカデジモン。昆虫型メカデジモンは今まで発見されておらず、その存在自体も考えられていなかった。スタンガン状の頭部と両腕を持ち、危険を察知すると１００万ボルトの電気を放電させるため、うかつに近寄れない。しかし、攻撃的な性格ではなく、平穏を求めるおとなしい性格である。電気を栄養源としており真ん中の２肢で電力を充電する。必殺技は両腕のはさみを放電させて硬いものでも切り裂いてしまう『シザーアームズミニ』。

Chapter1>>> DIGITALMONSTER ART WORK

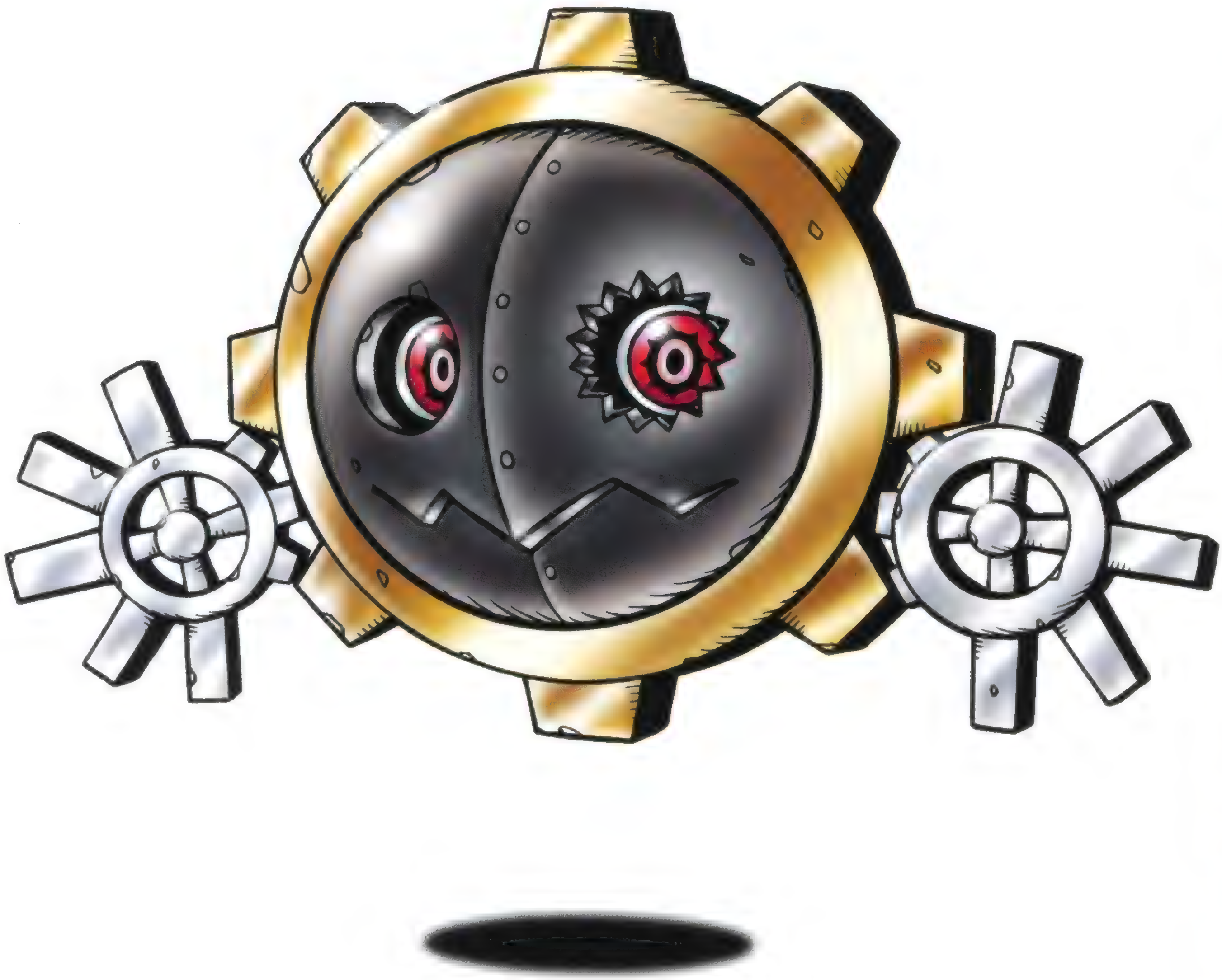
ハグルモン

HAGURUMON

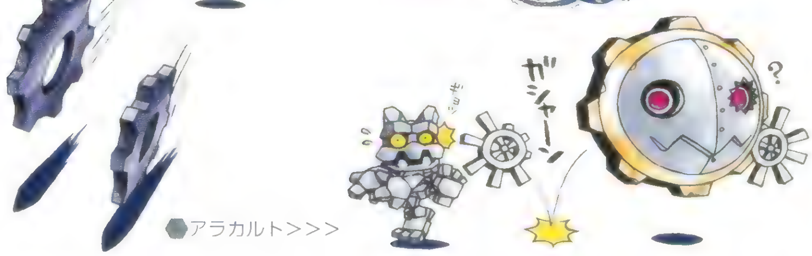
成長期
ウィルス種
マシーン型



デジタマ>>>







PROFILE >>>

歯車の形をした変種のマシーン型デジモン。体内にも無数の歯車が組み込まれており、常に歯車が回転をしている。そのためひとつでも歯車が抜けてしまうと、全身の歯車が回転を止めてしまい、生命活動を維持できなくなる。ハグルモンは相手にコンピュータウィルスを送り込んで意のままに操る特殊な能力をもっており、その能力を凶悪なデジモンに利用されている。しかし、ハグルモン自体は自我を持っていないため、悪用されていることなど知るよしも無い。必殺技はコンピュータウィルスを組みこんだ黒い歯車を相手の体内に埋めこんで、狂わせてしまう『ダークネスギア』。

アラカルト>>>

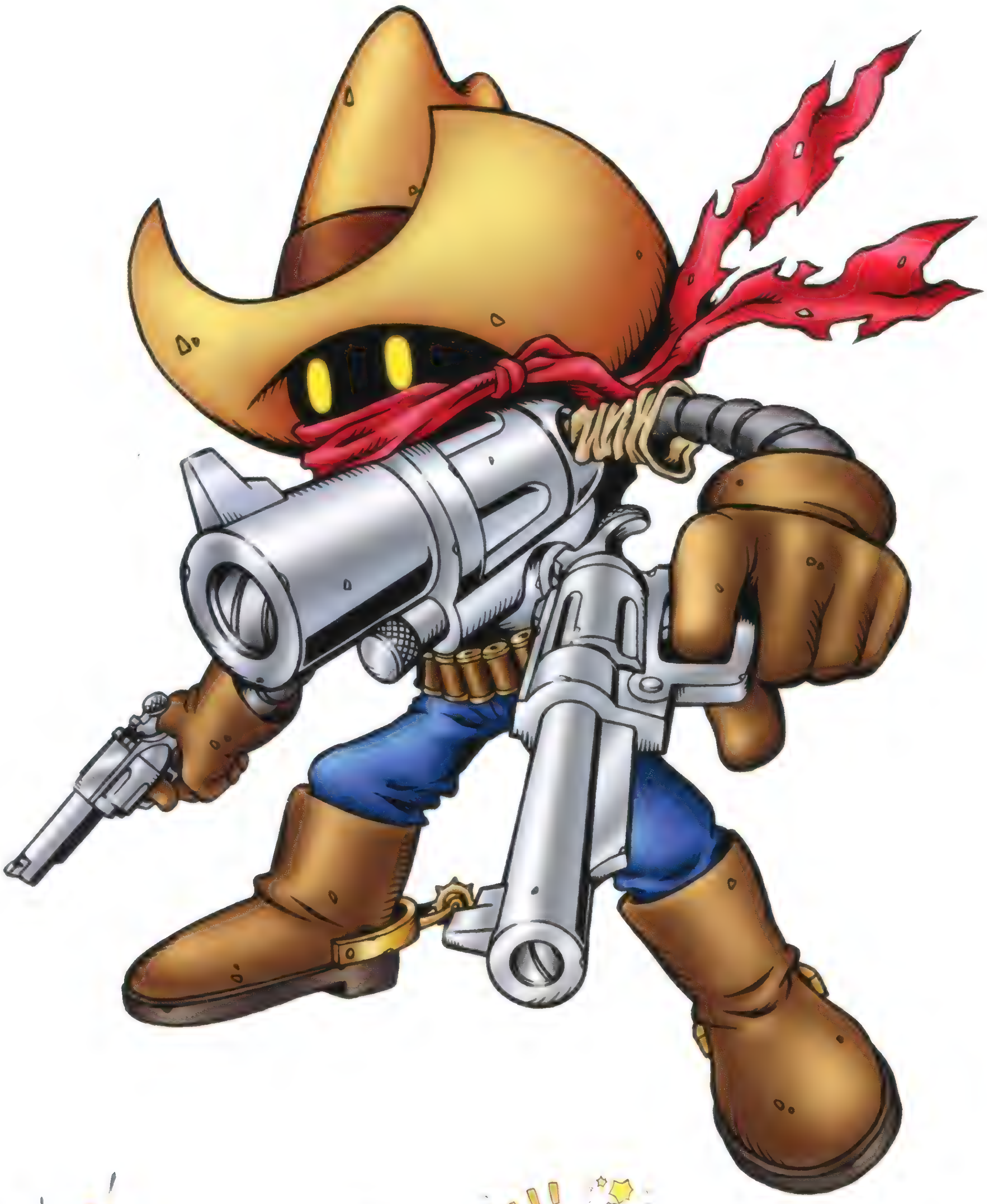
リボルモン

REVOLMON

成熟期
ワクチン種
突然変異型



デジタマ>>>





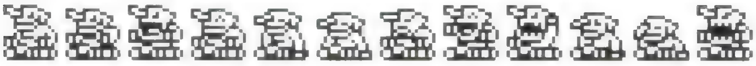
アラカルト>>>

PROFILE >>>

体の部分が銃の砲身になっている変異型のデジモン。どのような経緯で生まれたのかは全く不明だが、正義感に厚く「ウィルスバスターズ」としても活躍している。「ウィルスバスターズ」とはワクチン属の中でも、特にウィルス属の持つ“悪”の意識を撲滅、デリートする能力を持つデジモンたちのことである。また、ギャンブル好きな一面も持っており、ロシアンルーレットが非常に好きで、ウィルスデジモンでもロシアンルーレットで逃げ延びることができたら見逃すこともある、ちょっと憎めない性格。必殺技は自らが砲身になって正義の弾丸を打ち出す『ジャスティスブリット』。

タンクモン

TANKMON



成熟期
データ種
サイボーグ型

デジタマ>>>



PROFILE>>>

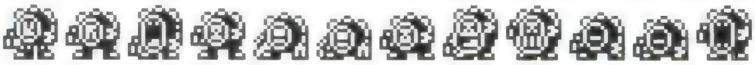
戦車の姿をしたサイボーグ型デジモン。タンクモンは「傭兵デジモン」の異名を持ち、自らの得となることであればワクチン属、ウイルス属のどちらにも加担する。重量級のパワーと全身に付いた重火器で向かってくる敵を粉々に粉砕する。非常に争いごとが好きで、あちらこちらで起こる争いに赴いている。この一匹狼のデジモンの行くところ、常に争いが絶えない。必殺技は頭部の砲身から超強力なミサイルを発射する『ハイパーキャノン』。



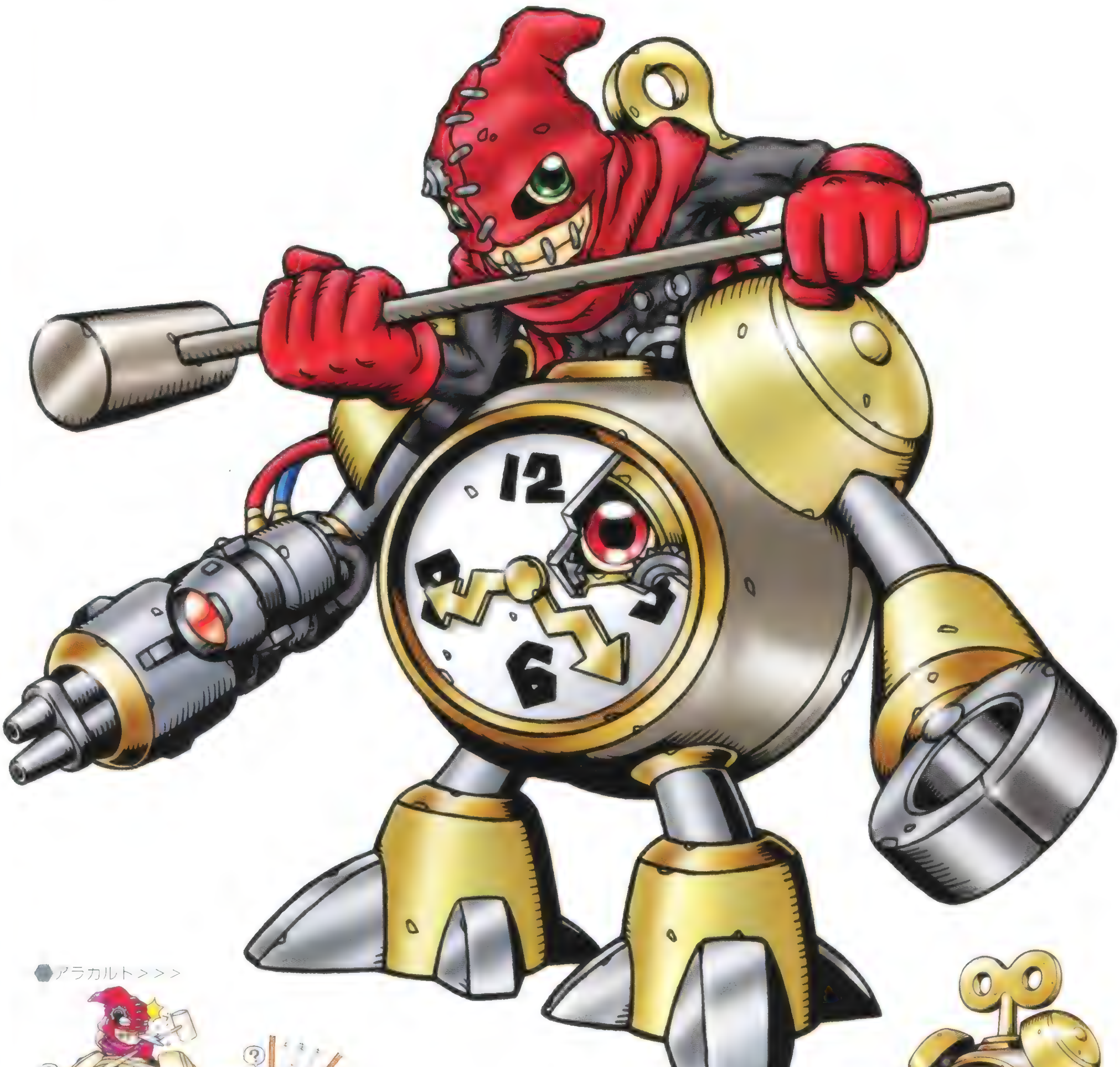
アラカルト>>>

クロックモン
CLOCKMON

成熟期
データ種
マシーン型

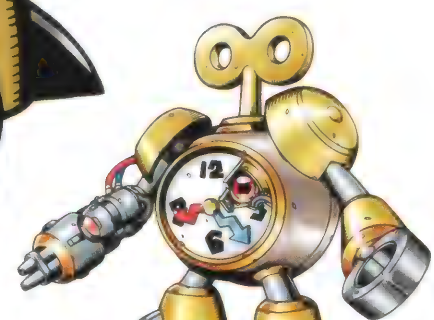


デジタマ>>>



アラカルト>>>





時計のみの姿>>>

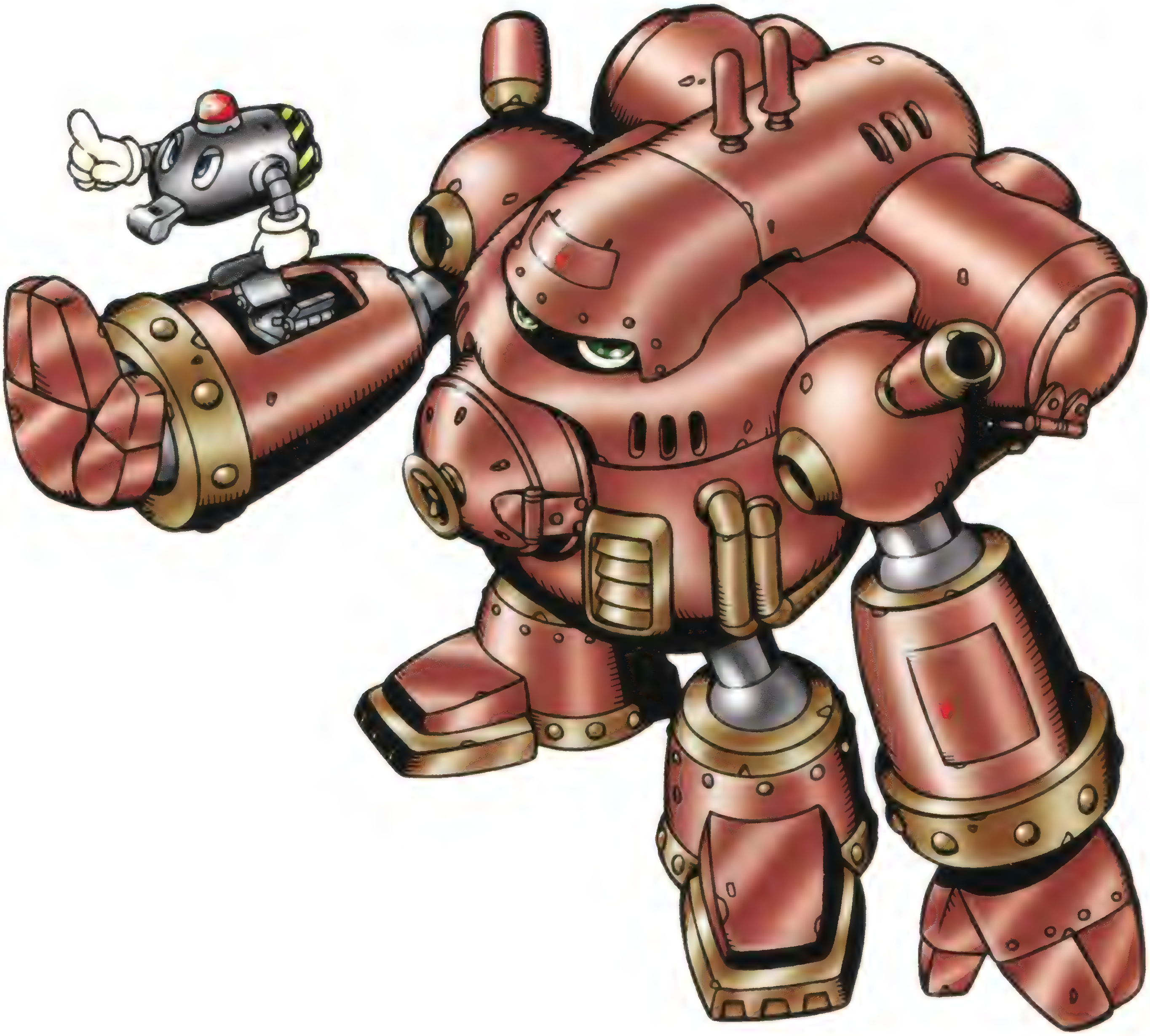
PROFILE>>>

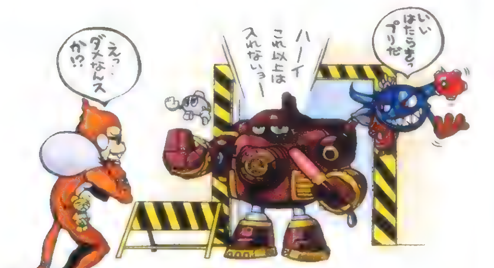
コンピュータのタイマーを司る、時の守護者。コンピュータやネットワーク全ての"時間"と"空間"を管理しており、1900年～1999年の間であれば、自在に時間を進めたり戻したりすることができる。非常に危険で恐ろしい能力を持っているため常に中立の立場を保っており、ワクチン・ウィルス間の争いには関与しない。そのため、もしこの均衡がどちらかに傾いたとき、デジタルワールドは崩壊すると言われている。必殺技は敵の体を流れる"時"を破壊する『クロノブレーカー』。この技で"時"を止められたデジモンは再起することは不可能である

ガードロモン
GUARDROMON

成熟期
ウィルス種
マシーン型

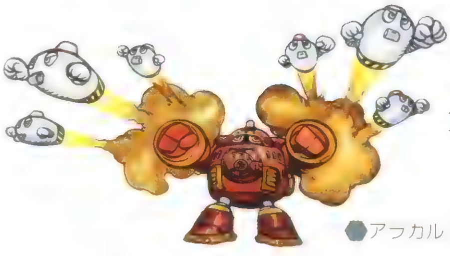
デジタマ>>>

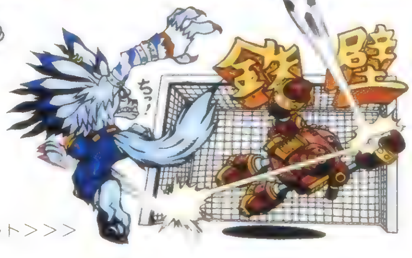




PROFILE >>>

コンピュータネットワークの防御壁を守る、マシーン型のデジモン もともとは「ネットキーパー」のギロモンと共にネットワークの防御壁を不法に侵入してくるものを撃退していたデジモンだった。しかし、その鉄壁の防御能力に目を付けた悪質なハッカーが、ガードロモン自体にコンピュータウィルスを感染させて、ワクチン属性の正義の集団「ウィルスバスターズ」たちから身を守るために利用している。基本的にガードロモンには「防御」のプログラム命令しかないため、立場が変わっても侵入者を防げれば大きな問題ではないのだ。必殺技は不法侵入者を、世界の果てまで追い詰めて破壊してしまう『ディストラクショングレネード』。不法侵入しない限りガードロモンから攻撃をしかけることはない。

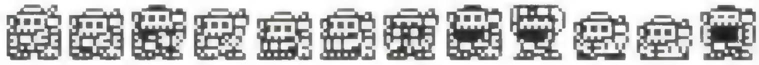




アフカルト>>>

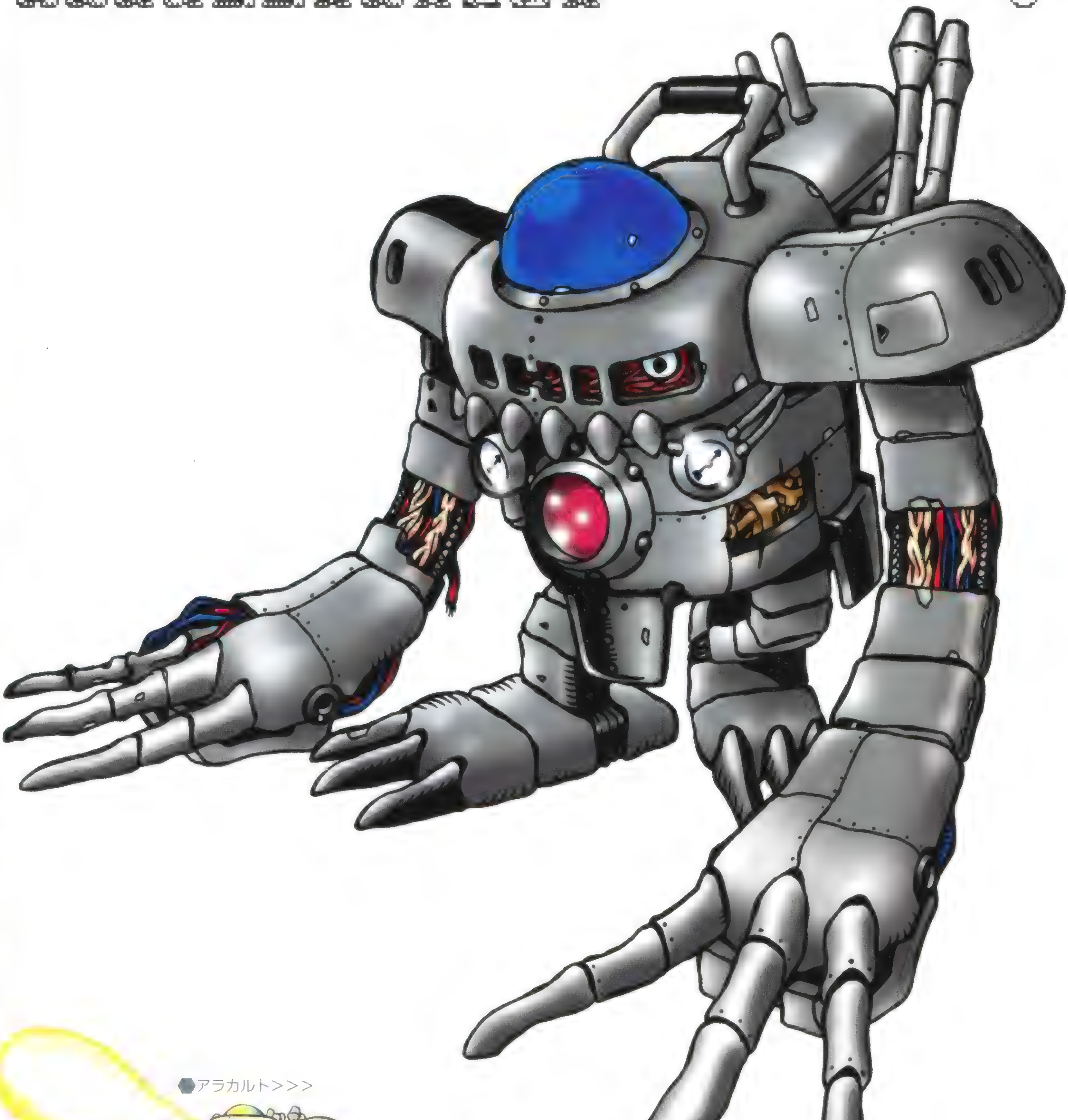
メカノリモン
MECHANORIMON

成熟期
ウィルス種
マシーン型



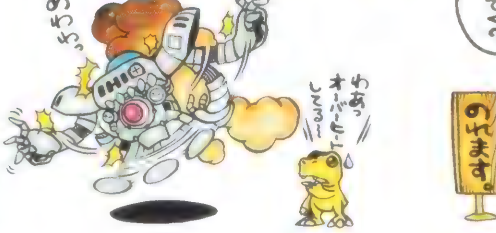
デジタマ>>>

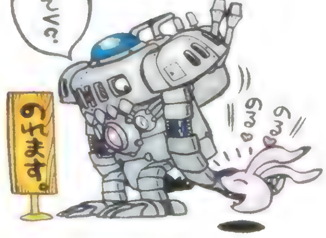




アラカルト>>>







PROFILE >>>

小型デジモン専用のパワードスーツデジモンであり、デジタルワールド初の乗り物型デジモンでもある。自ら行動することはできず常に他のデジモンが操縦しないと活動できない特異なデジモンである。ウィルス属性から考えると、操縦しているデジモンも、恐らくウィルス属性のデジモンだと思われる。まだまだ開発途中のデジモンであり、酷使しすぎると電脳核（デジコア）がオーバーヒートしてしまう。必殺技は、メカパワー炸裂のコークスクリューパンチ『ジャイロブレイク』と、胴体に埋め込まれたリニアレンズから照射される『トゥインクルビーム』。これを食らった敵は、体の自由が利かなくなってしまう

サンダーボールモン
THUNDERBALLMON

成熟期
データ種
突然変異型



デジタマ>>>





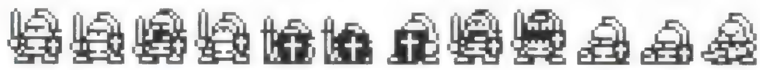
アラカルト>>>

PROFILE >>>
"デジモン発電機"とも呼ばれ、マメモン系の一種と推測されている突然変異型デジモン。小さな体は磁石の性質を持ち、常に電気をまとって放電している。攻撃してくる敵には1000万ボルトにもなる放電球を発射する「サンダーボール」。

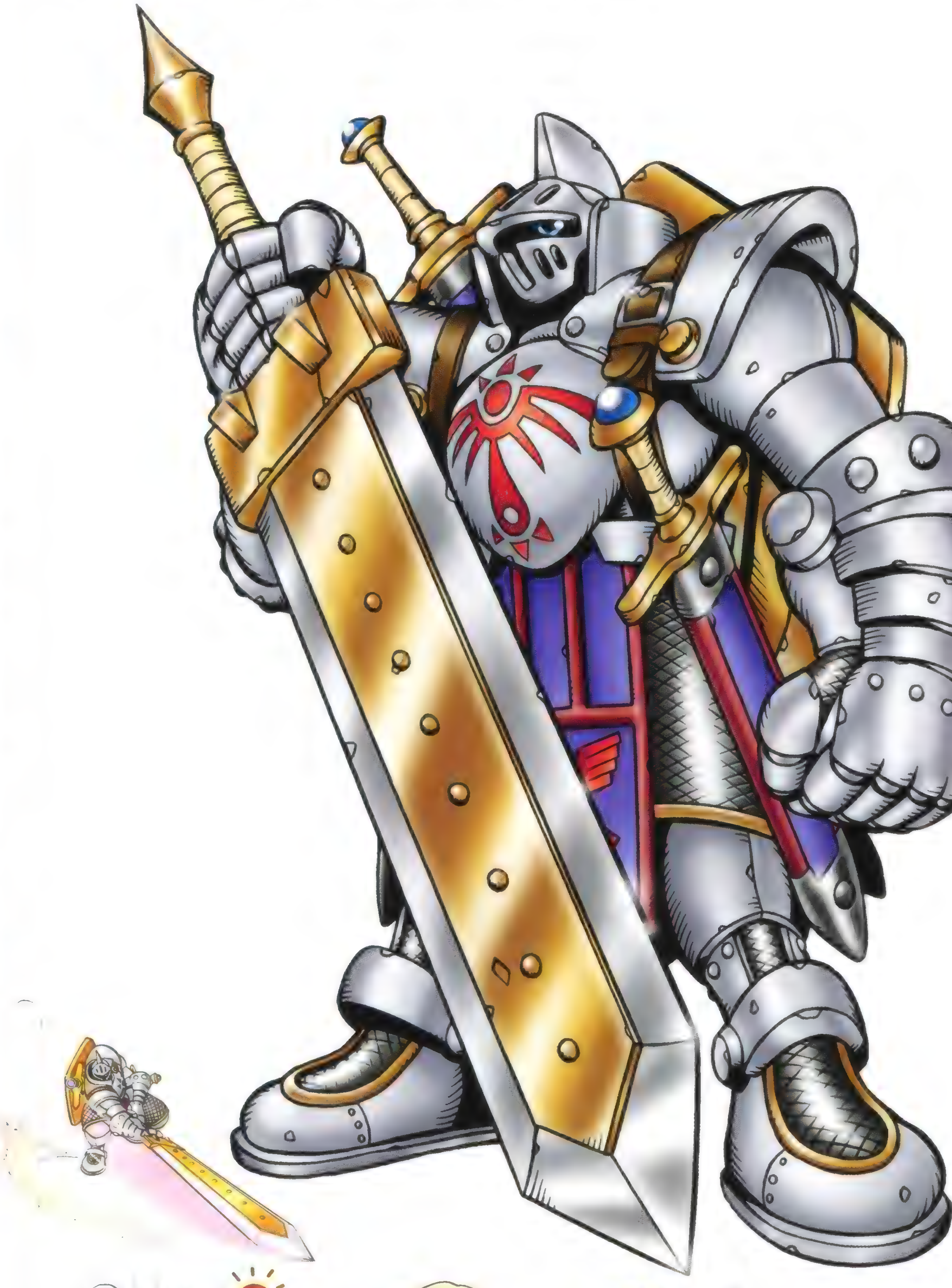
ナイトモン

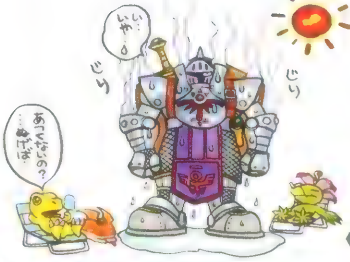
KNIGHTMON

完全体
データ種
戦士型



デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

重量級のクロンデジゾイド製の甲冑に身を包んだ巨体な戦士型デジモン。その甲冑を着込んでいても愛用の大剣を軽々と扱うほどのパワーを持っている。一説には、暴走してしまう程の強力なパワーを抑えるために甲冑を身に着けていると言われている。また、ナイトモンはマスターに忠実に仕えるために存在しているデジモンであり、信義に厚い性格である。そのためにマスターの属性によっては信念を貫くため、悪にも正義にもなってしまうことに苦悩している。必殺技は狂戦士のごとく大剣を振るい、あらゆる物を一刀両断する「ベルセルクソード」

ビッグマメモン

BIGMAMEMON

完全体
データ種
突然変異型

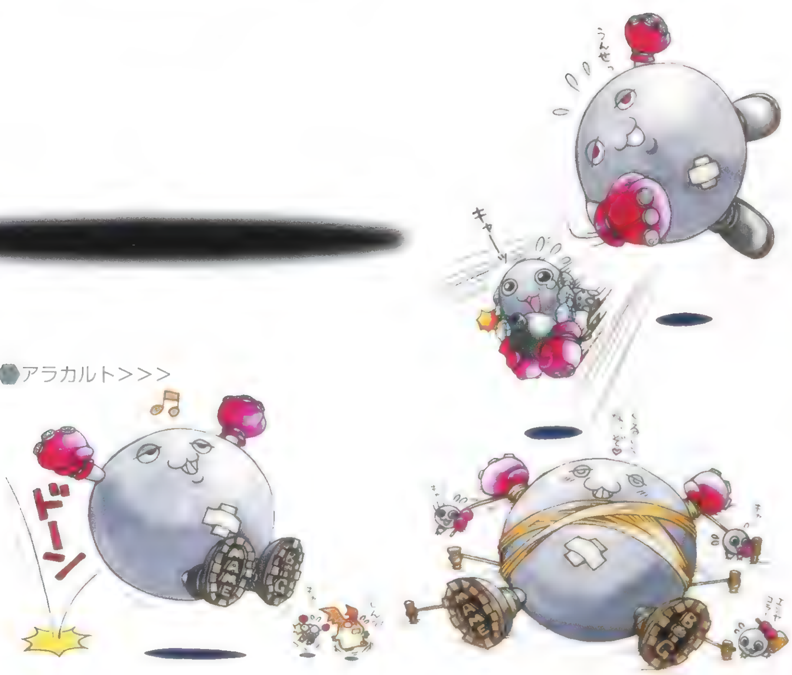
デジタマ>>>



PROFILE >>>

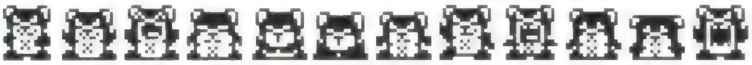
「スマイリーボマー」の愛称を持つマメモンの親玉的存在の変異型デジモン。実はマメモンの集合体ではないかとも言われている。通常のマメモンは幼年期デジモンと同等のサイズで、見た目の姿からは想像もできないほどのパワーを持っているが、ビッグマメモンはその名の通り、マメモンの何十倍、何百倍ものサイズである。しかし、このサイズでなぜ"マメモン"なのかは未だに不明である。性格はいたって温厚であり、争いや戦いは好まない。いつも子分のマメモンたちと戯れている。必殺技は子分のマメモンそのものを武器にする『ビッグスマイリーボマー』。この技を使った後はサイズが小さくなるという噂だ

アラカルト>>>



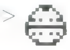
ワルもんざえモン

WARUMONZAEMON



完全体
ウィルス種
パペット型

デジタマ>>>







アラカルト>>>

PROFILE >>>

もんざえモンとは似ても似つかない程の凶悪顔のパペットデジモン。メタルエテモンとは仲が良く、彼が腰に付けているワルもんざえモンのヌイグルミは本人が送ったものだと言われている。やはり、もんざえモンと同じく、その正体は不明だが、中から妖しく光る目が覗いているのが不気味だ。性格は悪そのもので、意地悪で陰険。左腕には「悪」の一文字と、灰色熊の強力な爪「ベアクロー」を装備している。必殺技は全てのものをダークな気分にさせて落ち込ませてしまう『ハートブレイクアタック』。この攻撃を受けると暗く哀しい気持ちになってしまい、戦意を喪失してしまう

サイバードラモン

CYBERDRAMON

完全体
ワクチン種
サイボーグ型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

どんな攻撃にも耐えられる、特殊ラバー装甲に身を包んだ竜人系のサイボーグ型デジモン。コンピュータネットワークにウィルス種のデジモンが発生すると、どこからともなく現れて全て消滅させてしまう。しかし、正義の集団「ウィルスバスターズ」には属していない孤高の戦士であり、その正体は謎に包まれている。特殊ラバー装甲は、優れた防御能力だけでなく、攻撃力をも増幅させてくれる機能も持っている。必殺技は、両腕から構成データを破壊する超振動波を出して、敵の周囲の空間ごと消し去ってしまう『イレイズクロー』。この攻撃を受けると、データの一片も残せず消滅してしまう。



アラカルト>>>

ヴェノムヴァンデモン

VENOMVAMDEMON

究極体
ウィルス種
魔獣型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

獣の下半身と甲虫のような外殻の上半身を持つ魔獣であり、闇の王ヴァンデモンの進化した真の姿。秘めたるパワーを解放したヴェノムヴァンデモンにあるのは破壊と殺戮の衝動だけであり、本来、紳士的に振るまい、理性や知性を保っているヴァンデモンは、この醜い真の姿をさらすことを嫌っている。必殺技は敵デジモンの体内に破壊型コンピュータウィルスを注入して構成データを全て破壊して機能を停止させる「ヴェノムインフューズ」。

デジコラム4

パタモンのアーマー進化

古代デジタルワールドの遺物であり、デジモンをパワーアップさせるためのアイテム「デジメンタル」。デジメンタルには数々の種類が存在し、火・水・土など"元素"の力を融合（デジメンタルアップ）したデジモンへ与えて、能力を大幅に上げることができる。古代種の遺伝子を持ちアーマー進化できる、パタモンのアーマー体を掲載。



パタモン

大きな耳を持つ、空を飛ぶことができる成長期の哺乳類型デジモン。デジメンタルのパワーを引き出すことができる、古代種のデジモンの末裔である。



希望のデジメンタル

ペガスモン

邪悪なるものに対して絶対的な強さを発揮する、"神聖"の属性を持つ希望のデジメンタル。そのパワーを引き出しアーマー進化した、聖獣型デジモン。



光のデジメンタル

マンボモン

ネットの海でもめったに見かけることのできない、希少なデジモン。体内でコンピュータウィルスに対する抗体を生成できる、希少な能力を持つ



奇跡のデジメンタル

ライノモン

クロンデジゾイド製の鎧に身を包んだデジモン。[illegible]「アイ[illegible]・オ[illegible]」[illegible]身を包み、敵に突進して攻撃する



勇気のデジメンタル

バロモン

密林にある長い間忘れ去られていた寺院の遺跡を守る、魔人型デジモン。額には第3の目があり、未来を見通すことができると言われている。



愛情のデジメンタル

ピピスモン

大きな耳はあらゆる周波数の音を捉え、スピーカー構造の口で、捉えた音声をコピーして発する。暗闇の中でも超音波で、敵の位置を知ることができる



友情のデジメンタル

ステゴモン

背中のブレードは自身の意思で自在に動かすことができる。[illegible]上空[illegible]敵に落下させて攻撃をするが、その間は丸裸になってしまう



知識のデジメンタル

モスモン

気性が荒く攻撃的な習性を持つ。羽の鱗粉には火薬としての成分が含まれ、敵の威嚇に使用する。尾のガトリング砲から、秒間100発の弾丸を放つ



誠実のデジメンタル

マンタレイモン

ネットの海を優雅に泳ぐ、穏やかな性格をしたデジモン。レーダーなどでは捉えられない特殊な体をしており、「深海のステルス」と呼ばれている。



純真のデジメンタル

ポンチョモン

トゲモンが不慮の事故で死んでしまった場合、ポンチョモンになるという噂がある。メキシカンハットのマラカスで、敵をリズムにノリながら殴打する。



優しさのデジメンタル

プレイリモン

乾燥した大地に穴を掘って生活しており、地中を時速100kmで進むことができる。群れで行動し、天気の良い日には集団で日光浴をする姿を確認できる

イガモン

IGAMON

成熟期
データ種
突然変異型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

赤いマスクを被った謎のデジモン。デジタルワールドを渡り歩き修行を積んでいる。隠密行動を主としており、森の木々に隠れたり、水中に隠れたりと、なかなかその姿をみることは難しい。また、同じ「ウィルスバスターズ」のリボルモンとは流派も主義も違うが、昔からの戦友であり、良きライバルでもある。必殺技は巨大な手裏剣を使う「イガ流手裏剣投げ」。

アシュラモン

ASURAMON

完全体
ワクチン種
魔人型

デジタマ>>>



PROFILE>>>

4本の腕と3つの顔を持った魔人型デジモン。古代インド文明の文献を解析している最中に、突如コンピュータ内に降臨した。アシュラモンには3つの顔があり、1つは怒りの顔、1つは慈悲の顔、そして最後の1つは祈福の顔となっている。見た目の姿とは裏腹に正義を重んじ、不正を見ると徹底的にそれを攻撃して許さないという、まさに光明神の化身と言えるような性格である。必殺技「阿修羅神拳（あしゅらしんけん）」は4本の腕からくり出されるパンチラッシュで、敵そのものを消滅させてしまうほどの攻撃力を持っている。もちろんそれはアシュラモン怒りの顔の時に使われる、最後のそして最強の技である。

ホーリーエンジェモン

HOLYANGEMON

完全体
ワクチン種
大天使型

デジタマ>>>





神官モード>>>

PROFILE >>>

輝く８枚の銀翼を持った大天使型デジモン。ホーリーエンジェモンのデジタルワールドでの使命は法の執行官であり、多くの天使型デジモンを監督監視する役目を持っている。さらに、デジタルワールドの秩序を保とうとする“光”の意識の代弁者であり普段は神官の姿をしているが、“闇”の意識がデジタルワールドを覆ったとき、戦闘形態（バトルモード）に変化し悪を討つ。戦闘形態時には左腕のビームシールドと右腕に装備された聖剣エクスキャリバーで敵を葬り去る。また、ホーリーエンジェモンは神官形態のときは優しく慈愛に満ちた性格だが、戦闘形態のときは厳格な性格へと変貌する必殺技は二度と戻ることはできない亜空間への扉を出現させて敵を葬り去る『ヘブンズゲート』。

※神官モードは「ver.20th」には収録されていません

セラフィモン

SERAPHIMON

究極体
ワクチン種
熾天使型

デジタマ>>>



■ PROFILE >>>

白銀に輝く聖なる鎧に身を包み、10枚の黄金色の翼を持つ、熾天使型デジモン。天使型デジモンの中でも最も位の高い存在で、全ての天使型デジモンを統括している。その素顔や正体は仮面に隠されて垣間見ることはできないが、"神"と呼ばれる「善の存在」に一番近い存在である。セラフィモンは邪悪なる存在との最終決戦に降臨し、全てを浄化すると伝えられている。また、ダークエリアに堕ちて魔王型デジモンとなった「デーモン」は、もともとはセラフィモンであったと言われている。必殺技は7つの超熱光球を相手に放つ「セブンヘブンズ」と、自らの命と引き換えにビッグバンを起こす最大奥義「テスタメント」。

オファニモン

OFANIMON

究極体
ワクチン種
座天使型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

女性型天使デジモンの最終形態である座天使型デジモン。セラフィモン、ケルビモンと共にデジタルワールドの中心部"カーネル（神の領域）"を守護する三大天使型デジモンの一柱でもある。神の側面でもある慈愛と慈悲を伝えるデジタルワールドの聖母的な存在で、徹底した神の法の執行官であるセラフィモン、神と智の守護者であるケルビモンと、それぞれの役割がある。必殺技は『エデンズジャベリン』と、『セフィロートクリスタル』

ファスコモン

PHASCOMON

成長期
ウィルス種
魔獣型



デジタマ>>>



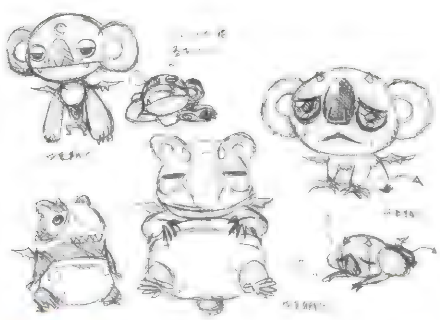


線画>>>



PROFILE >>>

ダークエリアに広がっている暗い森「エビルフォレスト」に生息している魔獣型デジモン。常に木の上で丸くなって寝ていることが多い。一見無害なように見えるがれっきとした悪魔デジモンであり、気を許したとたん、木の上から飛び掛り襲われる被害が多く報告されている。必殺技は、その眠そうな瞳から発する睡眠波動「エビルドリーム」と麻痺毒が含まれる鋭い爪「ニードルクロー」。



デザインラフ>>>

インプモン

IMPMON



成長期
ウィルス種
小悪魔型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

悪魔の子供のような姿をした成長期のデジモン。イタズラ好きで、相手が困る姿を見るのを楽しみにしている。また、インプモンが現れると、電気製品が一時的におかしくなると言われており、電気製品の画像が乱れたり動かなくなるのはインプモンがイタズラをしたためかもしれない。悪さや意地悪が好きなデジモンだが、決して強い者に媚びへつらうことは無く強い態度で立ち向かう。でも、本当は寂しがりやな一面も持っている。得意技は炎と氷のエレメンタルを召喚する「サモン」。必殺技は、暗黒の炎で敵を攻撃する「ナイト・オブ・ファイアー」。

ポキュパモン

成熟期
ウィルス種
パペット型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

[illegible]ダークエリアの[illegible]1種に分類される、絶滅が危惧されている希少デジモン。もともとダークエリアに生息している種ではなかったが、多種族デジモンに追いやられ、現在はダークエリアに生息している。ボディは特殊なレザー素材で覆われており、この邪悪ないでたちのスーツは最も生存競争が激しいダークエリアで生きていくための機能のためと思われる。必殺技は、鋭い体毛で敵を突き刺す「マッドネスブローチ」と刃物状の爪で切りつける「スラップアン[illegible]」。



デザインラフ>>>

マッドレオモン

アンデッド型

デジタマ>>>





アームドモード>>>



設定画>>>

PROFILE >>>

知能を失い闘争本能を高めた狂戦士。もともとは獅子型のデジモンだったが、改造に改造を重ねて今の姿に至った。その過程で意識は消失し、命ぜられるままに目の前に立つ者を倒す操り人形となってしまった。本能のままに行動し考えるということをしないため、罠や仕掛けがあってもお構いなしに突撃してしまう猛進を見せる。基本的には高パワーであるが、殴る・蹴るといった原始的な攻撃ばかりでパターンは少ない。ただ、その鋭い爪には猛毒が含まれており、あらゆるものを腐らせてしまうので注意が必要だ。唯一、必殺技らしいといえば獅子の顔の形をした「気」を放つ『獣王堕拳』である。放たれた獅子の顔の気は立ち塞がるものを食いちぎりながら飛んでゆく。

シェイドラモン

SHADRAMON



アーマー体
フリー
昆虫型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

"勇気のデジメンタル"のパワーによって進化したアーマー体の昆虫型デジモン。正確には昆虫人間型の姿をしているが、その姿は[illegible]、"勇気のデジメンタル"が逆作用してしまい凶悪になってしまった。フレイドラモンのように炎を操り、格闘能力もほぼ互角だが、光と闇のように正反対の邪悪な存在である。必殺技は両腕から放射する灼熱の[illegible]

トループモン

TROOPMON

アンデッド型



デジタマ>>>





線画>>>



設定画>>>

PROFILE >>>

特殊ゴムの体の中に他のデジモンから奪ったエネルギーを詰め込んで造られた人造デジモン。命令されたことを実行するだけの機械のようなデジモンで自発的な行動は一切できない。疲れもせず、痛みも感じず、死も恐れず、眠ることも必要ない。まさに戦う機械である。集団行動が基本であり個々の戦闘力はあまり高くないが、数に物を言わせた人海戦術には腕に覚えのある程度の実力では歯が立たないだろう。傷ついたトループモンは中身のエネルギーだけ吸い出し、新しい特殊ゴムの体に移し替えられて新しいトループモンとして再生され、何度も戦場に送り出されるのだ。

アスタモン

ASTAMON

完全体
ウィルス種
魔人型



デジタマ>>>




線画>>>

PROFILE >>>

完全体でありながら、究極体を凌駕する力を持ち、悪魔デジモンの軍団を束ねるダークエリアの貴公子である。敵に対する残虐性と味方に対する慈愛を持ち合わせており、そのカリスマ性から従う悪魔デジモンはかなりの数に上ると見られる。自慢のマシンガン「オーロサルモン」から放たれる弾丸は意思をもっており、まさに「地獄の果て」まで敵を追尾する。必殺技は、「オーロサルモン」の弾丸を全て撃ち尽くす『ヘルファイア』と、自身の暗黒の気を溜めて放



設定画>>>

バアルモン

BAALMON

魔人型



デジタマ>>>







線画>>>



設定画>>>

PROFILE >>>

あらゆる知識に抜きんでた博識のデジモンで『気高き王』とも呼ばれている。一説には、ある魔王型デジモンのもうひとつの姿とも噂されている。その知識の全てを書き記した「アッピンの紅い本」は閲覧者の魂と引き換えに1ページ分の知識を与えてくれるという。バアルモンはどんな謎にも答えてくれるが、必ず答えと一緒に試練を与える。その試練を乗り越えられなければ求める答えは与えられず魂を奪われる。マントは古今東西の護符を積層しており、その護符にはあらゆる対処法が施されているといわれ、その豊富な知識であらゆる攻撃を全て防ぐことができる。必殺技は護符を様々なものに変化させて攻撃する『ギルティッシュ』と、手にした打神鞭で強烈な雷撃を放つ「カミウチ」。カミウチは特にホーリー系のデジモンには大ダメージを与える。

ダークナイトモン

DARKKNIGHTMON

暗黒騎士型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

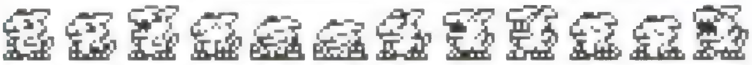
義兄弟の盃を交わしたスカルナイトモンとデッドリーアックスモンが融合した姿がダークナイトモンである。義兄の知略と義弟の行動力が一体となったダークナイトモンは一級の戦士となる。突く・斬る・払う・投げると状況に応じた使い分けができる「ツインスピア」を扱うダークナイトモンの腕前は非常に高く、正面から堂々と戦ってダークナイトモンを倒せる実力者は少ないと言われている。それだけの実力を持ちながらダークナイトモンは目的を達成するためなら手段を選ばず汚い手も構わずに使い、ときとして仲間を裏切ることも厭わない。執念の深さと実力を備えたダークナイトモンはできるなら敵にまわしたくない相手である。



線画>>>

ギルモン

GUILMON



成長期
ウィルス種
爬虫類型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

まだ幼さを残す恐竜のような姿をしたデジモン。まだ成長期ではあるが、デジモン本来が持っている"戦う種"としてのポテンシャルは非常に高く、肉食獣のような凶暴性を秘めている。腹部に描かれたマークは"デジタルハザード"と呼ばれ、コンピュータデータに対して多大なる被害を及ぼす可能性があるものに刻印される。しかし、この能力も平和的に利用さえすれば、デジタルワールドの守護者たる存在となりえるだろう。得意技は強靭な前爪で岩石をも破壊する『ロックブレイカー』。必殺技は強力な火炎弾を吐き出す『ファイアーボール』。

ブシアグモン

BUSHIAGUMON



成長期
ワクチン種
恐竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

自称「超剣士、我が名はブシアグモン」。胸の家紋は超剣士たる証」という肩書きはブシアグモン自身によるものだが、剣技は確かに一流のものである。しかし"超剣士"の意味が不明だ。必殺技は「超低速一文字斬り」と、「超高速一文字斬り」。緩急をつけた攻撃が得意のようである。



デザインラフ>>>

グラウモン

GROWMON

成熟期
ウィルス種
魔竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

「深紅の魔竜」と呼ばれている魔竜型デジモン。ギルモンの頃にあ[illegible]は消え、より野性的で凶暴なデジモンへと進化をしている。また、ウィルス種のデジモンではあるが、テイマーの育て方次第では忠実に従うので、正義のために戦うこともある。グラウモンの咆哮は大地を揺るがすほどの威力を持っており、戦いの前には攻撃的な唸り声をあげ敵を威嚇する。得意技は両肘のブレイドにプラズマを発生させ敵を攻撃する「プラズマブレイド」。必殺技は爆音と共に強力な火炎を吐き出す「エキゾーストフレイム」。

レッパモン

REPPAMON

成熟期
ワクチン種
聖獣型

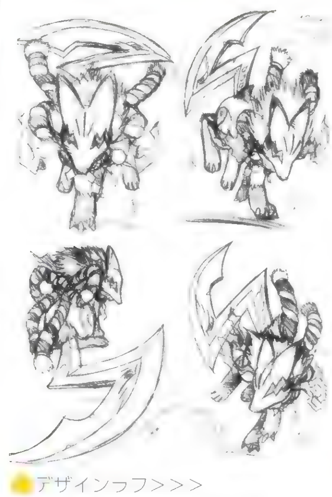


デジタマ>>>



PROFILE >>>

[illegible]



デザインラフ>>>

アレスタードラモン



竜型

デジタマ>>> 





スペリオルモード>>>



線画>>>

PROFILE >>>

緊箍児が解かれたことでガムドラモンが進化した姿。特殊ラバー装甲のバトルアーマーを着衣しており、ガムドラモンの本領である柔軟性が最大限に発揮され、さらには防御面が強化されている。羽も大きくなり高速飛行を可能としている。尻尾はテイルアンカーに変化したことで切り裂き攻撃に加えて、敵の捕縛ができるようになった。必殺技は両腕をしならせつつ高速にパンチをくり出す『マッハフリッカー』、テイルアンカーを振り回し切り刻む『フロッグショット』、一回転しつつ巨大化させたテイルアンカーで敵を両断する『スピンカリバー』、高速回転して切り裂く『スパイラルシュレッダー』に加え無数の光の回転となって切り進む『プリズムギャレット』がある。

マンボモン

MANBOMON



アーマー体
フリー
突然変異型

デジタマ>>>





PROFILE >>>

“[illegible]メンタル”[illegible]によって進化したアーマー体の突然変異型デジモン。ネット上でもめったに発見することはなく、非常に稀なデジモン。通常、海流にただ身をまかせながら移動しているが、敵と戦うときは尾びれについたスクリューで驚くべき速さで移動する。体表面の模様は意味があるとも、また[illegible]異なるとも言われているが、目撃例も少ないためその真偽は定かではない。また、コンピュータウィルスに対する抗体を体内で生成する貴重な種族である。必殺技は、[illegible]大量の[illegible]マンボモン型[illegible]を吐き出す「[illegible]マイン」と両手のグローブで相手を[illegible]ち連打する「[illegible]」。



設定画>>>

メガログラウモン

完全体
ウィルス種
サイボーグ型

デジタマ>>>

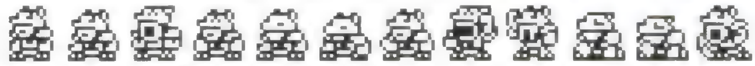


PROFILE >>>

「巨大なグラウモン」の名前を持つ、サイボーグ型の完全体デジモン。その名の通り体は大きく巨大化しており、上半身は最強金属"クロンデジゾイド"でメタル化されている。両肩に付いている2基のバーニアで飛行することもでき、対空・対地攻撃の両方が可能である。有り余るパワーで暴走するのを抑えるために、顎の部分にクツワのような拘束具を付けている。また背部の部分から帯のように伸びる「アサルトバランサー」は伸縮自在で、敵を貫き刺すこともできる。得意技は両腕の「ペンデュラムブレイド」で敵を切り裂く『ダブルエッジ』。必殺技は両胸の砲門から原子レベルで敵を破壊する『アトミックブラスター』。

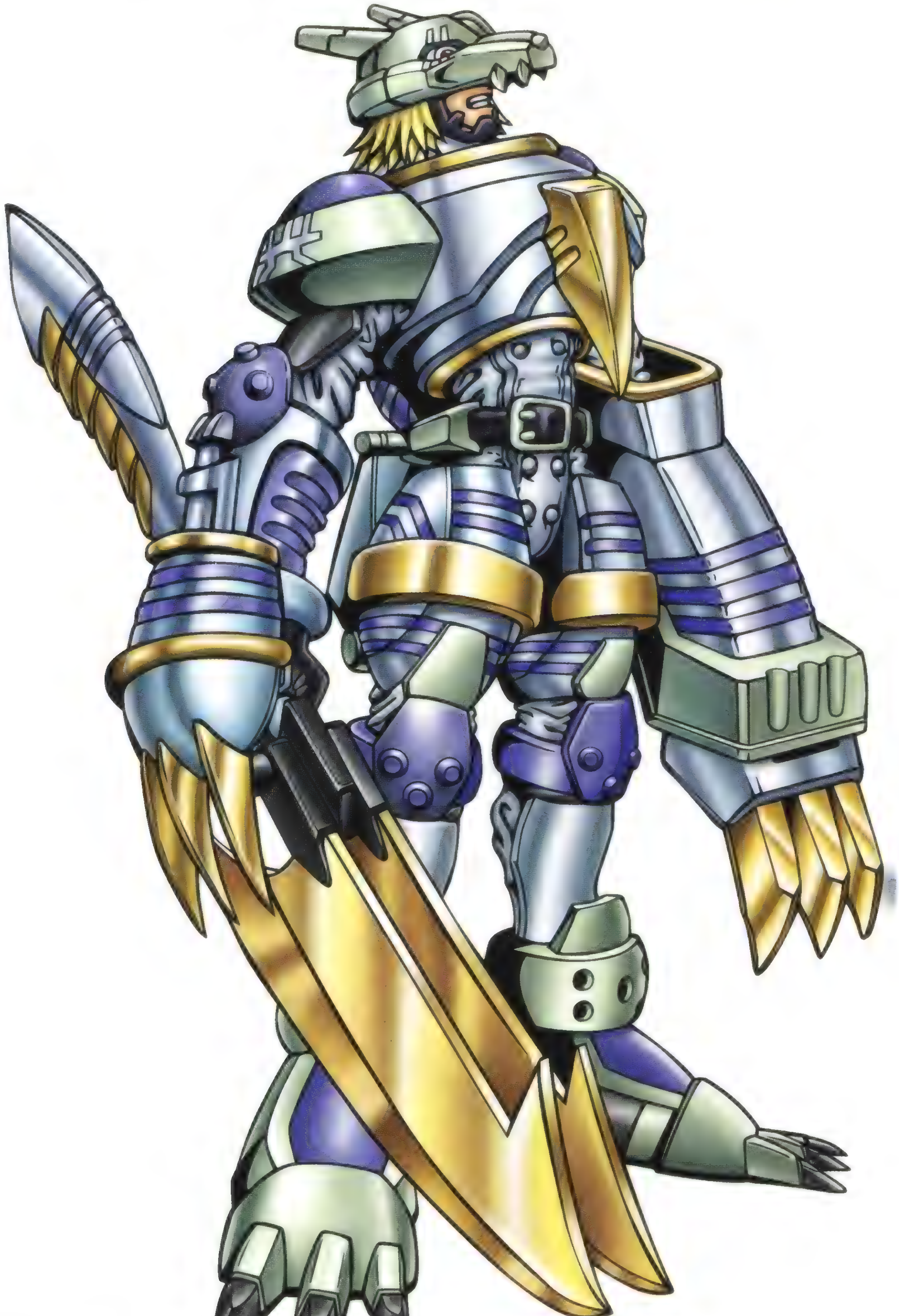
ベオウルフモン

BEOWOLFMON



ハイブリッド体
ヴァリアブル種
戦士型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

伝説の十闘士の力の全てを受け継ぎ、未知の能力を得ることで伝説を超えた光の能力を持つデジモン。獣の野性と人の知性を併せ持ち、二刃の大型剣"トリニテート"を片手で軽々と振り下ろす豪腕戦士。戦闘においては熱することなく沈着冷静に状況を判断して戦うが、仲間のために戦い、強大な敵に挑戦する戦士の道を信じている。左手には遠距離戦用のミサイルポッド"ロラント2（ツヴァイ）"を持ち、遠距離戦・近距離戦ともに得意である。必殺技はロラント2より発射される複数の追尾ミサイルが敵を強襲し、主砲で敵を仕留める強力なコンビネーション。重火器「リヒトアングリフ」と、大型剣トリニテートを上段より亜光速で振り抜き、敵を一瞬にして寸断する「ツヴァイハンダー」。

ライズグレイモン

RIZEGREYMON

完全体
ワクチン種
サイボーグ型

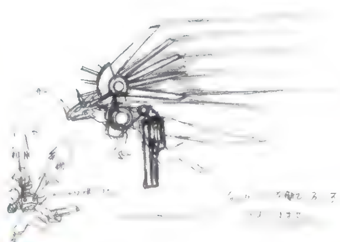


デジタマ>>>





線画>>>



設定ラフ>>>



設定画>>>

PROFILE >>>

体の半分以上を機械化しているサイボーグ型デジモン。その巨体にも関わらず大空へ飛翔し敵を討つ。左腕の巨大なリボルバーから発射される攻撃力は核弾頭1発分に匹敵すると言われ、その凄まじい威力と反動により通常は連射不可能である。尚、銃身はその威力に耐えられるようクロンデジゾイド製である。必殺技は、クロンデジゾイドの限界耐久で高速連射（3点バースト）する『トライデントリボルバー』と、翼にある3連ビーム砲及び、胸部発射口からビーム弾幕を放つ『ライジングデストロイヤー』。また、敵に突進して巨大なリボルバーで殴り倒す『ソリッドストライク』も打撃力抜群である。

ワームモンのアーマー進化

通常の進化とは違う「アーマー進化」へと導く、デジタルワールド創成期に作り出された特殊なアイテム「デジメンタル」 時代とともにその力や技術は失われたが、来るべきデジタルワールドの危機に備えてごく一部のデジモンとともに封印されていた。古代種の末裔であるワームモンが、デジメンタルで進化できるデジモンを紹介。



ワームモン

気弱で臆病な性格だが、アーマー進化することでパワーを発揮する。だが、ワームモン自体が力強い成虫へと進化する、未来への可能性を秘めている。



愛情のデジメンタル

アウルモン

偵察能力に長けており、夜間でも暗視[illegible]1km[illegible]相手を発見できる。攻撃力は高くないものの、闇にまぎれて背後から[illegible]襲いかかる。



勇気のデジメンタル

シェイドラモン

デジメンタルの力が逆作用し、禍々しく邪悪なデジモンになった姿。フレイドラモンと同様に炎を操るが、光と闇のように正反対の邪悪な存在である



優しさのデジメンタル

プッチーモン

気まぐれな性格だが、頭を撫でられたり内緒話が大好き。機嫌が良いとよく歌を歌っている。緑色をした種の個体数はとても少なく、かなり貴重な存在



プッチーモン(緑)



誠実のデジメンタル

アーケロモン

強靭な甲羅とナイフのような鋭利な前足で、敵に襲われることが少ない。だが、いざ戦うときは大海原に巨大な渦を巻き起こして、敵を沈める力を持つ。



知識のデジメンタル

サーチモン

"知りたがる"習性を持っており、背部についているレーダーで情報の収集と索敵を行う。このレーダーから電波を放ち、相手を錯乱させることもできる。



友情のデジメンタル

トゲモグモン

背中に超低温のアイスクリスタルが山のように生えている。このクリスタルに触ると瞬時に凍りついてしまう。一斉に発射して攻撃することもできる



奇跡のデジメンタル

コンゴウモン

全身が黄金色に輝く、重量級のパワーファイター。あらゆる神事に精通しており、古来より天使型デジモンとは別の、神の地上代行者と言われている。



純真のデジメンタル

ノヘモン

カカシのような姿をしているが、右腕にいるカラスが本体。超能力で器用にカカシを操り敵を翻弄する。嘘を言うのが得意であり、百発百中の弓の名手。



希望のデジメンタル

ブルモン

闘牛のような姿をした、哺乳類型デジモン。凄まじい破壊力で突進するが、後進や右折・左折が苦手。かなりの短気で、赤いものを見ると興奮する



光のデジメンタル

クアトルモン

翼を持つ白蛇の姿をした太陽と風の化身。神聖な存在で、物静かで自ら戦いに挑むようなことはしないが、一度怒らせると呪い殺されると言われている。

ターゲットモン

ARGETMON



成熟期
ウィルス種
パペット型

デジタマ>>>





デザインラフ>>>

PROFILE >>>

超広角、超高解像度"ヤリマスグラサン"(ブレ補正付き)を装着し、狙った獲物を確実にロックオンして逃さない、しつこい系のパペット型デジモン。履き間違えたであろう両腕のスニーカーで相手に屈辱的な攻撃をする。必殺技は、両腕のスニーカーで相手を何度も叩く『電撃ハグハグスニーカー』と、我を忘れて突進する『トンガリヘッド』。また、どんなに負けて落ち込んでも、心の中の『アンニャセレナーデ』で何度も復活するタフなデジモンである。

ジエスモンX抗体

JESMON X

究極体
ワクチン種
聖騎士型

デジタマ>>>



設定ラフ>>>



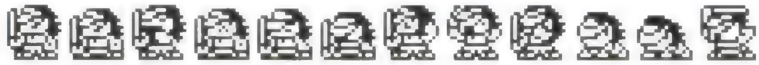
PROFILE >>>

X抗体が全身の装甲を刃に変え、より攻撃に特化したフォルムとなった。新たに装備されたいくつもの剣はそれぞれが自立行動を可能としており、一対一の勝負において一方的に敵を圧倒し続ける攻撃力をジエスモンに与えている。また、「アト」「ルネ」「ポル」三体のプログラムが一つのタクティカルアームズとして合体・覚醒を遂げ、全方位に向けて全く隙のない戦闘スタイルを生みだした
必殺技は、撃ち出したタクティカルアームズで、ガンクゥモン譲りの鉄拳を相手にぶち込む「鉄拳断罪」と、全身の剣を敵に向かって飛翔させ、両腕の大剣と共に連撃を繰り出す「シュベルトフリューゲル」。そして、胸のデジコアから引き抜いた「究極戦刃聖覇剣(きゅうきょくせんじんせいばけん)」は、斬りつけた敵の闘争本能だけを破壊し戦闘不能とさせる不殺の切札である

バンチョーレオモン

BANCHOLEOMON

究極体
ワクチン種
獣人型



デジタマ>>>



アラカルト>>>



別ポーズ>>>



PROFILE >>>

自分の信じる「正義」にのみ忠実に生きる獣人型デジモン。幾多な強豪との戦いで一度も「折られる」ことなく勝利しつづけたデジモンのみ「バンチョー」の称号を獲得できると言われており、デジタルワールド観測史上、この称号を持つデジモンは5体しか確認されていない。自身の「正義」のみが仕える主であり、その「正義」の障害となるものであれば、ロイヤルナイツや3大天使といった存在ですら「悪」として認識し、排除すべき敵となる。肩から羽織っている「GAKU－RAN（ガクーラン）」は、敵の物理攻撃を８９．９％無効化する防御機能が備わっている。必殺技は、自慢の短刀「男魂」からくり出す『獅子羅王漸（ししらおうざん）』と、極限まで研ぎ澄ました気合を拳にのせて放つ『フラッシュバンチョーパンチ』。

アグモン博士



成長期
ワクチン種
恐竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

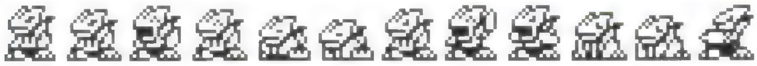


別ポーズ>>>

ダークドラモン

DARKDRAMON

究極体
ウィルス種
サイボーグ型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

機械化旅団「D-ブリガード」の最終決戦兵器であると推測されるサイボーグ型デジモン。あくまで噂の域を出ない情報だが、コードネーム「BAN-CHO」と呼ばれる「目標」を排除する作戦で撃墜されたタンクドラモンが回収され、「D-ブリガード」の研究機関において、ダークドラモンへと進化したと言われている。進化の際に大量の「ダークマター」が使用されたらしく、進化後に暴走・逃亡し、現在は「D-ブリガード」もダークドラモンの消息をつかめていないらしい。今でもコードネーム「BAN-CHO」を探し彷徨っているというが・・・。必殺技『ダークロアー』は「ダークマター」をエネルギー弾として打ち放つ禁断の大技で、これを受けて生き延びるものはこの世界に皆無と言われている。また右手にはデュークモンが持つ聖槍グラムに匹敵する『ギガスティックランス』が仕込まれている。



アラカルト>>>

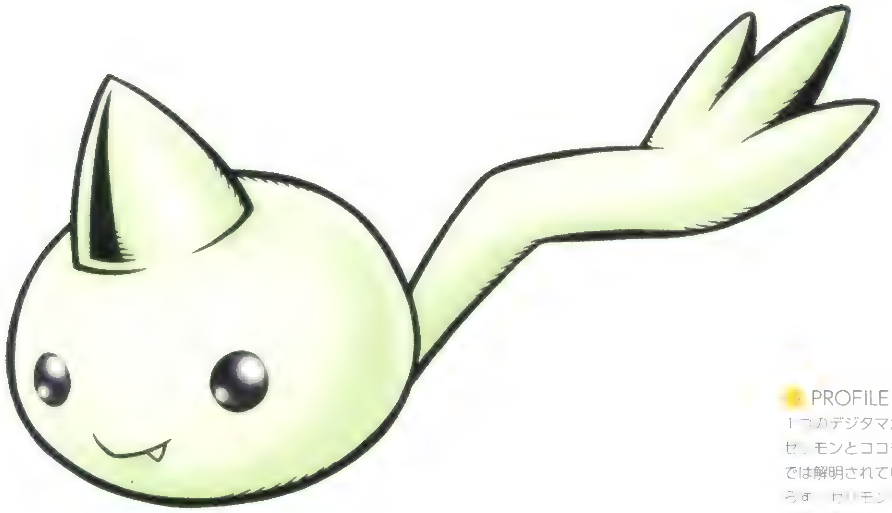
ゼリモン

幼年期Ⅰ

スライム型



デジタマ>>>



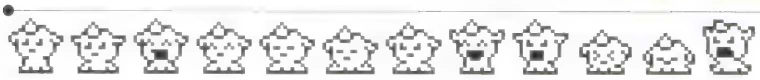
PROFILE >>>

1つのデジタマから2匹が生まれる、非常に希少なデジモン。なぜ、ゼリモンとココモンだけが双生児として生まれるかは、現在の段階では解明されていない。しかも、必ず双生児として生まれるとは限らず、ゼリモンとココモンそれぞれが1つのデジタマで生まれることもある。1本角の非常に元気なゼリモン対して、3本角のココモンは比較的におとなしい性格をしている。また、他のスライム型デジモンとは違い、ゼリモンの頭部の角は意外にもしっかりしていて硬い。他の幼年期デジモンと同じく、酸の泡を吐いて敵を威嚇する。

グミモン

幼年期Ⅱ

レッサー型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

ゼリモンが成長したデジモン。とても元気な性格はゼリモン譲りで、明朗活発である。成長はしているが、相変わらず体の体組織は不安定でプニプニしているが、ゼリモン同様角の部分は硬くなっていて頭突きで敵を威嚇する。ゼリモンからの大きな変化は体と耳らしきものが頭部より出ている。必殺技は粘着質の泡を沢山吐き出す「ダブルボブル」

テリアモン

TERRIERMON

成長期
ワクチン種
獣型



デジタマ>>>



テリアモン助手>>>



PROFILE >>>

頭部に１本角を生やした、謎に包まれたデジモン。体構造から獣系のデジモンであることは分類できるが、どのような進化形態を経たのかは依然分かっていない。また、稀に双子で誕生するという噂も存在する。非常に可愛らしいタイプのデジモンで、ゆったりとした行動からはとても“戦闘種族”としてのデジモンを実感することができないが、戦闘の際には、その見た目以上のパワーを発揮する得意技は両耳をプロペラの様にして小型竜巻を起こす『プチツイスター』。必殺技は高熱の熱気弾を吐き出す『ブレイジングファイア』。また、双子の片割れであると言われるロップモンとの合体技である『ダブルタイフーン』も強力な威力を持つという。

※テリアモン助手は「ver.20th」には収録されていません

ガルゴモン

GALGOMON



成熟期
ワクチン種
獣人型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

[illegible]

デザインラフ>>>



ラピッドモン

RAPIDMON



完全体
ワクチン種
サイボーグ型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

ガルゴモンが進化した、サイボーグ型デジモン。「俊敏な猟犬」の異名を持ち、光速に近い動きで確実に敵を仕留める。また、巨大な耳型のレーダーを駆使して暗闇でも活動ができ、遠くの敵の存在も感知することができる。体のシルエットは毛を刈ったプードル犬を思わせる。戦闘時には頸部プロテクターが閉じる。必殺技は背中に装備されたリボルバーと両腕から、ホーミングミサイルを連射する『ラピッドファイア』と、全身から敵をデータ分解してしまう光線を放つ『ゴールデントライアングル

セントガルゴモン

究極体
ワクチン種
マシーン型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

全身が兵器で[illegible]超巨大なマシーン型[illegible]モン。兵器搭載量は[illegible]匹敵する。ちなみにメタル[illegible]モンまで[illegible]セントガルゴモンは銃系兵器、レーザー、ミサイル[illegible]放射器等あらゆる武器が搭載されている。[illegible]エネルギーを全てパワーに[illegible]いるため、[illegible]破壊力を持っている。スピードの無さは兵器が補うため、一歩も動かずともあらゆる方向からの攻撃に対応できる。必殺技は銃火器の一斉射撃「バーストショット」と両肩の砲塔からメガトン級の巨大ミサイルを発射する「ジャイアントミサイル」。

ココモン

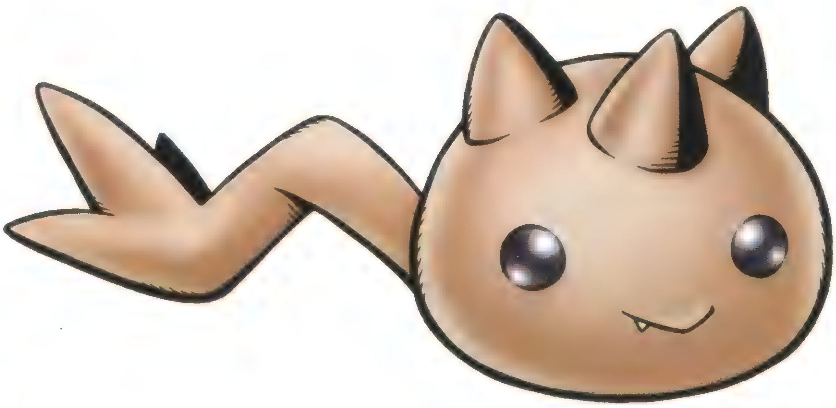
COCOMON

幼年期 I

スライム型

デジタマ>>> 





PROFILE >>>

1つのデジタマから2匹が生まれる､非常に希少なデジモン。なぜ、ゼリモンとココモンだけが双生児として生まれるかは、現在の段階では解明されていない。しかも、必ず双生児として生まれるとは限らず、ゼリモンとココモンそれぞれが1つのデジタマで生まれることもある。1本角の非常に元気なゼリモン対して、3本角のココモンは比較的に大人しい性格をしている。他の幼年期デジモンと同じく、酸の泡を吐いて敵を威嚇する。

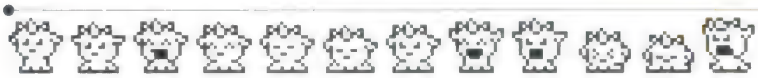
チョコモン

CHOCOMON

幼年期 II

レッサー型

デジタマ>>> 





PROFILE >>>

ココモンが成長したデジモン。元気な性格なグミモンと大人しいチョコモンと性格は反対であるがとても仲が良く、いつも一緒に行動している。仮に2匹を離してしまうと、寂しさのあまり弱ってしまうこともあるくらい一心同体な存在である。必殺技は粘着質の泡を沢山吐き出す『ダブルボブル』。

ロップモン

LOPMON

成長期
データ種
獣型



デジタマ＞＞＞





別ポーズ＞＞＞

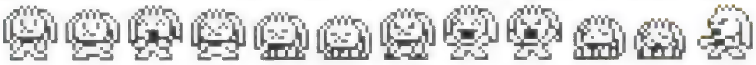
PROFILE ＞＞＞

非常に貴重な双子デジモンの成長期。頭部に１本角を生やしているのがテリアモン、３本角を生やしているのがロップモン。その生態系は謎に包まれており、体構造から獣系のデジモンであることは分類できるが、それ以外のことは依然分かっていない。テリアモンはゆったりした性格ではあるが、非常に元気がある。それに対し、ロップモンは泣き虫の寂しがりやと対照的な性格をしている。両者とも"戦闘種族"としてのデジモンを実感することができないが、戦闘の際にはその見た目以上のパワーを発揮する。得意技は両耳をプロペラの様にして小型竜巻を起こす『プチツイスター』と合体技の『ダブルタイフーン』。必殺技は冷気弾を放つ『ブレイジングアイス』。

トゥルイエモン

TURUIEMON

成熟期
データ種
獣人型



デジタマ>>>





設定画>>>



PROFILE >>>

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
兎のような敏捷かつ高い跳躍からくり出す連撃技である

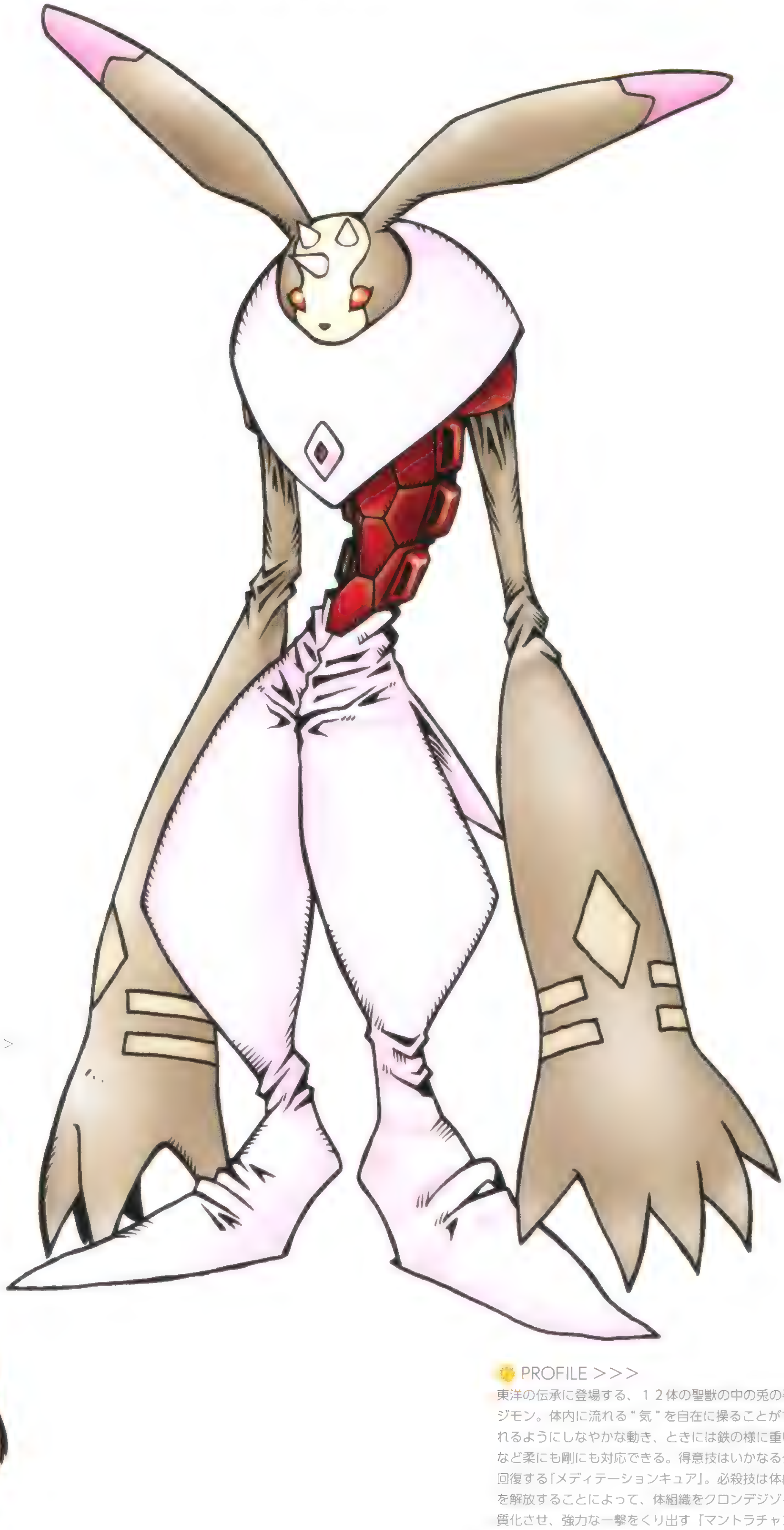
アンティラモン

ANDIRAMON

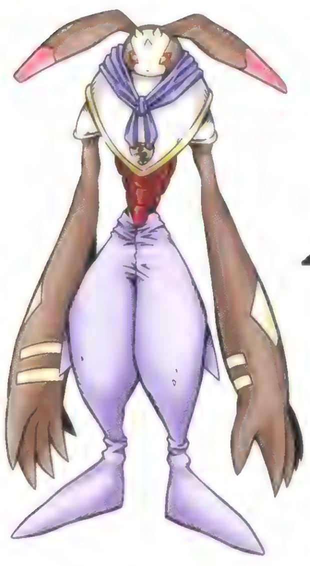
完全体
ウィルス種
聖獣型



デジタマ>>>



アンティラモン（デーヴァ）>>>

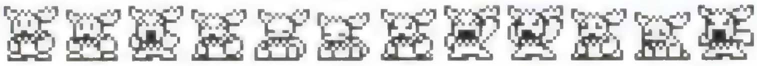


PROFILE >>>

東洋の伝承に登場する、１２体の聖獣の中の兎の姿をした完全体デジモン。体内に流れる“気”を自在に操ることができ、ときには流れるようにしなやかな動き、ときには鉄の様に重い一撃をくり出すなど柔にも剛にも対応できる。得意技はいかなるダメージも瞬時に回復する『メディテーションキュア』。必殺技は体内の全エネルギーを解放することによって、体組織をクロンデジゾイド合金なみに硬質化させ、強力な一撃をくり出す『マントラチャント』。

※アンティラモン（デーヴァ）は「ver.20th」には収録されていません。

ケルビモン(善)



究極体
ワクチン種
智天使型

デジタマ>>>





ケルビモン(悪)>>>

PROFILE >>>

獣の姿をした天使型デジモン。熾天使型デジモンのセラフィモンと同じく最高位に位置する三大天使デジモンの一体である。本来の役目はデジタルワールドの"カーネル(中核)"を守護することである。究極の"善"に位置する天使型デジモンは、その極端さゆえに対極である"悪"に身を染めやすい一面を持っている。強烈な雷系の技を使い、その一撃は神の天罰を思わせる。必殺技は雷の槍を放つ『ライトニングスピア』と、巨大な雷雲を呼び、無数の雷を敵に落とす『ヘブンズ・ジャッジメント』。

※ケルビモン(悪)は『ver.20th』には収録されていません。

コツコモン
COTSUCOMON

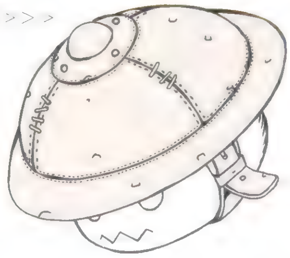
幼年期 I
防具型



デジタマ>>>



線画>>>



帽子を脱いだ姿>>>





設定ラフ>>>

PROFILE >>>

皮製の帽子を被って生まれたデジモン。並の幼年期に比べると防具があることから強そうに見えるが、柔らかめな素材のため防御力はそれほど無い。性格は警戒心が強く、すぐに帽子の中に潜んでしまう。必殺技は帽子のつばで相手を小突く『コツン』。

カッキンモン
KAKKINMON

幼年期 II
防具型



デジタマ>>>



線画>>>



帽子を脱いだ姿>>>





設定ラフ>>>

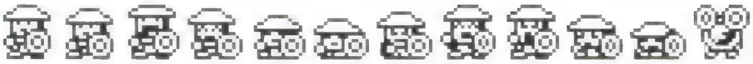
PROFILE >>>

帽子が銅製の盾になり渋さも増したデジモン。身を守るものが強固になったことで警戒心は薄れ、臆することなく突っかかる性格に変化した。しかしまだまだ銅製の盾であるため突っかかりが過ぎると痛い目を見てしまう。必殺技は盾の鋭利な部分で相手を突く『カンカン』。

ルドモン

Ludomon

成長期
データ種
防具型



デジタマ>>>





線画>>>





アラカルト>>>



デザインラフ>>>



初期デザイン>>>

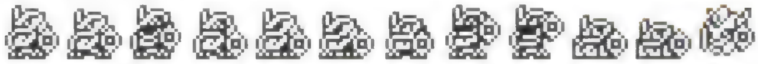
PROFILE >>>

自身を武器に変えることができる「Legend-Arms」の1体。「Legend-Arms」の中では唯一盾に自身を変える。頭と両手に固い鋼の盾を持ち、どこから攻撃を受けても身を守ることができる。防衛を目的としているデジモンで、「D-ブリガード」に狙われたエリアを守り切ったと記録が残っている。
必殺技は防御と攻撃を担う両手の『ウォルレーキ』。さらにルドモン自身が盾の姿となったときに防御力は最大限に発揮される。

ティアルドモン

TIALUDOMON

成熟期
データ種
防具型

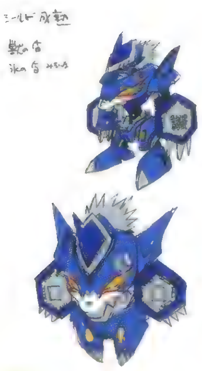


デジタマ>>>

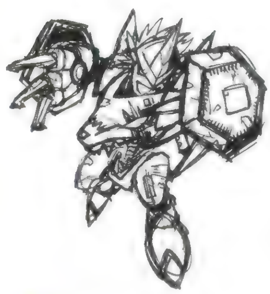


PROFILE >>>

ドルドモンがさらに頑丈になり、優れた俊足を得て進化した姿。高速で突っ走り、戦地に取り残された戦うことのできないデジモンの救助を行う。戦地から離脱するため、自身を盾に変えて持たせることで、どんな攻撃が向かってきても保護対象を守り抜く。ティアルドモンの盾には強力な結界を張ることができる魔法の盾となっており、敵からの攻撃を受け止めて無力化する。
必殺技は、腕のシールドを投擲する『フリスビッカー』、高速移動から爪で攻撃を加える『アサルトクロー』を持つ。



デザインラフ>>>



ポーズラフ>>>



線画>>>

ライジルドモン

RAIJILUDOMON



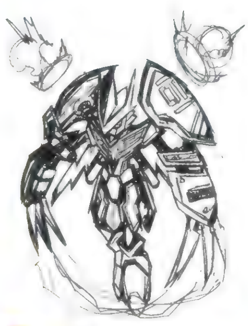
完全体
データ種
防具型

デジタマ>>> 





デザインラフ>>>



ポーズラフ>>>



線画>>>

PROFILE >>>

機械化の要素が強まり飛行能力を手にしたティアルドモンの進化系。俊敏さは犠牲になったものの、究極体からの攻撃を一辺に受けても耐えきるほどの強固さを誇る。肩と腕に装着した盾で電気を帯びたバリアが自動展開される。そのバリアは視認することができず、敵はなぜ攻撃が効かないのか困惑する。また身動きは取れなくなるがバリアを広範囲に広げ、ある程度の地域をまるごと守ることもできる

必殺技は、頭から放つ高出力電撃を敵に叩き込む『ライトニングバスター』、両腕を射出する『ロケットメッサー』を持つ

ブリウエルドラモン

BRYWELUDRAMON

究極体
データ種
防具型

デジタマ>>>





線画>>>



デザインラフ>>>



ポーズラフ>>>

PROFILE >>>

ほぼ体が盾で形成され、ドラゴンの姿となった「Legend Arms」盾デジモンの究極体。神話やゲームから成る「伝説の盾」のデータを得て、どんな攻撃でも傷がつかない最強硬度の盾へ進化している。また白金のレッドデジゾイト製に見えるが、その硬質は解析不能である。ブリウエルドラモンは「ゴースト」と「ジェイ」という2体の自立型AIが左右の視覚を担っている。この「ゴースト」「ジェイ」も炎のバリアを持ち、バリアの範囲はブリウエルドラモンまで拡げることができる。「ゴースト」「ジェイ」はどこまで遠くても活動ができるため、世界全てをバリアで包むことも可能と言われる。最強の盾であるブリウエルドラモンだが、宿敵デュランダモンにバリアを打ち破られ倒されたことがあるらしい。

必殺技は、炎の翼から炎を放つ「グレンストーム」と、翼を分離し炎のバリアを展開しながら敵に突撃する「ブラストスマッシュ」がある。「Legend Arms」の真価である盾に変わったブリウエルドラモンを持てば、どんな敵も攻撃を諦めるという。

ヴォーボモン

VORVOMON



成長期
ウィルス種
岩竜型

デジタマ>>>





線画>>>

PROFILE >>>

固く熱い鉱石でできているデジモン。両腕に翼があり数秒ほどなら飛ぶことはできるが、すぐにヘトヘトになってしまう。とても情熱的で興奮すればするほど、角や爪の熱が上がる。
必殺技は、口から小さくも高温な火炎を吐く『ツチフレイム』。

ラヴォーボモン

LAVORVOMON

成熟期
ウィルス種
岩竜型



デジタマ>>> 





線画>>>

PROFILE>>>

[illegible]



デザインラフ>>>



設定画>>>

ラヴォガリータモン

完全体
ウィルス種
岩竜型



デジタマ>>>







デザインラフ>>>



設定画>>>



線画>>>

PROFILE >>>

重たい体も軽々と飛ばせる大きな翼に、鍛えられた脚力で仁王立ちもできる竜型デジモン。デジタルワールド内にある活火山のマグマ層に潜んでいるとされ、一説ではヴォルクドラモンの近くに生息しているのではとされる。戦闘スタイルは粉塵を散らして敵を覆い、発火ポイントを自在に操って爆破する。敵も動けば発火に繋がるため粉塵に覆われたら最後、敵はいつ粉塵が爆破するかの恐怖に陥る。必殺技は、口からレーザー状の熱線を放つ『メルダイナ[illegible]』と、粉塵を羽ばたかせ拡散して大爆発させる『ワイルドブラスト』。

ヴォルケニックドラモン

VOLCANICDORAMON

究極体
ウィルス種
地竜型



デジタマ>>>







設定画>>>

PROFILE>>>

マグマの中を泳ぐ竜といわれるデジモンで、地中を移動するデジモンもたどり着けないほどの地下深き場所にいるとされる。一部の研究者によれば、デジタルワールドが誕生したときから地下深くより世界を支えてきたのはヴォルケニックドラモンではないかと説く者もいる。ヴォルケニックドラモンが地上に上がってきたとなれば、それはデジタルワールドに何らかの危機が起きているのかもしれない。

必殺技は、とてつもない熱力を吐く「ヴォルケニック・フレア」。ヴォルケニックドラモンに焼かれた土地は草木もよみがえらず、永遠に生物の住むことができない不毛の地となる。また、全身からマグマを超える灼熱の炎を吹き出しながら敵に体当たりする「ブライトフレイズ」がある。



ポーズラフ>>>



デザインラフ>>>



線画>>>

チコモン

幼年期Ⅰ
スライム型

デジタマ>>>





PROFILE >>>

小さくて青い姿をした竜型デジモンの子供。小さくて非力だが、あらゆる竜型デジモンへの進化の可能性を秘めている。そのため、竜型デジモンの研究者やテイマーには非常に貴重がられている珍デジモンである。幼年期デジモン特有のひとなつこさと好奇心旺盛な性格で可愛がられている。他の幼年期デジモンと同じように、酸性の泡を吐いて攻撃するが相変わらず威力は無い。

チビモン

幼年期Ⅱ
幼竜型

デジタマ>>>





PROFILE >>>

チコモンが進化した幼竜型デジモン。幼年期のデジモンには珍しく、胴体と両手足を持っており、小さな両手で物をつかみ、両足でぴょんぴょん跳ねながら移動することができる。非常に食べ盛りで、特に甘いものが大好き。また寝ることが非常に好きで、目を離すとすぐに寝てしまう。必殺技はぴょんぴょん跳ねながら相手に体当たりをする『ホップアタック』。

ブイモン

V-mon



成長期
フリー
小竜型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

新たに発見された新種デジモン。デジタルワールドの創世記に繁栄した種族の生き残りで、デジメンタルを用いて"擬似進化"である「アーマー進化」をすることができる。中でもブイモンは優れた戦闘種族であり、秘めた力を持っており、アーマー進化で爆発的な能力を発揮する。性格的にはやんちゃでイタズラ好きだが、正義感の強い一面も持っている。得意技は両腕をブンブンと振り回し、相手を殴る「ブイモンパンチ」。必殺技は強烈な頭突きで相手を倒す「ブイモンヘッド」。

エクスブイモン

XV-MON



成熟期
フリー
幻竜型

デジタマ>>>

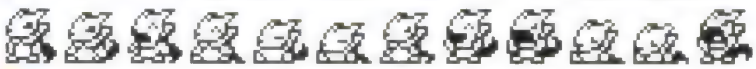


PROFILE >>>

ブイモンが本来の力を得て進化した成熟期の幻竜型デジモン。エクスブイモンはブイドラモンの原種であり、その派生系の一種がブイドラモンであると言われている。その発達した腕力と脚力からくり出される攻撃力は凄まじく、山ほどもある岩石など跡形も無く破壊できるほどである。その破壊力を持つために恐れられているが、実際は正義感が強くむやみにその力を使うことは無い。得意技は、強烈な噛み付き技『ストロングクランチ』。必殺技は胸のＸ字の模様から放射されるエネルギー波『エクスレイザー

メイクラックモン:ヴィシャスモード

完全体
不明
不明



デジタマ>>>



線画>>>

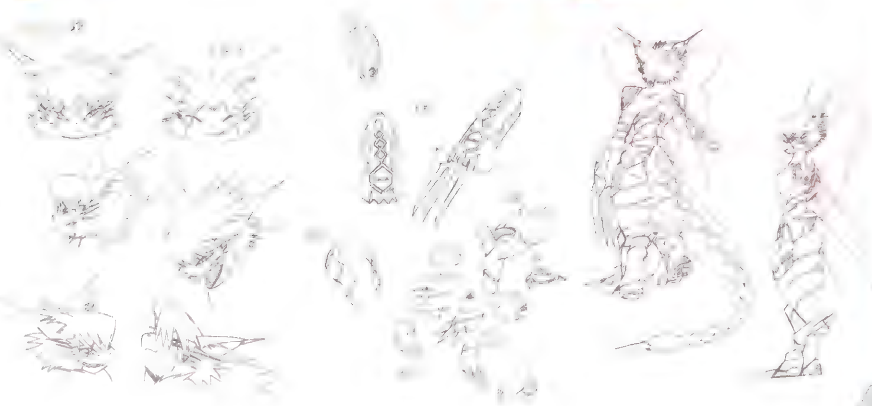


デザインラフ>>>





設定画>>>



PROFILE>>>

穏やかなメイクラックモンの心が悪に染まると、全身にヒビが入ったような姿になる。世界のすべてを自分に仇なす敵として、世界の破壊を望む。優れた聴力と感知能力、また超常的な脚力を活かし、相手が絶命するまで執拗に追い詰める。手足の鎧から伸びる「バイカーストロー」はレーザーライト製で、強靭な肉体から繰り出される切れ味は格段に増し、大型の軍事兵器もことごとく切り裂く。必殺技は、自らの体から毛針を飛ばして分身を生み出す「フェルトメイト」。

ラグエルモン

RAGUELMON

究極体
不明
不明

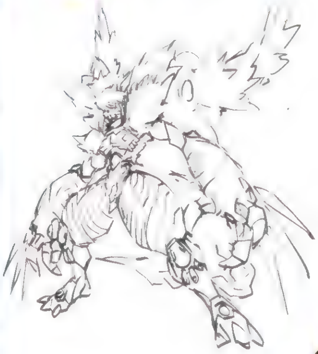


デジタマ>>>

デザインラフ>>>



ポーズラフ>>>







設定画>>>

PROFILE >>>

他の天使型デジモンが堕落しないよう、全ての天使型デジモンを疑いの目で監視する究極体デジモン。堕落が始まった天使型デジモンを見つければ堕落しきる前に撃ち滅ぼす。しかし監視という疎まれる役目であるが故、虚無感に満たされてしまうと全てを拒絶する思考に陥ってしまうという。そうなれば敵味方の区別を持たず破壊行動を始める恐怖のデジモンとなる。
必殺技は、両爪と尻尾の先で敵を斬り刻む"フォルムタラニス"。串刺しにすれば破壊のデータを流しこみ、敵は内部から蝕まれ朽ちていく。また両腕と腹部の宝玉からレーザー弾"パーホルス"を放つ。

フフモン

F U F U M O N



幼年期 I

スライム型

デジタマ>>> 

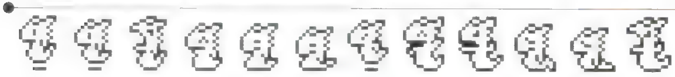


PROFILE >>>

体がとても軽く、生まれたときから空中に浮んでいるスライム型デジモン。大きな敵に襲われると頭部の角を突き立てて目一杯の威嚇をするが、角は非常に柔らかく、敵に刺してもダメージは無い。空中を浮遊する動きがとても遅いので敵に狙われやすいが、近づくと口から『小さな鉄のトゲ』を吐いて攻撃する。

キョキョモン

K Y O K Y O M O N



幼年期 II

レッサー型

デジタマ>>> 



PROFILE >>>

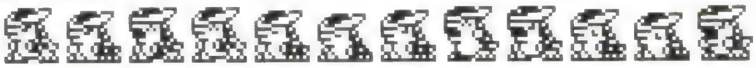
体が長く伸びるレッサー型デジモン。怒ると体長の９倍近くまで体を伸ばして敵を攻撃するが、真正面にしか体が伸びないので避けられてしまうことも多い。フフモンと同じく体が軽く、空中にフワフワ浮んでいるが、両手足で空中を掻いて比較的素早く移動することができる。必殺技は体を伸ばして鉄のトゲを口から放つ『メタルストロー』。

リュウダモン

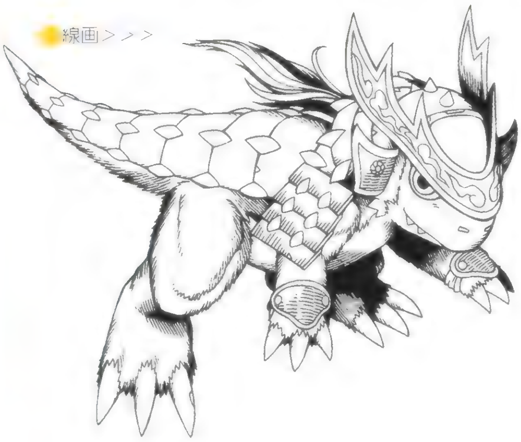
RYUDAMON

成長期
ワクチン種
獣型

デジタマ>>>



線画>>>







デザインラフ>>>

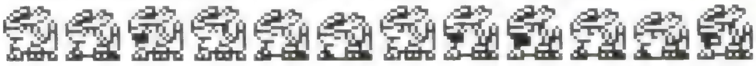
PROFILE >>>

額に旧式なインターフェースをもつ為、デジモンが発見される以前の実験用の"プロトタイプデジモン"ではないかと推測されている獣型デジモン。防御力の高い和風の鎧を身にまとっているが、動きは軽快で、敵の懐に果敢に飛び込んで戦う。戦うほどに戦いの業を修め、強大な敵デジモンをも恐れない魂と潔さ、武士気質（ぶしかたぎ）を持っている。実験のとき、デジコア（電脳核）の最も深い部分に隠されたと言われるデータは、日本の神話における"竜"や"武将"などの猛々しい戦闘データであり、強大なデジモンに成長する可能性をもつと言われている。得意技：敵の攻撃を鎧兜で受けて反撃する「兜返し」。必殺技は敵の懐に飛び込み鉄の刃を口から放つ「居合刃（いあいじん）」。

ギンリュウモン

GINRYUMON

成熟期
ワクチン種
獣竜型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

全身に堅固な和風の鎧をまとう獣竜型デジモン。見た目と異なり体は軽く、空中を優雅に漂い、非常に堅く滑らかなその鎧で敵の攻撃を受け流しながら戦う。自らの体で敵の攻撃を受け流す度胸と、敵の攻撃を寸前で見切る眼力を持って、どんな敵デジモンにも止まらない突破力抜群の攻撃を得意とする。額に旧式なインターフェースをもつ為"プロトタイプデジモン"の進化系ではないかと推測されている。必殺技は鉄の槍を口から放ち敵を射抜く「徹甲刃（てっこうじん）」。得意技は敵の攻撃を鎧で受け流して突撃する「棒陣破（ぼうじんは）」。

ヒシャリュウモン

HISHARYUMON

完全体
ワクチン種
獣竜型



デジタマ>>>



PROFILE >>>

デジコア（電脳核）の最深部に眠っていた日本の神話における“竜”や“武将”の猛々しい戦闘データが、額のインターフェースによって解き放たれた姿であり、重厚に輝く鱗の鎧をまとい大空を縦横無尽に駆け巡る獣竜型デジモン。その移動力は長大で、広大なネット空域のほとんどを制することができる。普段は神の如く聡明で大人しいが、両手に持つ水晶のような球体を傷つけられると、逆鱗に触れるが如く正に荒ぶる神となって全身全霊を込めて襲い掛かる。尚、両手に持つ球体は、今は存在しない同朋の魂であり、右手の球体は“金竜（きんりゅう）”の魂、左手の球体は“角竜（かくりゅう）”の魂であり、それぞれにデジコア（電脳核）の情報が秘められているという。必殺技は自ら巨大な鋼鉄の刀と化し、敵を一刀両断する『成龍刃（せいりゅうじん）』と、敵の上下左右全てを包囲し攻撃を放つ『縦横車（じゅうおうぐるま）』。

オウリュウモン

究極体
ワクチン種
獣竜型



デジタマ>>>





PROFILE >>>

オウリュウモンとは、"デジコア（電脳核）の空想"が生み出した架空のデジモンである。[illegible]デジコア自身の[illegible]奇跡的に解き放たれて進化した姿である。元々デジコアには日本の神話における"竜"や"武将"などの猛々しい戦闘データを持っていたためか、デジコアが創造した姿は、威風堂々とした和風の鎧を身にまとい、両腕に刀を持つ"武者竜"であった。左手の刀は「[illegible]」、右手の刀は「[illegible]」である。背部の翼の刃は「[illegible]」と呼ばれる。必殺技は両腕の刀より放つ「[illegible]（えいせいりゅうおうしん）」と、[illegible]全てを切り裂きながら突進する「[illegible]」。これは[illegible]の必殺技「[illegible]」にルーツがあるとの説もあるが定かではない。

初期デザイン>>>







バドモン

BUDMON

幼年期Ⅱ

植物型



デジタマ>>>



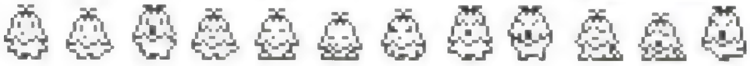
PROFILE >>>

毒をもつ様々な植物のデータが混ざり合い、ツボミのような姿をしている植物型デジモン。普段は葉っぱにのって空中を漂い、何もしない限り攻撃してこない。必殺技は、触れると痛い『ドクトゲトゲ』。怒るとトゲを放つこともある

ララモン

LALAMON

成長期
データ種
植物型



デジタマ>>>

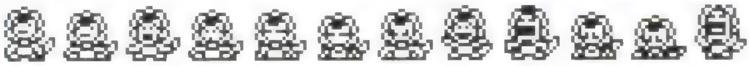


PROFILE >>>

ツボミのような姿をした植物型デジモン。頭部の葉っぱを回転させてふわふわ飛ぶ。無表情だが愛嬌がある。必殺技は、口から固い木の実を放つ『ナッツシュート』。意外と狙いは正確である。また、葉っぱを目一杯回転させて敵に突撃する『ララスクリュー』と、敵を心地良い歌で眠らせる『シング・ア・ソング』をもつ。

サンフラウモン

SUNFLOWMON



成熟期
データ種
植物型

デジタマ>>>







線画>>>

PROFILE >>>

ヒマワリのような姿をした植物型デジモン。太陽の光を浴びるとともに元気になり、攻撃力もアップする。天気の良い日は背中の葉をパタパタさせて飛ぶこともある。必殺技は、花びら全体から放つ太陽光線「サンシャインビーム」と、笑顔で敵をビンタする「スマイリービンタ」。尚、その笑顔は不気味だと恐れられている。また、尻尾のような茎を振り回しトゲを放つ『カクタステイル』をもつ



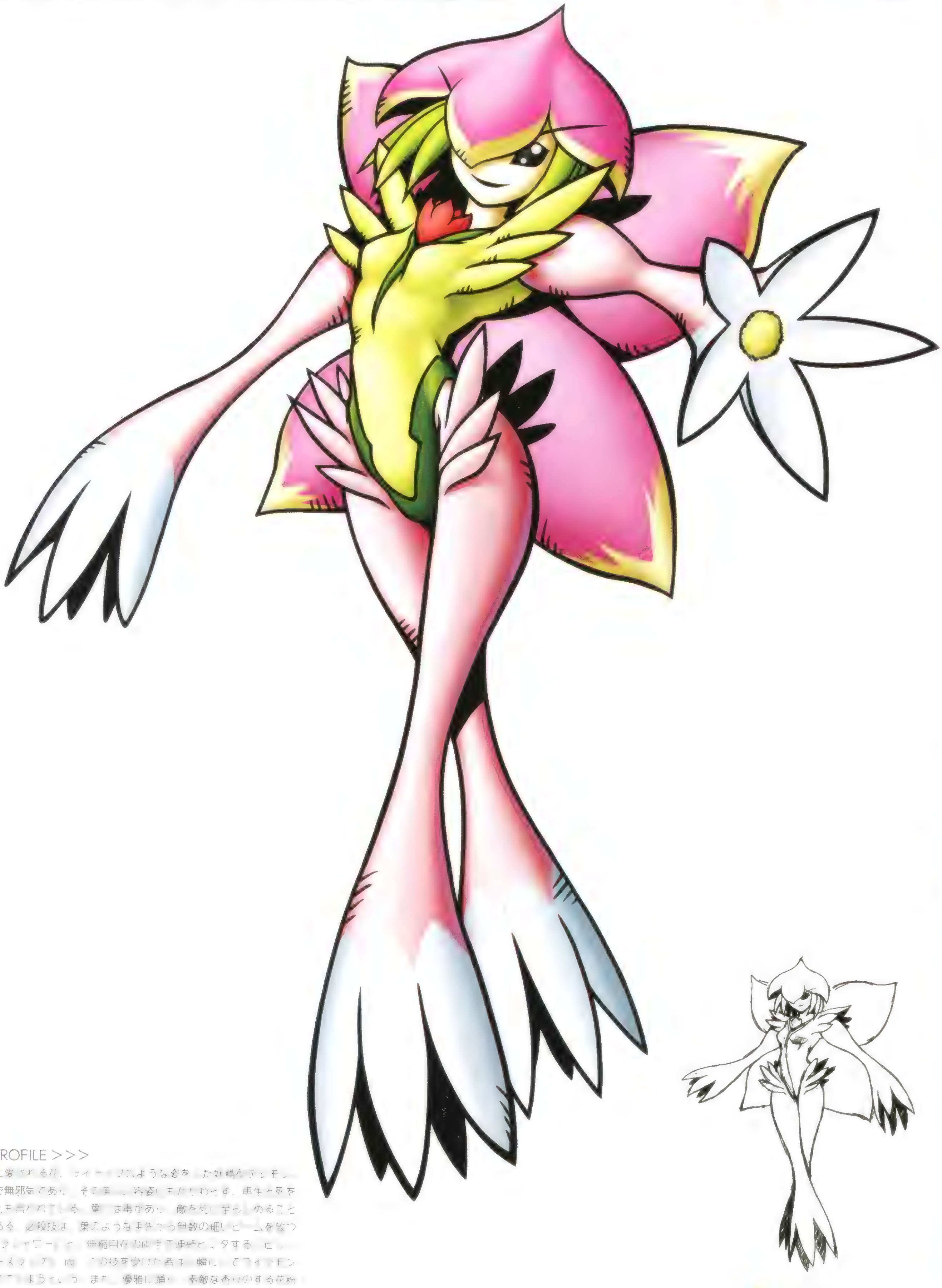
ライラモン

LILAMON



完全体
データ種
妖精型

デジタマ>>>



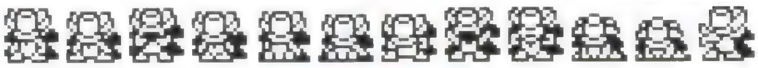
PROFILE >>>

人々に愛される花、ライラックのような姿をした妖精型デジモン。純粋で無邪気であり、その美しい容姿にもかかわらず、再生を司るとも言われている。葉には毒があり、敵を死に至らしめることすらある。必殺技は、葉のような手先から無数の細いビームを放つ「ライラシャワー」と、伸縮自在の両手で連続ビンタする「ビューティースラップ」。この技を受けた者は一瞬にしてライラモンに惚れてしまうという。また、優雅に踊り、素敵な香りのする花粉をまき散らして相手を幻惑する「アン・トゥ・ボラント」をもつ。

デザインラフ>>>

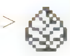
ロトスモン

LOTUSMON



究極体
データ種
妖精型

デジタマ>>>







線画>>>



デザインラフ>>>



初期デザイン>>>

PROFILE >>>

天界に咲く花と言われる蓮のような姿をした妖精型デジモン　性格は物静かで気品のあるお嬢様のようで、浮世の苦しみを忘れ幸せな夢を与える能力を持っている。しかし、その好意に反した者には壮絶な鉄槌を下す。必殺技は、右手に持つ治癒と破滅を司る“双蛇の杖”より放つ白いオーラ『サーペントキュア』と、黒いオーラ『サーペントルイン』である。また、右手に持つ虹色の花の杖より放つ7色のオーラ『セブンズファンタジア』は、相手を幸福な幻想の世界へと誘い戦意を喪失させてしまう

ブイモンのアーマー進化

「アーマー進化」はデジメンタルのパワーを利用するため、通常の進化よりもデジモンに負担がかからず、簡単に強力なパワーを引き出すことができる。そのため、古代デジタルワールドでも危険視されて、デジメンタルを使用できる種族は限られていた。限られていた中で使用を許されていた種族である、ブイモンのアーマー体を紹介。

ブイモン

デジタルワールドの創成期に繁栄していた種族のひとつ。優れた戦闘種族で秘めたる力を持っている。やんちゃでイタズラ好きだが、正義感が強い。





勇気のデジメンタル

フレイドラモン

勇気のデジメンタルにより"炎"の属性を得て、戦闘能力が格段に上がった。全身を炎のロケットに変えて敵を粉砕する『ファイアロケット』が必殺技。



友情のデジメンタル

ライドラモン

"雷"の属性を持つ友情のデジメンタルで、稲妻のように俊敏に動き、電撃を利用して攻撃する。頭のブレードや、背の突起から強烈な電撃を放つ。



奇跡のデジメンタル

マグナモン

クロンデジゾイド製の鎧で絶大な防御力を持つ、ロイヤルナイツの一員である聖騎士デジモン。どんな窮地に陥っても、奇跡の力で切り抜けられる。



運命のデジメンタル

ゴールドブイドラモン

アーマー体の中でも並外れた攻撃力を持つ、究極体クラスの力を発揮する。黄金色のボディで闇を照らし、攻撃時も黄金の熱線を吐いて敵に立ち向かう。



希望のデジメンタル

サジタリモン

ケンタルモンの上位種であり、ケンタレモンの中でも突然変異的に進化するものもいる。必殺技は超金属の矢を放つ「ジャッジメントアロー」。



純真のデジメンタル

ヤシャモン

鬼神のごとき凄まじいパワーを持つが、心優しく弱者を守る。寡黙で冷静沈着なデジモン。両手に持つ2本の木刀をクロスさせて、強力な衝撃波を放つ。



愛情のデジメンタル

セトモン

愛情のパワーが強すぎて制御できず、憎悪のパワーに変換されてしまった。体は不吉な赤色に彩られており、災いの嵐を巻き起こす力を持っている。



誠実のデジメンタル

デプスモン

水中での活動を得意とする、水棲獣人型デジモン。アーマーは耐水、耐圧の能力が高く、ホエーモンと同等に潜水でき、まるで魚のように動き回る。



知識のデジメンタル

ハニービーモン

非常に素早く動き回り敵を翻弄して、背後に回り込んで針を一撃を浴びせる。甘いものが大好物がであり、前に出すと、他のことが一切目に入らなくなる。



光のデジメンタル

ガーゴモン

拘束具によってそのすさまじい力を抑えられている魔獣型デジモン。必殺技は、巨大な悪魔の胸像を召喚して攻撃する「ホワイトスタチュー」。

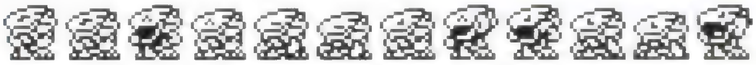


優しさのデジメンタル

カンガルモン

陽気な性格で、踊るように軽やかなステップを踏んでいるところが海岸で目撃できる。素早い動きで相手の懐に飛び込み、アッパーを出して攻撃する。

ドルゴラモン



究極体
データ種
獣竜型

デジタマ>>>







初期デザイン>>>

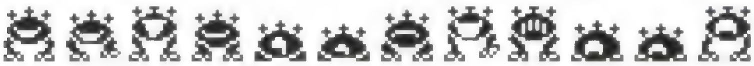
PROFILE >>>

ドルゴラモンとは、"デジコア（電脳核）の空想"が生み出した架空のデジモンである。額のインターフェースによってデジコア自身の創造力までもが奇跡的に解き放たれて進化した姿である。元々デジコア内に伝説の生き物"ドラゴン"の強い生命力のデータを持っていたためか、デジコアの創造した姿は、強大な"破壊"の権化であり、"究極の敵"の化身であった。必殺技は全身全霊を込めた凄まじい突撃『ブレイブメタル』と、破壊の衝撃波を放つ『ドルデ

オグドモン

OGUDOMON

究極体
ウィルス種
化身型



デジタマ>>>

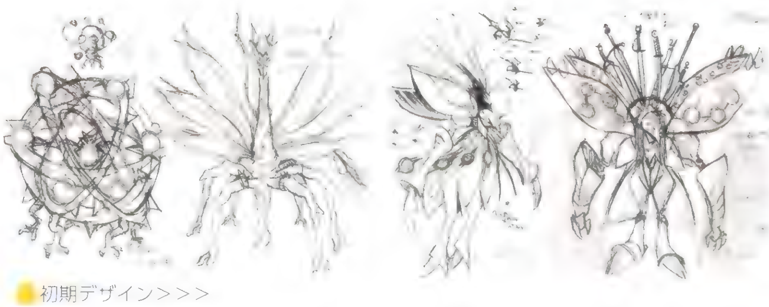


線画>>>



PROFILE >>>

オグドモンとは、7つの眼と7つの脚、そして第8の眼をもつ異形の超魔王である。デジタルワールドの全て罪を内包し、さらに全ての罪を贖罪する力をもつ謎の化身体であり、故に、少しでも悪意のあるデジモンでは力を相殺され、倒すすべはない。必殺技は [illegible]



初期デザイン>>>

オルディネモン

究極体
ウィルス種
堕天使型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

一部の研究者の間では混乱したデジタルワールドの終焉に現れる存在と考えられている、巨大な漆黒の羽を持つ正体不明のデジモン。元は秩序を守る立場であるはずの天使型デジモンが怒りと悲しみにより堕天し、他のデジモンと融合することで誕生すると言われている。オルディネモンの翼は溢れ出した負の感情そのものであり、羽ばたきとともに辺りに瘴気をまき散らす。とめどなくあふれ出る瘴気はやがて世界を覆いつくし、すべての生命は活動を停止するだろう。しかしその本質は慈愛であり、秩序を失った世界を無に帰すことで、世界の救済をはかる高位の存在だ。
必殺技は、口から放つあらゆるデータを破壊する漆黒の波動『エンド・オブ・ザ・ワールド』と、放出した両翼の球体が周囲の敵を撃つ全方位攻撃『マグナフィンシビリティ』。そして、舞い散る羽が無数のデジモンとなって攻撃する『サモン・アポカリプス』は、攻撃対象だけではなく見た者に恐怖と絶望を与える。

パイルドラモン

PAILDRAMON

完全体
フリー
竜人型

デジタマ>>>





別ポーズ>>>

PROFILE >>>

エクスブイモンとスティングモンがジョグレスして進化した竜人型デジモン。竜型をベースにその要素を色濃く残しており、竜の持つパワーと昆虫の持つ甲殻で鉄壁の防御能力を身につけている。パワーもさることながら、俊敏な動きで敵にとどめを刺す。忠誠心が強く、主人のためには命を落とすこともいとわない。得意技は両腕の甲から伸びるパイルを繰り出す「エスグリーマ」。必殺技は腰から伸びている2本の生体砲から放たれるエネルギー弾「デスペラードブラスター」。

インペリアルドラモン：ファイターモード

究極体
フリー
古代竜人型

デジタマ>>>



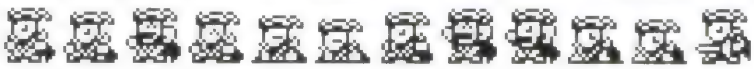


ドラゴンモード>>>

PROFILE >>>

古代竜型デジモンのインペリアルドラモン：ドラゴンモードが全てのパワーを解放し、伝説の竜戦士（ファイターモード）へと形態を変化させた姿。制御の難しかったドラゴンモードから、人型になることで高い知性を身につけた究極のデジモンである。その攻撃は惑星をも破壊するだけのパワーが宿っていると言われている。必殺技は右腕に装着した『ポジトロンレーザー』とポジトロンレーザーを胸部の竜顔にはめ込み、全身のエネルギーを放射する破壊のエネルギー波『ギガデス』。その威力はドラゴンモードの『メガデス』の10倍の威力を持っている。また、完全なる正義に目覚めたとき更なる別モードになることができると言われている。

ボルトバウタモン



究極体
ウィルス種
魔人型

デジタマ>>>





線画>>>

PROFILE >>>

ダークエリアに墜ちる怨念データから生まれ出た"深怨なる手"が、ピエモンとヴァンデモンを強制吸収させた魔を根源とする最凶最悪のデジモン。ピエモンやヴァンデモンの自我はなく、"深怨なる手"に握られた意思で活動する。その意思とは世界を闇で侵食させるための光の根絶である。
必殺技は、腰に携えた剣「スピエディーニ」を魔術で増殖して飛ばす「ブラスィウト・ソトーレ」で少しずつ敵を痛めつけて悶える様を楽しみ、最後はグランドフィナーレと称して四方から一斉に飛ばし、命を奪い去る。また、魔銃「アーテディボロ」から放った弾丸が敵の体内に巣食い、内部からむしゃぶりついて絶命させる「クオーレ・オリーネ」がある。

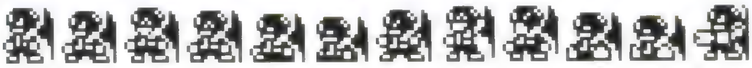


デザインラフ>>>



初期デザイン>>>

ベルゼブモン：ブラストモード



究極体
ウィルス種
魔王型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

ただ精神を極限にまで高めた究極魔王。邪悪に進化したのとは違い、より安定した精神状態を保ち、凶々しかった3つの赤眼は緑色になっている。通常時とは桁違いのパワーとスピードを発揮し、背中から漆黒の4枚の翼を生やしている。この姿になったベルゼブモンの前に、もはや敵は存在しないとまで言われている。右腕がブラスターと一体化しており、強烈なエネルギー波を放ちあらゆるものを原子分解してしまう。得意技は右腕のブラスターから破壊の波動を放つ「デスズリンガー」、必殺技は前方に魔法陣を描き、その中心に向かって破壊の波動を放つ「カオスフレア」。

ラグナロードモン

RAGNALORDMON

究極体
ウイルス種
特異型

デジタマ>>>



線画>>>



PROFILE >>>

「Legend-Arms」の中で最強の剣「デュランダモン」と、最強の盾と言われる「ブリウエルドラモン」がジョグレスして生まれたデジモン。ダークエリアの奥底に潜む邪悪なる者が目覚めたとき、2体の「Legend-Arms」のデジコアが共鳴することで誕生すると言われている。デジコアが高い次元で融合することで作り出された本体は、デュランダモン達が疑似的に「自分たちを扱える騎士」として作り出したものである。

ジョグレスでありながらもデュランダモンとブリウエルドラモンは自分たちの意思を保ち、本体もまた別の意思を持っているという稀有なデジモンである。剣と盾は、ラグナロードモンが直接触れずともそれぞれの意思で自由に飛び回り、三位一体の攻防で敵を翻弄する。抜群な連携から生まれる、予測不可能な間合いから飛び出す強烈な攻撃や絶対的な防御を攻略するのは至難の業だ。

必殺技は遥か上空から振り下ろした剣で敵を一刀両断にする『ディレクトスマッシャー』と、盾から超高温の火炎を吐き出し辺り一帯を火の海に変える『イグニッションプロミネンス』。また、盾の炎を纏った剣で敵を突き刺す最大奥義『デュエルエヴォリューション』は、敵のデータをデジコアごと灼き尽くし、跡形もなく消滅させてしまうという。

アルファモン：王竜剣

ALPHAMON OURYUKEN

究極体
ワクチン種
NODATA

デジタマ>>>



PROFILE >>>

アルファモンが放ったデジ文字の魔法陣の作用により、オウリュウモンが奇跡的な進化を遂げて剣になった姿。オウリュウモンは、さらなる戦闘力が追求された実験体「プロトタイプデジモン」の究極体であり、剣になったことで、その戦闘力の全てが攻撃だけに専念される。王竜剣の一振りは、言わば究極体デジモンに内包された全パワーを扱うことであり、並みのデジモンで振れる剣ではなく、並みのデジモンが受け止められる剣でもない。必殺技は「究極戦刃王竜剣（きゅうきょくせんじんおうりゅうけん）」

ラフレシモン

RAFFLESIMON

究極体
データ種
妖精型

デジタマ>>>



PROFILE >>>

デジタルワールド最大の花と言われる究極体の妖精型デジモン。誰もが魅入られる美しい容姿でありながら、とてつもない異臭を放つ。その美しさに憧れて一目見ようとラフレシモンを探す者も少なくない。しかしラフレシモンとして生きていられる時間は短く、数日で活動を停止してしまう。そのためラフレシモンを見られる可能性は僅かであり「奇跡の花」と呼ばれている。そのような境遇であっても死に悲観することなくラフレシモンは最期まで普通の生き方を求め、優雅に振る舞い続ける。
必殺技は袖からキャノンを撃つ「ハレエガン」。体に舞う大きな花びらがリフレクターとなり反射して敵を逃さない。さらに体から放つ鱗粉「ウィスレン」。この鱗粉が体に付着してしまうと意識を失いラフレシモンの配下にされてしまう。



線画>>>

マスティモン

MASTEMON

究極体
ワクチン種
天使型



デジタマ>>> 





デザインラフ>>>



線画>>>

PROFILE >>>

デジタルワールドに未曽有の危機が訪れたとき、相容れない天使型デジモンと堕天使型デジモンが手を取り合い、ジョグレス進化を果たした姿で現れるという天使型デジモン。ゲートを繋ぎ別のデジタルワールドから呼び寄せた天使族・堕天使族の勢力を統制し窮地に立ち向かう。普段は敵対する両種族をまとめ上げられるのも、『異世界の軍師』と呼ばれるマスティモンの持つ資質ゆえである。自身も相反する2体のジョグレス進化でありながら一本気な心の持ち主で、光と闇のエネルギーを自在に操って様々な状況でデジモンたちに力を貸し、また自らも強敵を討つ。
必殺技は右腕から放つ光の矢で邪悪なる者を討ち滅ぼす「ホーリーディザイア」と、左手で掴んだ相手をデジコアごと握り潰しデリートする「ダークディスパイア」、そして両腕の光と闇のエネルギーを融合させてゲートを作り出し、敵を異次元の彼方へと葬り去る「カオスディグレイド」

カオスモン

CHAOSMON

究極体
ワクチン種
特異型

デジタマ>>>





カオスモン：ヴァロドゥルアーム>>>

PROFILE >>>

通常、ジョグレス時には、２体のデジモン同士のデジコアが完全に融合し、新たなデジモンに生まれ変わるが、カオスモンはジョグレス前のデジモンのデジコアをそれぞれ保持し、非常に不安定な状態でその姿を維持している。カオスモンとは「存在し得ないデジモン」のコードネームであり、デジタルワールド[illegible]（中央管理）では絶対にありえない特異（バグ）である。極めて不安定な存在のため、寿命が非常に短く、デジタルワールドの管理システムが放つバグを排除するプログラムが走るために寿命が短くなってしまうと推測される。このカオスモンはバンチョーレオモンとダークドラモンがジョグレスして生まれたものと見られており、両腕にそれぞれのデジモンの面影を見ることができる。必殺技は、「バンチョーアーム」に装備された「BAN－CHOブレイド」からくり出される無敵の一刀両断『覇王両断剣』と、「ダークドラアーム」に装備された「ギガスティックキャノン」から自身のデジタル細胞を打ち出す『ダークプロミネンス』。

※カオスモン：ヴァロドゥルアームは「ver.20th」には収録されていません

オファニモン:フォールダウンモード

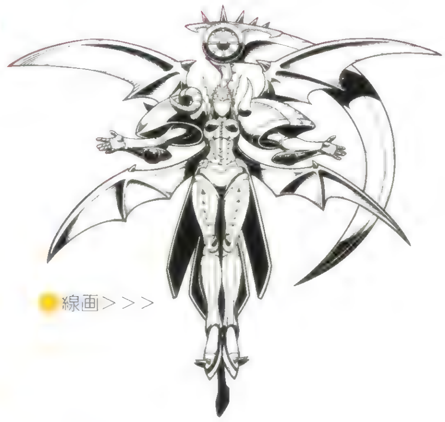
究極体
ワクチン種
堕天使型







初期デザイン>>>



線画>>>

PROFILE >>>

怒りのあまり自らの感情を殺し、狂気に落ちたオファニモンの姿。どれだけ粛清しても残虐非道な悪行は増え続ける世界に憤りが高まり、心を閉ざしてしまった。悪の芽を摘むために、正義の弊害になると判断した相手は誰であろうと狩り、自分が認める正義の世界を築き上げようとするのである。必殺技は、武器となる炎を纏った「フレイムヘルサイズ」で敵を狩り、狩った魂を業火とともに地獄へ陥れる。また息絶えるまでなぶり続ける召喚技「デモンズクリスタル」がある。

ベルスターモン

BEELSTARMON

究極体
ウィルス種
魔人型







線画>>>



初期デザイン>>>



デザインラフ>>>

PROFILE >>>

2丁拳銃を華麗に操る、その容姿から「ベルゼブモン・レディ」とも呼ばれるデーモン。愛用する2丁拳銃「ブリッツマデロート」はベルゼブモンが持つ「ベレンヘーナ」の姉妹銃にあたる。誰とでも気兼ねなく打ち解けあい、特に銃使いのデジモンとは気の合う仲間が多く、マグナキッドモンからは「レディ」の愛称で呼ばれている。ただ「ベルゼブモン」とは犬猿の仲で、実力は認めるものの微妙な距離を取り続けている。漆黒のレザースーツを身に着け、攻防や翼など用途に応じて変化できるマフラーを着用する。必殺技は「ブリッツマデロート」から放たれる「ダークバレット」で、敵の急所めがけてホーミングする。また「ブリッツマデロート」の仕込みナイフで敵を引き裂く「ダブルスロウ」、俊敏な旋風脚でブーツの踵に潜ませた銃から弾丸を乱れ撃つ「[illegible]」。

スティングモン

STINGMON

成熟期
フリー
昆虫型





PROFILE >>>

人型の形態を持つ、非常に珍しい昆虫型デジモン。昆虫型デジモン特有の硬い外骨格と素早い動きをもっている。暗殺者としての能力に長けており、俊敏な身のこなしと的確な判断力で敵の急所を狙い、一撃で敵を沈黙させる攻撃を得意とする。いたって冷静で知性は高く、クールな性格の持ち主だ。必殺技は両腕のスパイクで敵を串刺しにする恐ろしい技『スパイキングフィニッシュ』。

スサノオモン susanoomon

究極体
ワクチン種
神人型







ゼロアームズ：オロチ装備>>>

PROFILE >>>

東方の伝承に伝えられる最強の破壊神にして再生を司る神。ネットワークシステムの異常時に降臨し、既存のシステムを無のものとし、新たなシステムを創造すると伝えられる。必殺技はゼロアームズ：オロチより放たれた光の剣が、天下のあらゆるものを切り裂き斬る『天羽々斬（あまのはばきり）』と、天上に向けて『ゼロアームズ：オロチ』より放たれた光の剣が、破壊の稲妻となって地上に降り注ぐ究極技『八雷神（やくさのいかづち）』。

アポカリモン

APOCALYMON

究極体
不明
種族不明



PROFILE >>>

負の想念が、闇のパワーによって集まって出現した謎のデジモン。その正体を知るものは誰もおらず、この物体がデジモンなのかも解析することはできない。その出現理由は定かではないが、混沌とした電脳世界（デジタルワールド）を粛清し"無"に帰そうとしていると考えられる。一説には太古の予言書にアポカリモンの出現を予言しているものがあると言われている。必殺技は、無限に広がる闇を発生させ、全てを"無"に帰してしまう「暗黒（ダークネスゾーン）」。この闇に包まれたものは、全方位の方向感覚を失い、消滅していくと言われている。

NEO

不明
不明
不明



PROFILE > > >

現在の技術では解析不能な謎のデジタル生命体。今のデジモン研究の枠では「デジモン」という種族にあてはめることが出来ず、今後の研究が急がれるところである。大きな特徴としては、デジタルワールドに存在するすべてのデジモンの性質（竜・獣・水・機械・変異・聖・暗黒・虫・草木）を兼ねそろえており、仮説ではあるが、デジタルワールドを司るシステムが遣わした「次世代のデジモン」の雛形（アダム）ではないかと言われている。小柄な体格ではあるが形容することのできないほどの力を持っており、デジタルワールド最強の存在である究極体デジモンですらネオの前には無力な存在と化す。「ジャッジメント」は目の前にあるすべての存在を無に還してしまい、文字通り「存在しなかった」ものとなる。また、「ゼロ・ジェネシス」は「ジャッジメント」によって発生した無を新たな存在で埋めることが可能であり、破壊と創造を行い、デジタルワールドそのものを作り変えてしまうほどの力を秘めている。



線画 > > >

エリスモン

HERISSMON

成長期
データ種
哺乳類型





線画>>>



デザインラフ>>>

PROFILE >>>

好奇心旺盛で物事に熱中すると周りが一切目に入らなくなるが、警戒心は強く、怖いと感じると針のように硬い針毛を逆立てて危険が去るまで丸まってやり過ごす。ただし打ち解けた者にはよく懐き、針毛の中に隠したお気に入りの宝物を見せてくれる。過去に何度かイタズラされたことがあり、テイルモンを見ると少し身構えてしまう癖があるようだ。必殺技は、閃光を纏わせた針毛を撃ち出し相手を攻撃する「ライトニングファー」と、ボールのように体を丸めて突進する「ケンザンダイブ」。

ブルコモン

BLUCOMON

成長期
データ種
小竜型





PROFILE >>>

氷に閉ざされた大地に棲息する小竜型デジモン。極寒の地で鍛えられた筋力は、自分の体よりも大きなものを軽々と持ち上げる。ただ体の大半が氷でできているため、気温が熱くなると溶けて細くなりパワーが下がってしまう。生き物の絶対数が少ない地で育つため、他のデジモンを見つけると種族が違っても仲間意識を強く持つ。特になかでもペンモンとは仲が良い。
必殺技は口から冷気を放ち、無数の小さな氷を撃ち出す「ヘビーヘイル」と、氷の外殻で連続攻撃する「アイスマ[illegible]ン」。



線画>>>

シスタモン シエル

SISTERMON CIEL

成熟期
データ種
パペット型





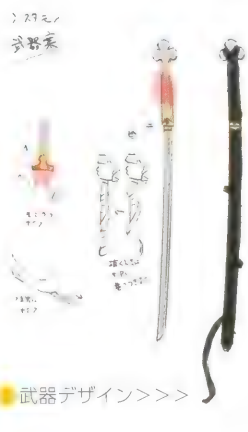
線画>>>



デザインラフ>>>



ポーズラフ>>>



武器デザイン>>>

PROFILE >>>

頭にネズミの形をしたベールを被っているデジモンで、シスタモンブランの姉でノワールとは双子の間柄。ノワールやブランとは行動をともにせず、デジタルワールドを渡り歩き異変などを調査し、カンクゥモンに各地の情報を伝えている。性格はおっとりしているが芯が強く、渡り歩いた先々のデジモンたちからも人気が高い。日中は和気藹々と平和に暮らす姿を見せるが、夜になると情報を得た不穏分子を狩る暗殺者に一変する。

"白詰一文字"と呼ばれる愛刀を持ち、音を立てずに敵を斬る「白詰一文字切り」を得意技とする。また袖から忍びナイフを2連射する「白殺（びゃくさい）」、敵の油断を誘い至近距離から足に仕込むナイフで急所を突く「突蜂（とっぽう）」と様々な暗殺技がある。

シスタモン ブラン

SISTERMON BLANC

成長期
ワクチン種
パペット型







PROFILE >>>

うさぎを被ったような女の子型なデジモンで、姉にシスタモン ノワールがいる。姉のノワールとは対照的でやや引っ込み思案で、いつも姉の後ろに隠れていることが多い。姉同様にハックモンのお世話をしており、警護もこなしている。ガンクゥモンの依頼を忠実に行おうとハックモンとの鍛錬に力を貸すが、姉の暴れっぷりに引き気味になることがしばしばである。ガンクゥモンには姉とともに助けられた恩に報いるため、ハックモンのお目付け役に全力で取り組んでいる。武器に持つ三叉の槍"クロスパーピー"は相手を貫く"ティーダイン・ピース"の攻撃面と、石突きを地面に突いて起こす波動"プロテクトウェーブ"で身を守る防御面、両方を兼ね備えている。また、姉との連携技"グランドシスターフェス"がある。



覚醒時の姿>>>

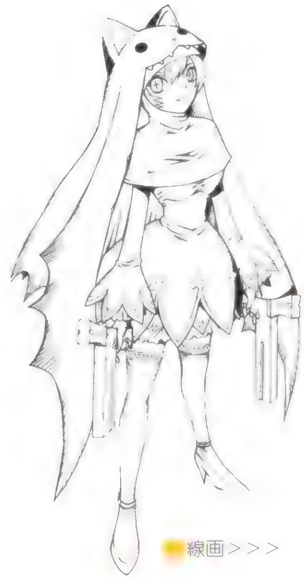
シスタモン ノワール

SISTERMON NOIR

成熟期
ウィルス種
パペット型







線画>>>



覚醒時の姿>>>

PROFILE >>>

頭の黒猫の形をしたクロブークを被っている修道女のデジモンで、シスタモン ブランとは姉妹の間柄である。とても陽気な性格で天真爛漫な振る舞いから場を和ませる。ガンクゥモンよりハックモンの面倒を言いつかり、ガンクゥモンの旅に同行しながらハックモンの訓練をしている。ただシスタモン ノワールは鍛錬半分・遊び半分で取り組んでおり、ハックモンが悲痛な言葉をだしても笑い飛ばしながら銃口を向ける。
その昔、妹のブランと共に路頭に迷い力尽きようとしていたところをガンクゥモンに助けられた過去を持っている。
“アン[illegible]” と呼ばれる銃を両手に持ち、必殺技には乱れ撃ちの『ミ[illegible]キーバレット』と、一直線に弾丸を2連発する『ブレスファイア』、さらに妹と動きを合わせて敵を仕留める『グランドシスタークルス』がある。

デジコラム7

テイルモンのアーマー進化

簡単に強力なパワーを引き出すことができる、デジメンタルによるアーマー進化。だが、デジモンとデジメンタルによっては相性があり、無理やりデジメンタルを使用するとパワーが逆作用して暴走する例もある。古代種族の末裔ではないが、眠っていた特殊能力によりアーマー進化できるようになった、テイルモンの進化形態を紹介



テイルモン

ホーリーリングをしっぽに付けた、聖獣型デジモン。小さい体に非常に強力なパワーを秘めているが、リングが外れると本来の力を発揮できなくなる



光のデジメンタル

ネフェルティモン

強大な聖なる力で、闇を浄化する能力を持つ。必殺技は、デジ文字が刻まれた古代碑文の巨石を召喚して、敵に叩きつける『ロゼッタストーン』



知識のデジメンタル

バタフラモン

花畑のある温厚な気候の地域に生息し、争いごとを好まない友好的な性格。止むに止まれぬ場合の自衛の技として幻覚を見せる鱗粉を相手に降り注ぐ



友情のデジメンタル

ピットモン

両手の爪はダイヤモンドをも砕き、硬質な地層を掘り進む。地中を移動中に古代化石を見つけると、コレクションするという性質を持つと噂されている







奇跡のデジメンタル

メイルドラモン

ナイトモンの従者であり、背に乗せて戦場を駆け巡る。「動く要塞」とも呼ばれる巨体で、敵にのしかかり押しつぶす『アイアンプレス』が必殺技。

勇気のデジメンタル

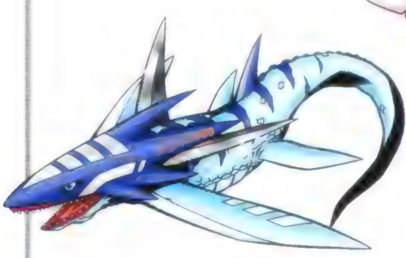
ランクスモン

ガルルモンとお互いにライバル関係だった炎の魔獣型デジモン。必殺技は、体内の熱エネルギーを爆発させて、爆炎を発生させる『サーマルメイン

愛情のデジメンタル

スワンモン

コンピュータ内を通過するとブリザードを起こすと言われる。寒冷地を好むデジモン。翼を広げて冷風を巻き起こし、凍った羽で切り裂きもする









誠実のデジメンタル

ティロモン

「深海のジェット機」の異名を持つ、水中移動スピードが速いデジモン。獰猛な性格で、縄張りに入ったものは、自分より大きな相手でも襲いかかる。

純真のデジメンタル

カブキモン

植物系のデジモンで、頭と両手に花を咲かせ、普段は見栄を切った状態で地面から養分を摂取する。人目につくような、変わった身なりや行動をする。

希望のデジメンタル

ゴートモン

強力な結界を張って、重要なデータを保護するようプログラムされている。しかし山羊の性質を持っていることから、書類データを食べてしまうことも。

優しさのデジメンタル

オポッサモン

乾燥した砂地で普段は砂に潜りバルーンだけを地上に出している。バルーンにつかまり跳ねて移動するが、強力なコンピュータウィルスを仕込んでいる。

デジコラム8

ホークモンのアーマー進化

一部の成長期、もしくは成熟期は、デジメンタルとの融合（アーマー進化）することで「アーマー体」へと進化する。デジメンタル自身の強さや相性により、成熟期からときには究極体と同等の力を発揮する。そんな特殊な進化を可能とする古代種の末裔であるホークモンの、アーマー体の姿を紹介する







純真のデジメンタル

シュリモン

純真のデジメンタルして草木の力を得たデジモン。自然と同化する能力で、風に隠れ敵の死角から現れて攻撃する、まさに忍者のように行動する

愛情のデジメンタル

ホルスモン

風の属性を持つ愛情のデジメンタルで進化した姿。空中戦が得意で、翼からの衝撃波をくり出したり、体を回転させて巨大な竜巻をおこして攻撃する。

ホークモン

非常に礼儀正しく、冷静沈着な鳥型デジモン。啄木鳥のように激しく嘴で突いたり、頭部の羽飾りをブーメランのように飛ばして攻撃する。









友情のデジメンタル

リンクモン

光速の98％まで加速することができる非常に俊敏なサイボーグ型デジモン。自慢のスピードで体を高速スピンさせて、両腕のカッターで敵を切り刻む

奇跡のデジメンタル

ピーコックモン

ブルーメタリックのクロンデジゾイドで全て作られたボディから、レーザー状のウイングを出して高速飛行する。このレーザーは、攻撃にも使用する

勇気のデジメンタル

アロモン

ティラノモンと敵対関係にある、凶暴なデジモン。強靭な脚力を持っており、頭部を前に出して水平の姿勢を取ることで、猛スピードで走ることができる。

誠実のデジメンタル

オルカモン

陸では風を切るように走り、水中では水流を乱すことなく優雅に泳ぐ。彼を頼って相談に来るデジモンがいるほど、水中での活動を得意としたデジモン。









知識のデジメンタル

フライビーモン

縄張り意識が非常に強く、侵入者はたとえ究極体だろうと撃退しようとする。必殺技は、尻尾の先の硬質な針を撃ち出す『ニードルスティンガー』。

光のデジメンタル

ハーピモン

データベースから貴重なデータを奪い取る「かすめ取る者」と呼ばれる盗賊デジモン。必殺技は、風を操り真空刃を発生させる『ウィンドシーカー』。

希望のデジメンタル

ムースモン

「山の守り神」とも呼ばれる山岳地帯に生息するデジモン。雷や雪崩が突然起こるなど、ムースモンの機嫌が山の天候を左右すると言われている。

優しさのデジメンタル

トーカンモン

羽根が退化して飛べなくなってしまい、陸地で生活する鳥型のデジモン。不安なことがあると首をすくめて、すぐに自分の殻に閉じこもろうとする。

Chapter2>>>

DIGITALMONSTER ART WORK
ver.Xevolution

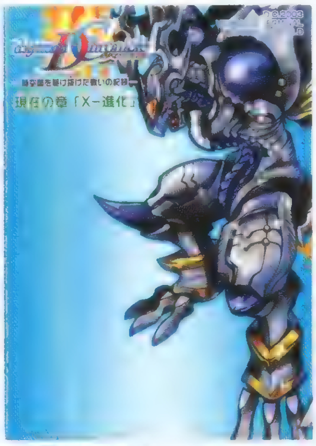
2003年に発売された「デジモンペンデュラムエックス」。
そこで登場したX抗体デジモンの一部を掲載。
今後展開される、新たなエックス抗体の物語に備え、デジモンたちを予習しよう。



デジモンクロニクル

現在の章「X－進化」

「ペンデュラムエックス」を持つ少年とそのパートナーデジモンが主人公。「NEWデジタルワールド」を舞台に、液晶玩具で進行するストーリーの一部が描かれる。



ペンデュラムエックス
「デジモンクロニクル」オリジナルブック収録





キャラクター>>>



コータ

「NEWデジタルワールド」の、ベルサンディターミナルを冒険する少年。パートナーと共に戦い、守ろうとする強い意思を持つ。

キャラクター>>>



ドルモン

額に旧式のインターフェースを持つ、プロトタイプデジモン。コータと共に旅をし、彼の気持ちに呼応するように進化を果たしていく。



「デジモンペンデュラムエックス」付属の小冊子に
収録されていた、4つの短編マンガを再掲載する。



現在の章「死のX－進化」

デクスリューション

同じく「ベルサンディターミナル」が舞台の第2章。ペンデュラムエックスの特徴である「XAIシステム」が物語の中に登場して、大きな意味を持って描かれる。



ペンデュラムエックス ver.1.5
「デジモンクロニクル」オリジナルブック収録



X抗体を取り込んだオメガモンに、コータとドルガモンへと進化したドルモンは敗れてしまう



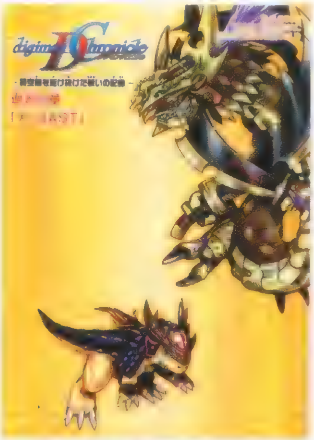


デクスドルゴラモンへと進化したことに危機感を覚え、その存在を別空間へと飛ばしてしまう



過去の章「X－CAST」

古代種が繁栄する過去の世界である「ウルドターミナル」を舞台に、新たなテイマーも登場する3つ目の物語。ペンデュラムの重要性が描かれる。



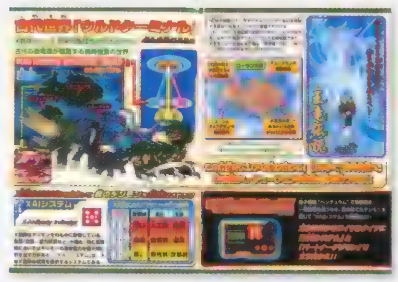
ペンデュラムエックスver.2.0
「デジモンクロニクル」オリジナルブック収録











ウルドターミナル内の「ローラン大陸」、「フォレストリーフ」や「アクアオーブ」など、玩具内での重要なアイテムなどの解説も含めた物語設計になっている





キャラクター>>>



ユージ

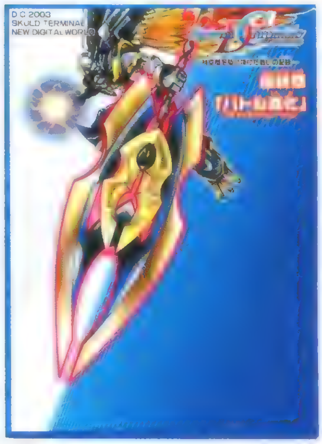
リュウダモンと共に冒険する少年。過去の失敗から、勝利へのストイックさを持つようになった。

最終章「バトル進化」

未来「スクルドターミナル」を舞台に描かれる最終章。コータとユージのパートナーが力をあわせ、未来を切り開くためデクスモンへと立ち向かう。







ペンデュラムエックス ver.3.0
「デジモンクロニクル」オリジナルブック収録



ドルモンが抜け出したデクスドルゴラモンは、「抜け殻のデータ」として活動を続け、デクスモンへと変化した。









キャラクター>>>



リュウダモン

ユージのパートナーである、プロトタイプデジモン。マンガ内ではオウリュウモンへと進化を果す。

X抗体デジモン ART WORK



オメガモン(X抗体)

OMEGAMON X

究極体／ワクチン種／聖騎士型



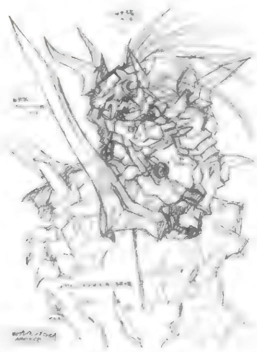


ガイオウモン

GAIOUMON

究極体／ウィルス種／竜人型





「Xプログラム」を自ら取り込み、「X抗体」を作り上げたデジモンたち。
姿形が大幅に変化した、特に注目度の高いデジモンたちをピックアップ。

ウォーグレイモン(X抗体)

究極体／ワクチン種／竜人型



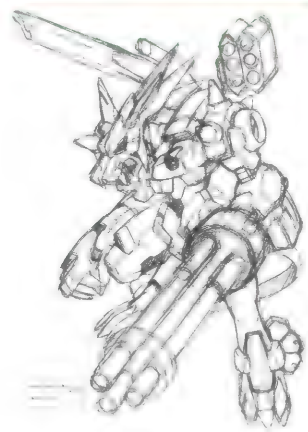






メタルガルルモン(X抗体)

究極体／データ種／サイボーグ型



アルフォースブイドラモン(X抗体)

究極体／ワクチン種／聖騎士型







別ポーズ>>>



マグナモン(X抗体)

アーマー体／フリー／聖騎士型





ドゥフトモン(X抗体)

究極体／データ種／聖騎士型

デュークモン(X抗体)

究極体／ウィルス種／聖騎士型











メギドラモン(X抗体)

究極体／ウィルス種／邪竜型





ホーリードラモン(X抗体)

HOLYDRAMON X

究極体／ワクチン種／聖竜型



ゴッドドラモン(X抗体)

GODDRAMON X

究極体／ワクチン種／聖竜型

X抗体デジモン ART WORK：究極体

イーバモン(X抗体)

EBEMON X

究極体／ウイルス種／サイボーグ型



カオスドラモン(X抗体)



究極体／ウイルス種／マシーン型

デュナスモン(X抗体)



究極体／データ種／聖騎士型

スカルマンモン(X抗体)



究極体／ワクチン種／アンデッド型

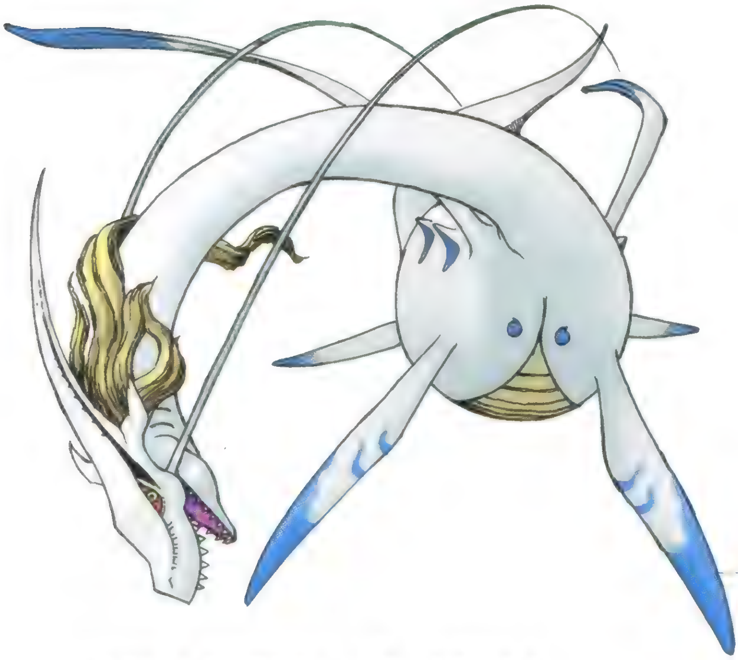
デジモンを削除するためのシステム「Xプログラム」。それを自ら取り込んでパワーアップした究極体デジモンたち。そのイラストを掲載する。

プリンスマメモン(X抗体)

PRINCEMAMEMON X

究極体／データ種／突然変異型





プレシオモン(X抗体)

PLESIOMON X

究極体／データ種／首長竜型

ベルゼブモン(X抗体)

BEELZEBUMON X

究極体／ウイルス種／魔王型





ロゼモン(X抗体)

ROSEMON X

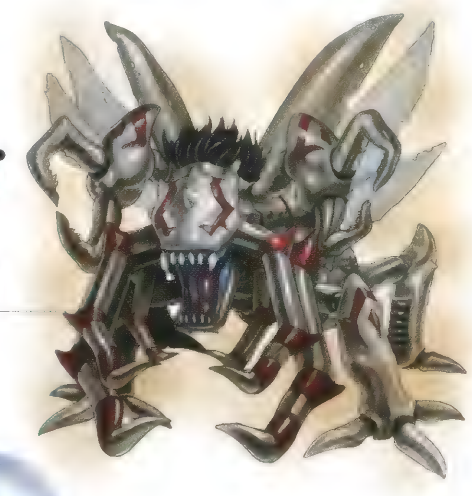
究極体／データ種／妖精型

X抗体デジモン ART WORK：完全体



アノマロカリモン(X抗体)

完全体／データ種／古代甲殻類型



オオクワモン(X抗体)

完全体／ウィルス種／昆虫型

ガルダモン(X抗体)

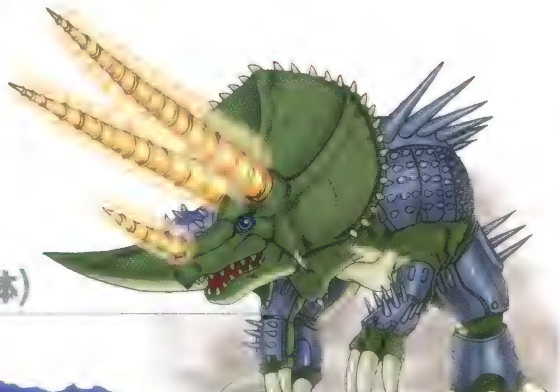
完全体／ワクチン種／鳥人型





ケルベロモン(X抗体)

完全体／ワクチン種／魔獣型



トリケラモン(X抗体)

完全体／データ種／角竜型

パンジャモン(X抗体)

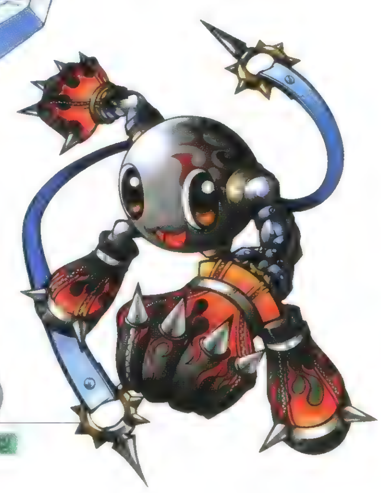
完全体／ワクチン種／獣人型





ベーダモン(X抗体)

完全体／ウイルス種／宇宙人型



マメモン(X抗体)

完全体／データ種／突然変異型

X抗体によりデジコアに大幅な影響を受けたデジモンたち。潜在能力が引き出され、姿形までも生まれ変わった、完全体デジモンたちを紹介。



マンモン(X抗体)
完全体／ワクチン種／古代獣型



メガシードラモン(X抗体)
完全体／データ種／水棲型



メガログラウモン(X抗体)
完全体／ウイルス種／サイボーグ型



メタルグレイモン(X抗体)
完全体／ワクチン種／サイボーグ型



メタルティラノモン(X抗体)
完全体／ウイルス種／サイボーグ型



メタルマメモン(X抗体)
完全体／データ種／サイボーグ型



リリモン(X抗体)
完全体／データ種／妖精型



ワーガルルモン(X抗体)
完全体／ワクチン種／獣人型

X抗体デジモン ART WORK：成熟期



ガルルモン(X抗体)
成熟期／ワクチン種／獣型



グラウモン(X抗体)
成熟期／ウィルス種／魔竜型



グレイモン(X抗体)
成熟期／ワクチン種／恐竜型



クワガーモン(X抗体)
成熟期／ウィルス種／昆虫型



ゲソモン(X抗体)
成熟期／ウィルス種／軟体型

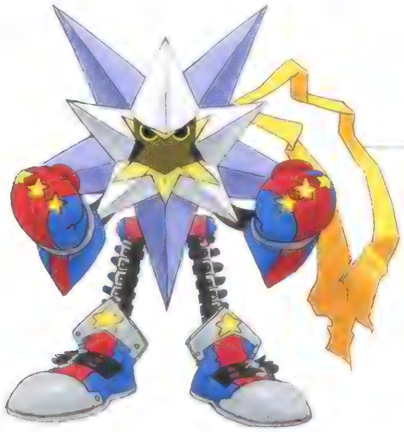


サンダーボールモン(X抗体)
成熟期／データ種／突然変異型



シードラモン(X抗体)
成熟期／データ種／水棲型

先天的にX抗体を持って生まれるデジモンも存在する。外見のみでは判別つかないので注意が必要だ。成熟期にもそのようなデジモンが介在する。



スターモン(X抗体)
成熟期／データ種／突然変異型



テイルモン(X抗体)
成熟期／ワクチン種／聖獣型



ドーベルモン(X抗体)
成熟期／ウィルス種／魔獣型



トゲモン(X抗体)
成熟期／データ種／植物型



モノクロモン(X抗体)
成熟期／データ種／鎧竜型



ラプタードラモン
成熟期／ワクチン種／サイボーグ型



レオモン(X抗体)
成熟期／ワクチン種／獣人型

X抗体デジモン ART WORK：成長期



アグモン(X抗体)
成長期／ワクチン種／恐竜型



オタマモン(X抗体)
成長期／ウィルス種／両生類型



ガジモン(X抗体)
成長期／ウィルス種／哺乳類型



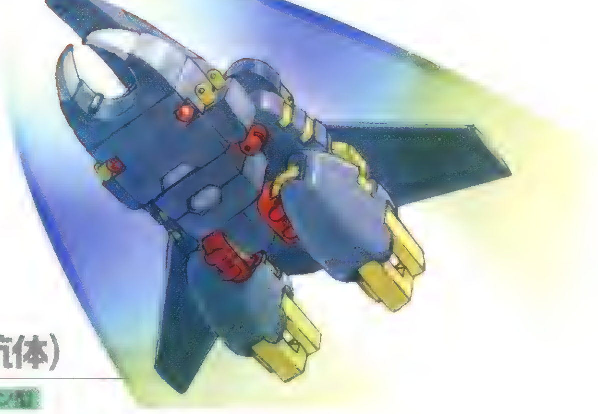
ガニモン(X抗体)
成長期／データ種／甲殻類型



ギルモン(X抗体)
成長期／ウィルス種／魔竜型



ガブモン(X抗体)
成長期／データ種／獣型



コクワモン(X抗体)
成長期／データ種／マシーン型

X抗体は摂取し続けないと消滅してしまうため、他のデジモンを襲い奪わなければならない。その過酷な運命は成長期デジモンにも共通している。



ゴツモン(X抗体)

成長期／データ種／鉱石型



ゴマモン(X抗体)

成長期／ワクチン種／海獣型



シャコモン(X抗体)

成長期／ウィルス種／甲殻類型



パルモン(X抗体)

成長期／データ種／植物型



ハグルモン(X抗体)

成長期／ウィルス種／マシーン型



プロットモン(X抗体)

成長期／ワクチン種／哺乳類型



ベタモン(X抗体)

成長期／ウィルス種／水棲型

X抗体デジモン ART WORK：アーマー体

アーマー体に分類されるデジモンたちもX抗体を手に入れる。X抗体で姿形が変化していても、アーマー体・フリーという分類のままであるようだ。



アロモン(X抗体)
アーマー体／フリー／恐竜型



ティロモン(X抗体)
アーマー体／フリー／海竜型



ネフェルティモン(X抗体)
アーマー体／フリー／聖獣型



マンタレイモン(X抗体)
アーマー体／フリー／水棲型

デジコラム9

オメガモンアラカルト

ウォーグレイモンとメタルガルルモンが、善を望む人々の強い意思によって融合して誕生した「オメガモン」。劇場版アニメで初登場して以来、ゲームや液晶玩具などあらゆる媒体で活躍し続けている。またウィルス種や亜種などの新しい姿も登場し、バリエーションが増えている。このページではそんなオメガモンの姿を一挙掲載する。



オメガモン:マーシフルモード

マントが翼へと変化し、全身に青いラインが入る。"マーシフル"は「慈悲」を意味し、渡辺けんじさんが"介錯する者"というイメージでデザインした。

デザインラフ>>>



武器デザインラフ>>>





オメガモンズワルト

カメ物質「ブラックデジトロン」が体内に混入し、全身が黒くなりパワーが増加した姿。必殺技は『ガルルキャノン』と『グレイソード』のままである。



オメガモンズワルトDEFEAT

オメガモンズワルトがウィルスを注入され、狂戦士にされた姿。体内のウィルスとワクチンが反発しあい、傷ついた体が疲弊・暴走をくり返している。



オメガモンAlter-B

オメガモンAlter-Sにブラックデジトロンが混入されて、一時的に黒い姿となる。この姿の間はパワーが増加されるが、自我を失って暴走状態となる。



オメガモンAlter-S

ブラックグレイモンとクーレスガルルモンが融合して誕生した、謎多きオメガモン。右手の「カレルソード」、左手の「ブレイキャノン」が必殺技。

その他>>>>>



オメガシャウトモン

シャウトモンがオメカモンから「オメガインフォース」を授かり、手に入れた姿。光の速さで移動し、胸から溢れる情熱を火力に変えた弾丸で攻撃する。



オメカモン

とあるコンピュータの設計図面データから誕生したパペット型デジモン。自分が何者かわからず、とりあえず有名な聖騎士の格好をしてみている。

Chapter3>>>

Making of PENDULUM
「デジモンペンデュラム」ができるまで

「デジモンペンデュラム」の歴史や「ver.20th」の仕様など、スタッフインタビューも
交えながら細かく分析する。「X抗体デジモン」に関わる、
「デジモンクロニクル」についても紹介。



デジモンペンデュラムのキセキ

デジモンペンデュラム ① NATURE SPIRITS

新デジモン・新要素を加えて、装いも新たに発売された液晶玩具「デジモンペンデュラム ネイチャースピリッツ」。一部の育成可能デジモンやパッケージイラストが変更された「PENDULUM.1.5」が1999年の１月に、通販や大会会場限定で発売された。画像にはないが、「1.5クリア×グレー」がある。

October



[シルバー×グレー]



[シルバー×ブルー]



[1.5 クリア×ブルー]

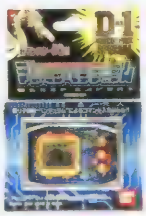
1998年　10月　1999年

12月　3月

December



[2.5 クリアブルー×シルバー]



[2.5 クリアブルー×オレンジ]



[ブルー×シルバー]



[ブルー×オレンジ]



[レッド×ブラック]



[レッド×ブルー]



[3.5 クリアレッド×ブラック]



[3.5 クリアレッド×ブルー]

デジモンペンデュラム ② DEEP SAVERS

海や水辺などに生息するデジモンがテーマとなった、ペンデュラム２弾「ディープセイバーズ」。本体は水色を基調として、フレームがオレンジとシルバーの２種で登場。プレシオモンがパッケージを飾る「PENDULUM.2.5」が1999年の４月に発売。

デジモンペンデュラム ③ NIGHTMARE SOLDIERS

ウィザーモンがパッケージに刻まれた、魔人型やアンデッド型などの神秘的なデジモンが収録された「ナイトメアソルジャーズ」。1999年の10月には、レディーデビモンやデーモンなどが新たに育成できるようになった「PENDULUM.3.5」２色が発売。

March

「デジタルモンスター ver.5」発売後、商品展開された「デジモンペンデュラム」。
多数展開された当時のパッケージと合わせて、年表で紹介する。

June

DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム 4 WIND GUARDIANS

空や森に生息するデジモンや植物系デジモンがテーマとなった、ペンデュラム４弾「ウィンドガーディアンズ」。ブイドラモンとエアロブイドラモンが玩具として初登場した。2000年５月には、リリモンがパッケージの「PENDULUM.4.5」が発売された。



[グリーン×イエロー]



[グリーン×ブロンズ]



[4.5 クリアグリーン×イエロー]



[4.5 クリアグリーン×ブロンズ]

6月

2000年

9月

3月



[4.5 クリアブラック×ゴールド]



[4.5 クリアブラック×レッド]



[ブラック×ゴールド]



[ブラック×レッド]

March



[パールホワイト×ゴールド]



[パールホワイト×シルバー]

DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム 5 METAL EMPIRE

機械系のデジモンたちを多く収録した「メタルエンパイア」。パッケージを飾ったのは、人気の高いメタルグレイモン(ワクチン種)。2000年６月に通販などで限定発売された「PENDULUM.5.5」では、サイバードラモンやヴェノムヴァンデモンを収録。

September

DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム ZERO Virus Busters

神聖系やアニメで活躍したデジモンたちが数多く収録された、「ウィルスバスターズ」。劇場版アニメの展開に合わせて、オメガモンが収録された。アグモンやガブモンなど、過去の液晶玩具に登場したデジモンたちも、新規ドット絵へと変更された。

DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム ver.20th

2018年の「デジモンペンデュラム」20周年に合わせて発売された復刻版。シルバーブラックにはネイチャースピリッツ、ナイトメアソルジャーズ、メタルエンパイアが。シルバーブルーにはディープセイバーズ、ウィンドガーディアンズ、ウィルスバスターズが収録され、それぞれ特殊デジタマも育成できる。

June



[オリジナルシルバーブラック]



[オリジナルシルバーブルー]

2018年　6月　12月



デュークモンカラーパッケージイラスト



デュークモンカラー



ベルゼブモンカラー

December



ベルゼブモンカラーパッケージイラスト

DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム ver.20th DUKEMON COLOR

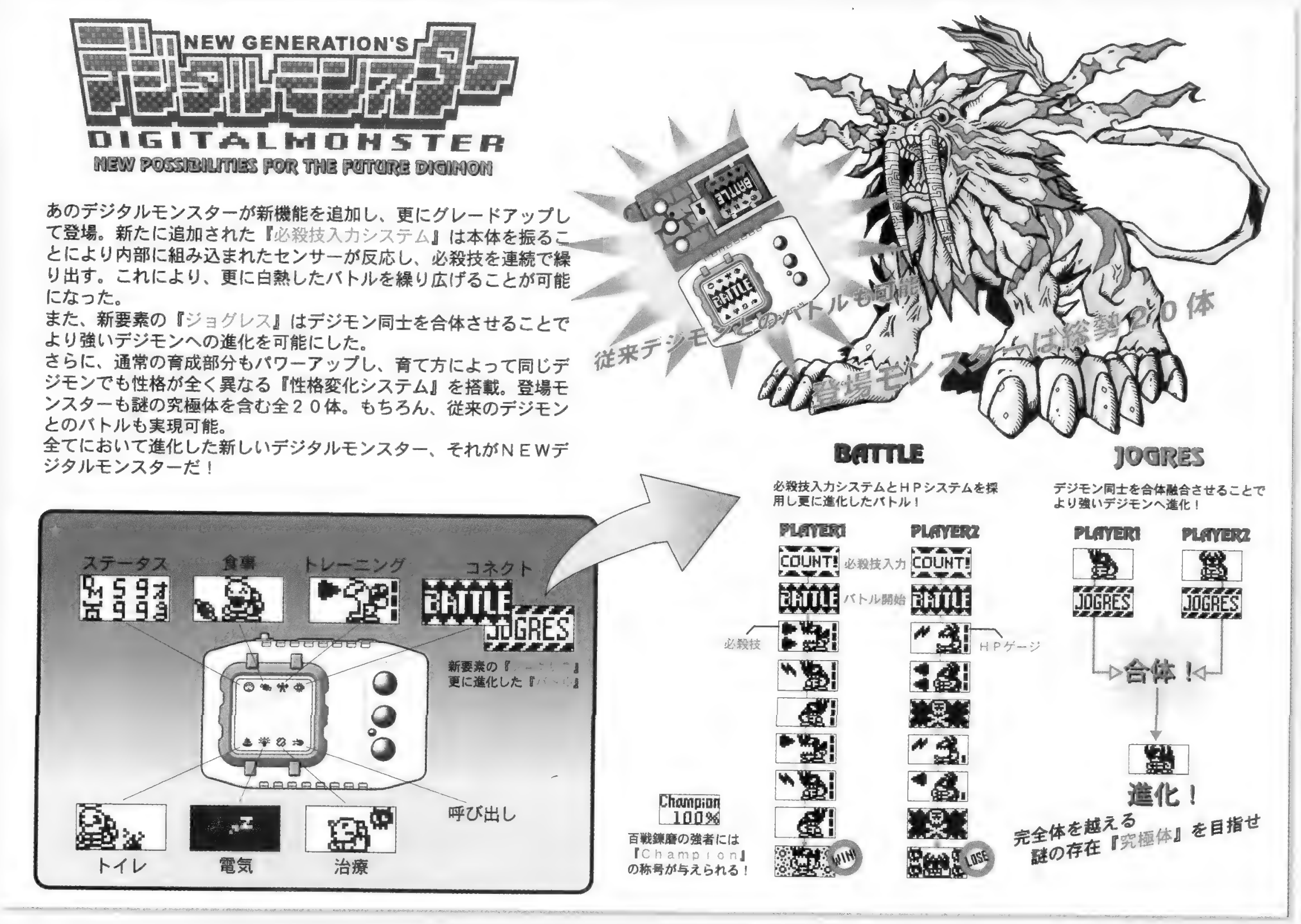
DIGIMONPENDULUM デジモンペンデュラム ver.20th BEELZEBUMON COLOR

デュークモンとベルゼブモンがモチーフとなった新色。背景にはモチーフとなった2体のアイコンが起用されており、パッケージイラストは渡辺けんじ氏が描き下ろしている。それぞれ、収録されている特殊デジタマに変更がなされている。

デジモンペンデュラム誕生秘話

1998年「ペンデュラム」開発当時の、貴重な内部資料を公開する。

〈企画書〉



NEW GENERATION'S デジタルモンスター
DIGITALMONSTER
NEW POSSIBILITIES FOR THE FUTURE DIGIMON

あのデジタルモンスターが新機能を追加し、更にグレードアップして登場。新たに追加された『必殺技入力システム』は本体を振ることにより内部に組み込まれたセンサーが反応し、必殺技を連続で繰り出す。これにより、更に白熱したバトルを繰り広げることが可能になった。
また、新要素の『ジョグレス』はデジモン同士を合体させることでより強いデジモンへの進化を可能にした。
さらに、通常の育成部分もパワーアップし、育て方によって同じデジモンでも性格が全く異なる『性格変化システム』を搭載。登場モンスターも謎の究極体を含む全２０体。もちろん、従来のデジモンとのバトルも実現可能。
全てにおいて進化した新しいデジタルモンスター、それがＮＥＷデジタルモンスターだ！

液晶玩具「デジタルモンスター」のヒットを受けて、開発が始まった「デジモンペンデュラム」。これは社内共有用に作成された企画書で、大まかな仕様がすでに確定している。「NEW POSSIBILITIES FOR THE FUTURE DIGIMON(将来のデジモンの新たな可能性)」と銘打ち、新たな展望への意気込みを感じることができる。この段階では「ペンデュラム」という名称は決まっていないようだ。

デジモンペンデュラムの特徴

本体



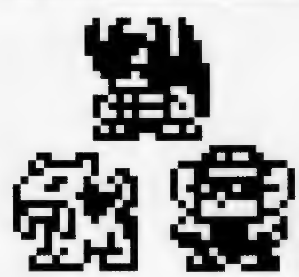
「デジタルモンスター」は、「檻」を強調した本体だったが、「ペンデュラム」ではそれを一新。液晶の大きさやボタンの数はそのままに、よりデジタルな雰囲気を出すため、パソコンをモチーフに変更された。
本体の中にはカウント機能が入っており、振ると「カチ、カチ、カチ」と音がする。この機能を使用してトレーニングやバトルでの振り子機能"ペンデュラム"を行う。ジョグレスやバトルのために、本体同士を接続させるコネクタで、「ペンデュラム」の他のバージョンや「デジタルモンスター」など、他の液晶玩具とも通信ができた。

バトル・トレーニング



今作からは本体を振る「ペンデュラム」により、バトルやトレーニングを行う。選択すると音によるカウントが始まり、「COUNT」の表示中に本体を振る。デジモンによって適正のペンデュラム回数があり、それにより5回の攻撃のヒット数が変化する。バトル時にはＨＰが表示され、先に相手のＨＰを0にしたデジモンの勝利となる。先に出た「デジタルモンスター」とバトルした場合、「ペンデュラム」で育成したデジモンが圧倒的に強くなる。

究極体



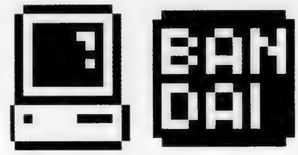
「デジモンペンデュラム」から登場した、完全体の上位個体。究極体の登場により、デジモンの世界観がさらに拡大していく。究極体は種としての限界を突破した姿であり、ごく僅かな個体のみしか至ることができない。そのためかそれぞれのバージョンに３体のみしか存在せず、「PENDULUM.1.5」「PENDULUM.2.5」などになると、その内の１体が差し替わる。当時、究極体の姿はあまり公にされず、攻略本などでは袋とじで掲載されていた。

ジョグレス



同じレベルの２体のデジモンが合体して、レベルが上の個体へ変化することを「ジョグレス進化」という。成熟期からジョグレス進化が可能となり、進化後はＤＰがすべて消費される。違うバージョン同士でもジョグレスができるが、特定の組み合わせではジョグレス自体ができないこともある。ジョグレスによる進化先は、属性によって変化する。また、究極体同士ではジョグレスではなく「合体」と呼ばれる（例：オメガモンなど）。

その他ドット



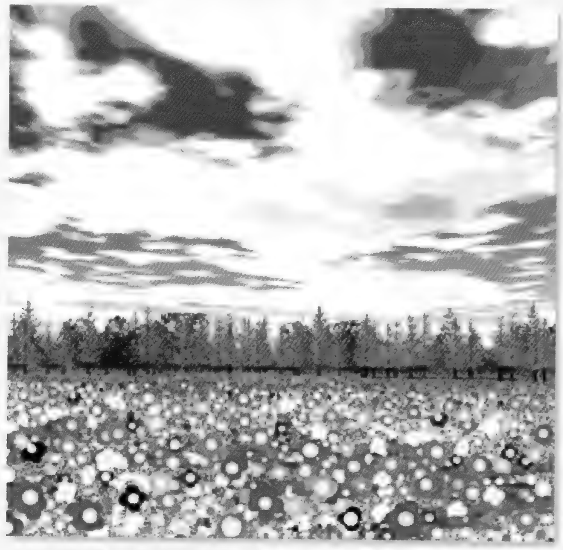
画面のサイズやドット数は、「デジタルモンスター」から変更はない。だが、デジモンが死んだときの表示が、お墓ではなくパソコンになった。また、「おなか」「きんりょく」などの文字表記が、「Hungry」「Strength」という英語になった。デジモンのドット絵は１体につき12パターンが用意され、違うドット絵が交互に表示されたり、左右に移動することで、動きが表現される。ゲーム容量が増えたことで、育成デジモン数も増加した。

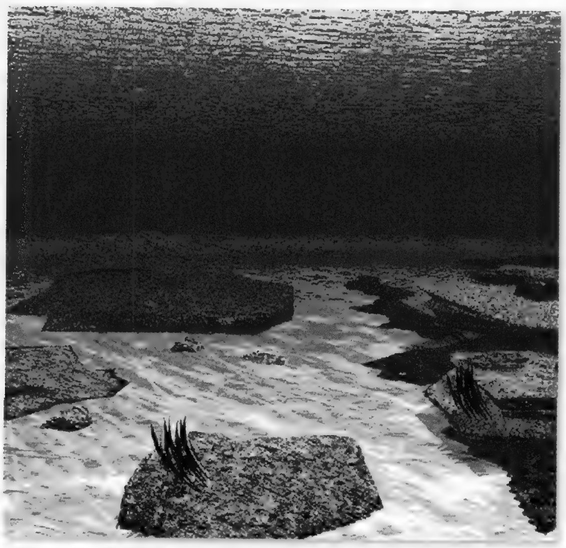
1998年に発売されたオリジナルの「デジモンペンデュラム」シリーズ。
あらゆる面で「デジタルモンスター」から進化した、当時の仕様を分析する。

液晶板

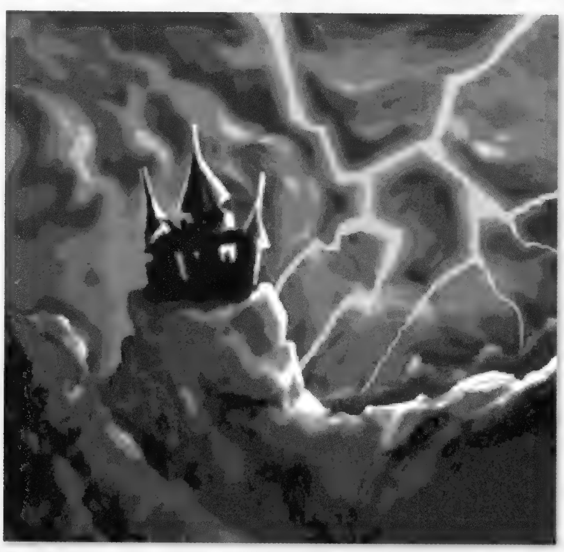
ドット絵の背後にある、風景のイラスト。それぞれバージョンで育成できるデジモンが生息するであろう場所、テーマとなっている場所の風景となっている。ここで紹介する液晶版のほかにも、「PENDULUM.1.5」や「PENDULUM.2.5」などで使用された、「D-1 GRAND PRIX」と刻まれた液晶板がある。

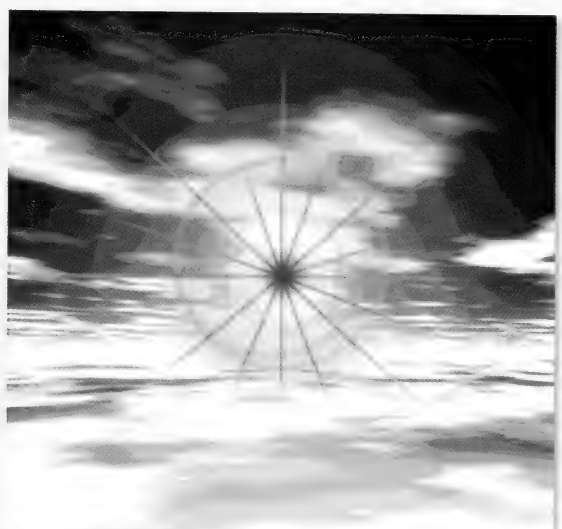

ネイチャースピリッツ


ウィンドガーディアンズ


ディープセイバーズ


メタルエンパイア


ナイトメアソルジャーズ


ウィルスバスターズ

デジモンペンデュラムver.20th の特徴

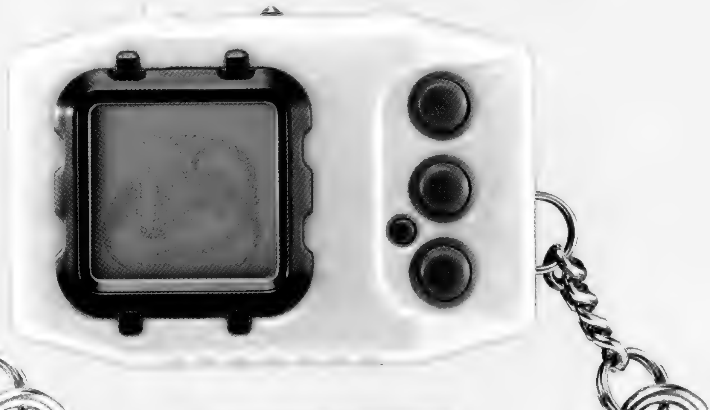




本体

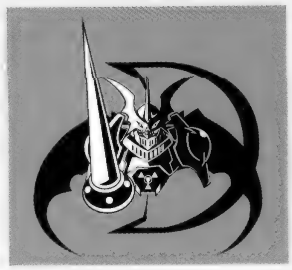
オリジナルシルバーブルーとブラックは、それぞれ「ネイチャースピリッツ」を元に作成されている。本体の型や基盤などは、全て0から作り直された。デュークモンカラーとベルゼブモンカラーは、当時にはない、両デジモンをイメージしたカラーリングになり、渡辺けんじ氏が描き下ろしたマークが使用されている。当時のペンデュラムはもちろん、「デジタルモンスター ver.20th」などとも通信できるように設計されている。





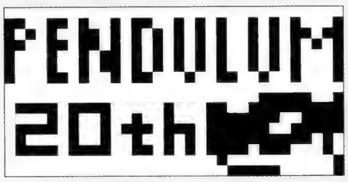


ベルゼブモンカラー液晶板

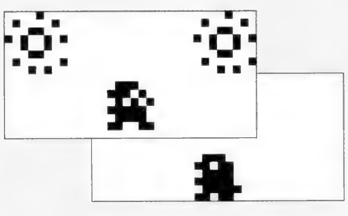


デュークモンカラー液晶板

仕様・ドット

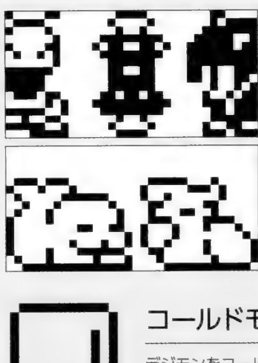


1つの本体で、オリジナル3種類分のデジモン、さらに特殊デジタマが加わり、約100体以上が育成できるようになった「ver.20th」。一度育成したデジモンが閲覧できる「アルバム」機能、トレーニングを4回することで1増える「Effort(努力)」の項目など、さまざまな追加機能がある。NPCのデジモンと戦える「バトル」では、通信対戦しなくとも勝率が上げられるようになった。左側のドット絵は、本体の起動時に一度だけ見ることができるもの。



コピモン

パスワードを入力したり、通信で「COPY」をすることにより入手できる「コピモン」。左右で1体ずつ、計2体まで持つことができ、育成中のデジモンのすぐ横で待機している。「タッグバトル」で育成中のデジモンと一緒に戦わせることができる他、ジョグレスの相手にもすることができる。



2体同時育成

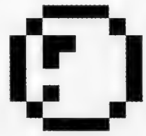
1体のデジモンを成長期まで育成すると、2体目のデジモンも育成可能になる。食事やトイレ、トレーニングにバトルなど、2体のデジモンで同時に行える。バトルでは「シングル」か「タッグ」を選択することができ、勝率は高いほうが育成に影響する。一番下のボタンを押すことで画面が移動して、センターに置くデジモンを選択することができる。



コールドモード

デジモンをコールドさせて、活動をストップさせることができる機能。コールド中はDPが3時間で全回復し、おなかや筋力が減らないため、育成できない時に役に立つ。コールドから戻さないと進化ができないため注意が必要である。

オリジナル版の発売から20年を記念して誕生した、「デジモンペンデュラムver.20」。その追加された機能や、ドット絵などを紹介していく。



攻撃ドット

デジモン１体につき、２種類ある攻撃のドット絵。
収録デジモン数の増加により、ドット絵もさらに数が増えた。

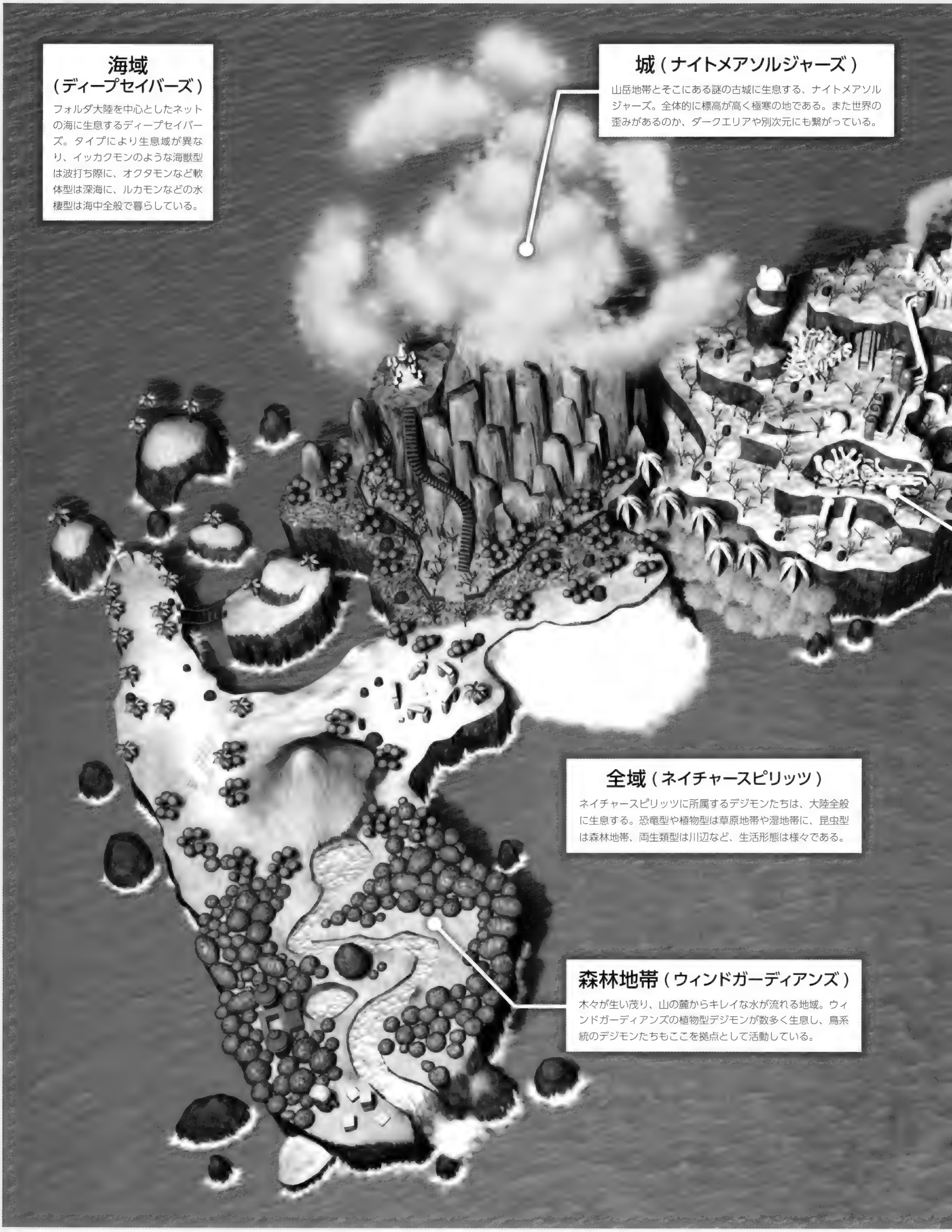


取扱説明書イラスト

本体を購入すると付属する「取扱説明書」。そのために描き下ろされたイラストをまとめて掲載。



「デジタルワールド」の広がり



「デジモンペンデュラム」の舞台となっている「フォルダ大陸」。山岳地帯から工場地帯まで多様な環境が存在する、その全容を紹介する。

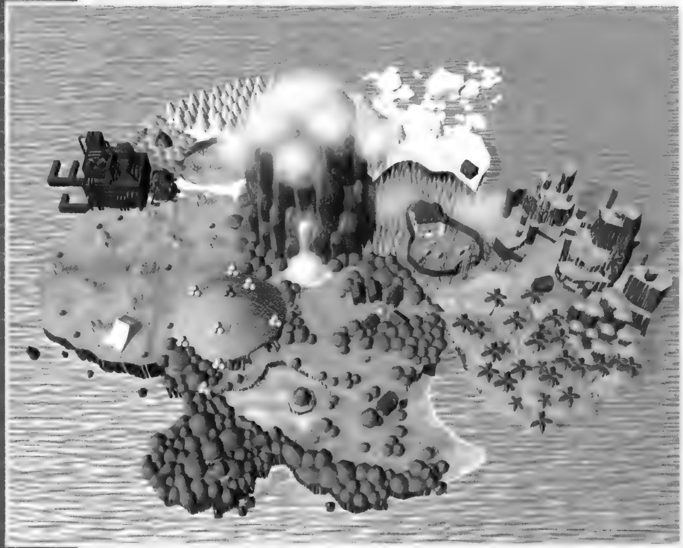
フォルダ大陸

ファイル島の近くで発見された広大な大陸。元からそこに存在していたのか、ファイル島の発展の影響で誕生したのか、未だ解明されていない。人の手が入っていないフォルダ大陸に生息するデジモンはより生存本能が強いものが多く、「究極体」もここで初めて観測された。



工場地帯（メタルエンパイア）

謎の工場が立ち並び、煙突から黒煙が立ちのぼっている。工場の中では、デジモンに関する研究や改造がなされているらしい。マシーン型やサイボーグ型のデジモンたちにとって、自身の体を整備するのに最適な環境である。



ファイル島

ネットの海を発見した研究者たちが、デジモンを管理するために制作した人工的な陸地。だが、自発的に行動を起こしたデジモンによって、研究者たちの予想を超えた発展を遂げて、未開の地へと変貌していく。人類のデジモンへの研究は、ファイル島から始まったのである。



発見される数々の大陸

研究開発の進展やネット技術の進歩によって、その世界図を広げていくデジタルワールド。フォルダ大陸の他にも、「神の森」「WWW大陸」などが発見されていく。しかし、生息するデジモンの数が増加し続けたデジタルワールドは、この後未曾有の大変動が起こることとなる。

デジタルハザード～X抗体デジモンの誕生～

デジタルワールドの管理

ファイル島を含む、デジタルワールド全てを管理するシステム「イグドラシル」。元々は「ネットの海」が発見されたスパコン内で動いていたシステムの総称であり、後にバグを排除する自衛本能として、善悪の判断を行わず機能していくことになる。



デジタルハザード

デジタルワールドの拡大と、デジタルワールド外からの膨大な情報量の流入。そして何より、デジモン個体数の爆発的増加と、「進化」によるデジモン内のデータ量の肥大。あらゆる要因により、イグドラシルの予想を遥かに超えて、デジタルワールドのストレージ許容量は臨界点を迎えようとしていた。

▼
▼
▼

プロジェクト・アーク

デジタルワールドの崩壊「デジタルハザード」を防ぐため、イグドラシルは「プロジェクト・アーク(方舟計画)」を実行する。それは、ロイヤルナイツや一部のデジモンを新世界へと転送し、過負荷となるデジモンを「Xプログラム」によって削除する計画であった。その計画は実行されて、デジモンたちは死滅したかのように思われた…。だが、一部のデジモンは「X抗体」を作って生き延び、ニューデジタルワールドへ逃げていた！　イグドラシルはロイヤルナイツに命じて、生き残ったデジモンたちを粛清し始めたのである。



従来のグレイモン

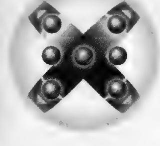
一部のデジモンたちは、Xプログラムに対抗する「X抗体」を自ら生成。デジコアに取り込み、生き延びることに成功する。だがXプログラムを浴び続けるとX抗体が消滅してしまうため、XプログラムのないNDWへと逃げることになる。





X抗体

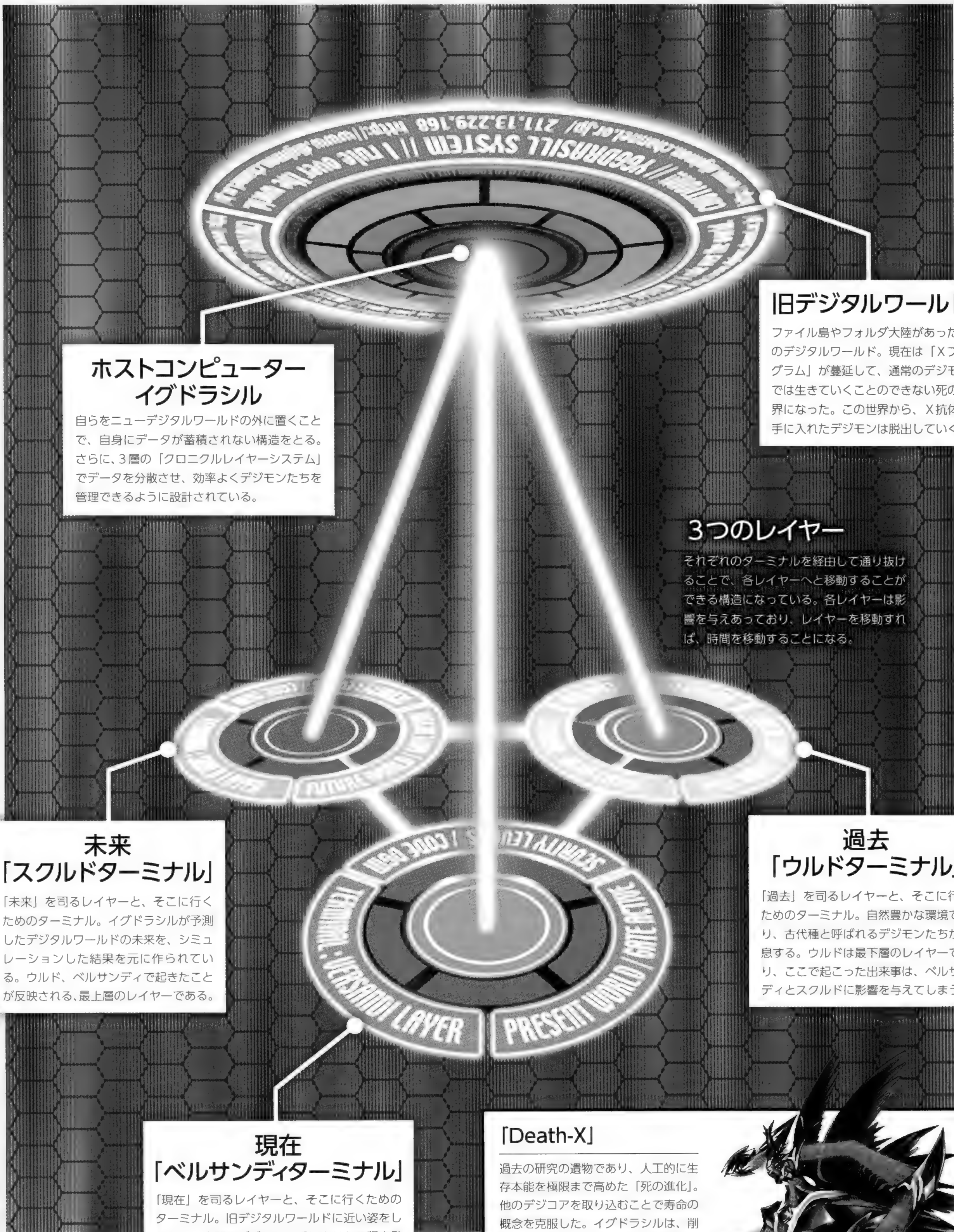
X抗体を手に入れて、強くなったデジモンたち。だがそれはイグドラシルにとって異分子でしかなかった。イグドラシルはプロジェクト・アークを完遂させるため、ロイヤルナイツを使役して、X抗体デジモンたちを削除し始める。



「ペンデュラムエックス」で、様々な激変が起こるデジタルワールド。新たな物語へ続いていく、「デジモンクロニクル」の序章を紹介する。

ニューデジタルワールド

イグドラシルが作成した、新たなデジタルワールド。液晶玩具「ペンデュラムエックス」はこの世界を舞台にしている。デジモンの削除を阻止するため、育成したパートナーデジモンとともにロイヤルナイツに立ち向かう。



旧デジタルワールド

ファイル島やフォルダ大陸があった元のデジタルワールド。現在は「Xプログラム」が蔓延して、通常のデジモンでは生きていくことのできない死の世界になった。この世界から、X抗体を手に入れたデジモンは脱出していく。

ホストコンピューター イグドラシル

自らをニューデジタルワールドの外に置くことで、自身にデータが蓄積されない構造をとる。さらに、3層の「クロニクルレイヤーシステム」でデータを分散させ、効率よくデジモンたちを管理できるように設計されている。

3つのレイヤー

それぞれのターミナルを経由して通り抜けることで、各レイヤーへと移動することができる構造になっている。各レイヤーは影響を与えあっており、レイヤーを移動すれば、時間を移動することになる。

未来「スクルドターミナル」

「未来」を司るレイヤーと、そこに行くためのターミナル。イグドラシルが予測したデジタルワールドの未来を、シミュレーションした結果を元に作られている。ウルド、ベルサンディで起きたことが反映される、最上層のレイヤーである。

過去「ウルドターミナル」

「過去」を司るレイヤーと、そこに行くためのターミナル。自然豊かな環境であり、古代種と呼ばれるデジモンたちが生息する。ウルドは最下層のレイヤーであり、ここで起こった出来事は、ベルサンディとスクルドに影響を与えてしまう。

現在「ベルサンディターミナル」

「現在」を司るレイヤーと、そこに行くためのターミナル。旧デジタルワールドに近い姿をしており、人間やデジモンの手によりある程度発展した場所が丸々移転されている。ウルドで起こったことが反映され、スクルドにも影響を与える中間のレイヤーである。

「Death-X」

過去の研究の遺物であり、人工的に生存本能を極限まで高めた「死の進化」。他のデジコアを取り込むことで寿命の概念を克服した。イグドラシルは、削除対象のデジモンを効率よく消すために、ストレージの奥底から呼び覚ます。だがゾンビのようにデジコアを求めるだけの「デジモンではない危険なプログラム：デクスモン」へと変貌する。



デジモンデザイナースペシャル座談会



ATTENDEES

渡辺けんじさん	玩具「デジタルモンスター」から関わる。他にも「たまごっち」「レジェンズ〜蘇る竜王伝説〜」も手がける。
姫野かげまるさん	漫画家・イラストレーター。代表作に「PaPiPuペット」(小学館)や「ポケモンカードになったワケ」(メディアファクトリー)など。
森山奏さん	イラストレーター。「デジモン」はもちろん、「デジモンウェブ公式twitter」などの、デザイン・イラストも務める。
As'まりあさん	イラストレーター。主にX抗体デジモンを中心に担当。緻密なロボットから、ＳＤキャラまで幅広く手がける。
中野牌人さん	イラストレーター。グレイスノヴァモンなどの公式イラストを担当。玩具のデザインなども手がけている。

渡辺・森山の2人体制時代

——皆さんがデジモンに関わり始めたのは、いつ頃からなのでしょうか？

渡辺：僕はまあ、「デジタルモンスター」の企画から携わっていたのですが、同時に「たまごっち」の企画とイラストも行っていたので、自分だけでは描ききれなくなってしまったんです。なので「ver.2」あたりから、バンダイさんの関連会社にお手伝いをしてもらうようになりました。そこに森山さんがいらっしゃったんです。

森山：当時はまだ学生で、アルバイトだったと思います。内容はわからなかったのですが、デジタルで色を塗れる人がいないかというお話が来て。会社には著名なイラストレーターはたくさんいたのですが、コピックでしか塗れない方が多かったんです。フォトショップが普及し始めた頃で、僕がたまたまデジタルでの作業ができたので、手を挙げたんです。最初の頃は、渡辺さんが描いた完全な線画を頂きそれに着色する仕事でした。そこからだんだんイラストを描くようになりました。

渡辺：当時はさいとうりかさん※1、木下ともたけさん※2というイラストレーターもいて、動きがあるようなイラストを描いてもらっていました。なので、森山さんには公式絵を描いてもらえるように依頼していました。そのうちに、森山さんがフリーとして活動するようになったので、直接お話するようになりました。

森山：通勤域が近寄っていたので、途中の駅で資料を渡すとかしていましたね(笑)。「ver.5」から色塗りで関わるようになり、初めてデザインに関わったのは「ナイトメアソルジャーズ」のモクモン、ピコデビモン、キャンドモンあたりからです。







渡辺さんが描いた線画。これに森山さんが着色をしていた。

イラストの方向性が変わる X抗体デジモン時代

渡辺：その次に手伝って頂いたのは、As'まりあさんになるのかな。それまでは、森山さんとほぼ2人で作業していましたね。

森山：アニメシリーズが終了した中で、今後どうなるかなと思っていたときに、「ペンデュラムエックス」の冊子漫画を描く依頼が来たので、とても驚きました。

※1…イラストレーター。当時、公式絵以外のデジモンのイラストを担当していた。可愛らしい画風が特徴。
※2…イラストレーター。当時、公式絵以外のデジモンのイラストを担当していた。現在はガンダムなどを手がける。

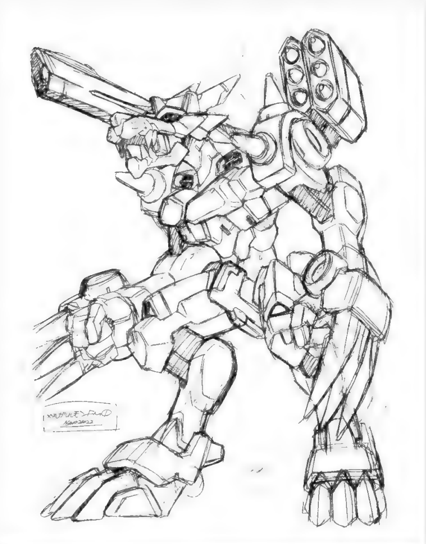
公式デザインはもちろん、カードやパッケージなど、デジモンのイラストを手がける５人のクリエイター。その苦労や熱意を語っていただいた。

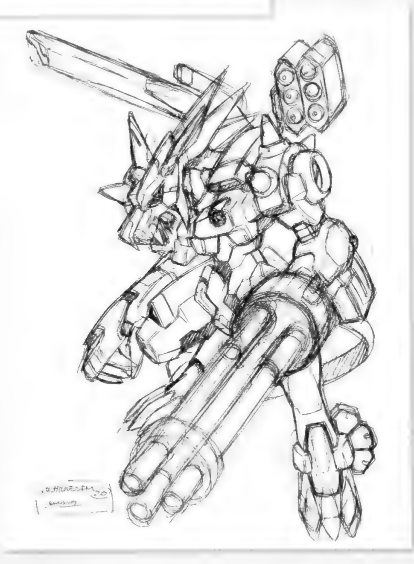
渡辺：そのときに、As'まりあさんにも描いていただくようになりました。

森山：いろいろなクリエイターが参加して、独自のタッチでデジモンを描いていくというのが、「X抗体」の前提として言われていました。漫画もその流れの一環です。

渡辺：その時点でデジモンの数も相当いましたし、新しい人にデジモンのリデザインをしてもらう、というのが「X抗体」の始まりだったので。あと当時僕が、『レジェンズ～蘇る竜王伝説～』の仕込みで忙しかったからかな。ドルモンなどは描いていましたが、途中でカード事業部にいた狸小路カネキ[※3]さんに、As'まりあさんを紹介していただきました。X抗体の方向性を話しているときに、「このタッチだったらいい人がいる」と。すでにカードでオメガモンを描かれていたんですよね。

As'まりあ：元々、「アルティメットバトルセット」でウォーグレイモンなどを描いていたんです。初めてX抗体デジモンで描いたのはメタルガルルモンでした。





As'まりあさんが描いたメタルガルルモン（X抗体）のラフ画。

As'まりあ：印象に残っているのは、メタルガルルモンをどのようなカタチにしようと考えたことですね。ワーガルルモンが二足歩行で、メタルガルルモンが四足歩行なので、X抗体ではまた二足歩行にしようかと。最初は両手が爪の武器になっていたんです。ケルベロモンのX抗体を描いたときは、けんじさんからラフを頂いてそこからブラッシュアップしましたが、その初回の打合せ以降は、けんじさんとはお会いして打ち合わせすることはなかったですね。

渡辺：そうですね、直接お会いしたことなかったです。X抗体に僕はあまり関わってなかったし。見たことないのがいっぱいいるよ(笑)。

「カワイイ」デジモンを目指す

渡辺：デジモンで姫野さんと関わるのはその後ぐらいからです。元々は「PaPiPuペット（パピプペット）」[※4]という企画のコミカライズで、一緒にお仕事をしていました。当時は「ポケモン」の漫画も描いていましたよね。

姫野：デビューは少女漫画なのですが、当時は「ポケモンカードゲーム」のイラストや、ポケモンカードの漫画などを描いていました。

渡辺：可愛い絵を描ける人がいいな、と考えて姫野さんに声をかけたんです。漫画のお仕事もしていらっしゃったので、声をかけるのに、気を使いましたが(笑)。フリーとのことで、快くお返事をいただきました。

姫野：デジモンを描いていることを、あまり表で言っていなかったので、気がつく人がどれだけいたかはわかりませんが(笑)。

渡辺：「姫まる」というペンネームで、やっているからかもしれませんね(笑)。やぶのてんやさんより先に、両方手がけた方ですね。

As'まりあ：当時僕も、「ポケモンカードゲーム」を買っていたので、とても驚きました。

姫野：初めて描いたデジモンはしっかり覚えていないのですが、X抗体のマメモンだったと思います。



姫野さんがデジモンで初めて描いたマメモン（X抗体）。

※３…当時「デジモンカードゲーム」を担当していたバンダイ社員。
※４…バンダイによるペット事業のブランド名。キャラクターデザインを渡辺けんじさんが、小学館から出版されたマンガを姫野かげまるさんが担当した。

渡辺：X抗体からだよね。僕は「可愛い系は姫野さんが良いと思う」と、当時のスタッフに指示して去っていきました。なので、依頼してからお会いしていないんですよね。
姫野：そうでした。あと、完成したイラストを納品して、それがどこにどう使用されているのか、実は見たことがなくて、未だにわからないんです(笑)。
渡辺：おそらくX抗体としての公式絵だとは思うんです。だから「何に使う」というより、描いた後にカードで利用したり、冊子に利用したり。

ユーザーからクリエイターに

渡辺：中野さんに声をかけたときは、まだ学生でしたよね。
中野：そうですね。大学生でした。
渡辺：将来どうするのか聞いたとき、すでに絵を描かれていたので、僕がこの業界に引き込みました。
中野：今で5・6年目くらいになりましたね。初めて仕事で描いたデジモンはエアロブイドラモンでした。



中野さんが仕事として初めて描いたイラスト。

森山：X抗体が世に出たとき、ガチでユーザーだったという。
中野：はい、中学生くらいです。
渡辺：「デジモンストーリー」などが始まる頃は、デジモンを描く人がまた僕1人になっていたんです。デジモンのイラストはWiZ以外が作成することもありましたが、その頃からできるだけWiZで描こうという流れもあり。そうしたら、「デジモンジントリックス」[※5]や「デジモンクルセイダー」[※6]の企画が立ち上がり、大量のイラストが必要になって、僕1人では描けない状況になってしまいました。それでTwitter上で、「デジモンを描きたい人募集！」とつぶやいたんです。
中野：唐突につぶやかれていたので、「はーい！」と手を挙げました。
渡辺：元々イベントでお会いしたこともあったんです。「クロスウォーズ」の頃から、デジモンファンがどれだけいるのかとか、実際にイベントに行き、会ってインタビューするようになっていて。
森山：アニメが好きな人もいるし、玩具やカードゲームが好きな人もいるしと、当時からそれぞれでしたよね。
中野：僕は「デジモンアドベンチャー」のときにちょうど小学生で、カードを集めて楽しんでいましたね。それと今もそうなんですけど、既存のキャラクターをアレンジして描く趣味があったので、X抗体のアレンジを初めて見たときは「なんだこれは！」と衝撃を受けました。特にメタルガルルモンのX抗体が印象深いです。二足歩行だし、肩にキャノン背負っているし、角ばってるし。当時中学生ながら「ここまでやっていいんだ」と思いました。
渡辺：中野さんにみたいに、アニメを見ていた人が絵を描きたいと言ってくれるのは嬉しかったですね。あと、知っている人に依頼するのは、イチから説明する必要がないので楽ですし(笑)。

自由なイラストづくり

――デジモンのイラストで印象深いものはありますでしょうか？
姫野：ずっと「ポケモン」をメインで仕事をしていたので、デジモンのトゲトゲした感じやセクシーな女性の感じがすごく楽しかったです。
渡辺：姫野さんから毎年いただく年賀状が、がっつり武装した女の子で、そこに干支の要素も盛り込まれていて、ガーッと描き込まれているんです。これを描く人なら、なんでも描けるだろうと思っていました。デジモンのイラストは、とても細かい線を描きますからね。
姫野：細かくて楽しいです。いつも構図の指定もなく、好きに描いてくださいと発注がくるんです。シスタモンなど、自由に描かせてもらえて楽しかったです。
森山:僕は「ペンデュラムエックス」に付いていた冊子の、ストーリー口絵ですね。世界観説明のために、漫画で導入を描きました。オメガモンが敵になるとのことで、光る眼と口で鬼のようにしてやろうと意気込んで描きました。この漫画がきっかけで、ラジオドラマとかを演じられている人がいて驚きました。
渡辺：この主人公たちを使ってお話を作っている人たちもいますよね。……「こうたろう」が担当だったので、主人公の名前を「こうた」にしたんだよね。
As'まりあ：初めて描いたオメガモンはテンションが上がり

※5…実際に購入したカードをインターネットから登録し、カードデータのデジモンで対戦するオンラインゲーム。2012年にサービスとカードの発売が開始。
※6…IOS、Androidで配信された、カードを選択して戦うアプリゲーム。アイギオモンが新デジモンとして誕生したほか、描き下ろしイラストが多数使用された。

すぎてしまったところがあり、その反省を元に描いたデュークモンは自分でも完成度が高くできたと思っています。あと、僕はウォーグレイモンが印象に残っています。「ゼボリューション」の3DCGモデル作成時、本当にこのデザインが立体に出来るのか、三面図を新たに描き起こして、検証モデルまで作りました。

渡辺：僕はガイオウモンを見たとき、本当にかっこいいと思いました。こんな"和"の雰囲気を出せるんだと。

As'まりあ：ブラックウォーグレイモンの依頼が来たとき、和風テイストでというオーダーがあったんです。なので、和のテイストを入れつつ双剣にしてラフ画を提出したら、「これなら新しい名前をつけましょう！」とまで、気に入っていただけました。初めて名前をもらった、○○モンX抗体ではなく、オリジナルのものです。

渡辺：ゲームのイラストで、ガイオウモンを「描きたい！」と言って描かせていただいたとき、下半身のデザインがわからなかったんですよね。上半身をぐっと乗り出して隠してたんだけど、「ちゃんと描いてください」と言われてしまい、「描けない…」と泣きそうになったことがあります(笑)。

中野：僕は主に元々あるデザインを描き直したり、渡辺さんのラフから完成させる作業をやっていました。初めて1から作業をしたのはグレイスノヴァモンからかな。



グレイスノヴァモン

渡辺：また、中野さん以外描けないやつを出してきたなって。とんでもねえのが来たよって、思いました。

中野：渡辺さんがズバモン系列を描いていて、「20」としっかり入っていたので、これは記念碑的なデジモンなんだなと感じました。だったらこちらは盛り上げ役を作ろう、と思って派手なものを投げたんです。

森山：エグザモンも大きかったですが、それより規模が大きいデジモンがでるとは思わなかったです。

渡辺：最近は中野さんに新しいデジモンのデザインを頼むことが多いのですが、来るもの来るものが、中野さん以外に描けないようなものばかりで(笑)。

森山：最近、ディティールの細かい物が多い。

中野：ボルトバウタモンも、顔とかめちゃくちゃ力入れて描いていましたよね。

渡辺：あれは僕が公式絵を描いて、中野さんがゲーム内で使われる絵を描いていましたね。今回の、ラフレシモンも中野さんだよね。

中野：単にロゼモンとロトスモンを合体させてください、というオーダーだったので、そのまま混ぜたらオメガモンぽくなっちゃいまして。

渡辺：1回ラフをいただいて、ちょっと違うかなとなり、花で最強だとラフレシアかな？女の子にしたら？と返した気がします。

デジモンの独特な線や墨

――デジモンを描く上で注意されていることはありますか？

姫野：自由に描いていいと言われますが、初めての頃は、黒い線を必ず入れなきゃダメなのかなと、迷った覚えがあります。オリジナルをなぞるようにして黒い影を入れたら、イラストが小さく使用されたとき黒くなっちゃったなと。

渡辺：僕もたまに真っ黒にしちゃうときがある。

森山：デジモンのイラストは2割くらい墨ベタを入れ、割とビビットに寄せて、ハイライトをぼやっと入れる。

渡辺：森山さんの絵には、全部ココを黒く潰してくれとか、逆に黒すぎるところをしっかり描いてくれという修正を、今まで多く入れた気がします。

姫野：墨の入れ方が独特ですよね。すごく意識しました。

渡辺：もともとは描くのが面倒だったから…(笑)。

森山：ティラノモンの頭とか、よく墨が入っているなと思いますもん。よくよく考えると、ライティング的にはおかしいんですが、額にベタが入っていることで絵が良く締まります。



ティラノモンの額に注目。

渡辺：スタジオ撮影なんですよね。光源が1つとは限らない。イラストとしては額が黒くないと成り立たないですが、実際のキャラクターとしては黒くないですよ(笑)。
姫野：色ではなくて影なのですね。誰にも真似できない感じを出せるように、一生懸命追い求めても難しくて、「これがデジモンなんだな」と思いました。
渡辺：純粋なアメコミタッチかと言うとそうじゃないんですよね。アメコミをベースとしながら、独自の墨入れをしています。
As'まりあ：公式絵がアメコミ由来ということで、当時のデジモンファンたちが大人になって、アメコミを買い漁るようになったと聞いたことがあります(笑)。
渡辺：アメコミを子どもたちにわからせる！というつもりで描いてましたから。
――イラストで「デジモン」らしさを、どのように考えられていますでしょうか？
渡辺：森山さんが、一番デジモンらしいデジモンを描く人だと思います。僕が今では全然守っていないですから(笑)。
森山：だから驚かされることが多いですよね。X抗体でリデザインされて個性飛ばしすぎなイラストを見たときも思いましたが、何でもありなんだなって。
渡辺：個人的にはシルエットは守ってほしいと思うけど。デジモンは公式絵を描く人がいて、他の人が同じキャラクターを別のポーズで描いたりする、みんなが描くというところがあります。なので、シルエットを守り、キャラクター性を持つということを一番気にしています。あと、そんなに描くのが難しいデジモンにするなと。
森山：20年前の話ですが、渡辺さんから「ＲＰＧの雑魚キャラにしないでください」と言われました。弱いやつでも、個性を出してください、と。
渡辺：鳥山明先生が描く「ドラゴンクエスト」のモンスターは、個性があるじゃないですか。子どもたちに「強そう」「カッコいい」と思ってもらえる、「描きたい」と思ってもらえる、好きになってもらえるキャラクターにしたかったんです。だから他の人に描いてもらうときも、それを受け継いでいただきたいんです。
姫野：デジモンには男の子の夢が詰まってますよね。角とか牙とか、毒々しい模様があったりちょっぴりセクシーだったり。「ポケモン」と両方描いて思うのは、「ポケモン」は幼い男の子、女の子、まんべんなく受け入れられる魅力を持っていると思います。一方でデジモンには、男の子に特化しているのがウケたのかなと思うんです。
森山：当時、モンスターコレクションものが流行っていた時代の中で、デジモンはある意味毒があって、凶暴さが入っているイラストでした。
渡辺：子どもにわかる、カッコよさっていうんですかね。
姫野：改めてデジモンたちを眺めてみると、アイラインが特徴的なんだと感じます。
渡辺：目は動物的に描いてほしいと言っていました。どこを見ているのかわからないような、獣感が出せるようにと。
――X抗体デジモンは、リデザインということでまた意識の仕方はちがうのでしょうか？
As'まりあ：直接言われてはいないのですが、末端肥大なところなどは、元々のイラストと同じバランスで描いています。僕はX抗体を「解像度を上げる作業」と言っているんですが、イメージとして、コミックスがハリウッド実写化されてディティールがアレンジされている感じです。
渡辺：デジモンの最初はドット絵じゃないですか。イラストになることで解像度が一段階あがり、X抗体でさらに上がるイメージですね。
As'まりあ：そこから、X抗体であることが一目でわかるように入れたアイディアが、各部の発光体です。「アズマグリーン」と呼ばれているようですが。最初に描いたメタルガルルモンには一箇所もなかったんですが、徐々に入れるようにしていきました。
森山：はじめはX抗体のイメージは赤でしたよね。玩具の仕様にLEDが付いていて、赤で発光したんです。
As'まりあ：渡辺さんが描いたアルファモンなどの額についているのが、なべけんレッドだったんですよね。それに気がついていれば、もうちょっとなぞらえたのですが(笑)。
渡辺：アズマグリーンとかなべけんレッドとか(笑)。次は中野イエローとかですね。
中野：僕はイエローですか(笑)。

デザインとイラスト

――お話に出てきましたが、「公式絵」とその他のイラストでは、やはり描き方は違うのでしょうか？
渡辺：「きちんと見えるように」ということでしょうか。「デジモンの看板」が公式絵ですので、例えば手足がどうなっているのかわからないと、他の人が描くときに参考にできないんですよね。デザインがちゃんとわかるように描いてください、ということです。
森山：カッコよく描けていても、元のデザインがわからないのでNG、と言われました。
渡辺：そんなことを言いながら、僕が描いたベルゼブモンは背中を向けてましたけどね(笑)。多分、次も自分が描くからイイや、って。
中野：僕もたまに、このデジモンの裏側はどうなっているのかとか、WiZさんに問い合わせますね。
渡辺：わからなくても、予想で描いちゃうときもあります。あとは描かないように、別の格好にしちゃう。
As'まりあ：デュークモンの公式絵もわからなかった。アニメに出てくるから設定画はありましたが、カードイラストで初めて描いたときはイージスの裏側がわからなくて、手で

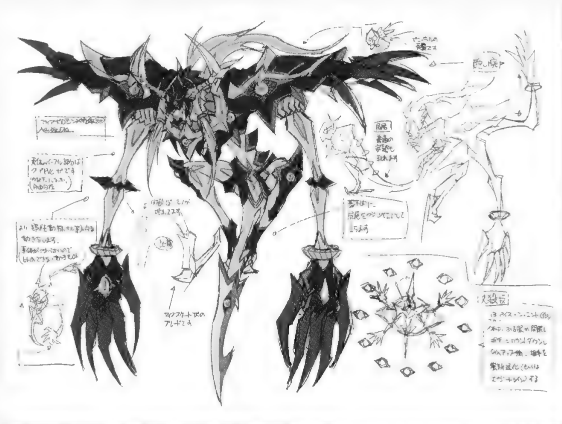
持っているように描いたんですよ。後から聞いたら、あれは腕から直接生えてるんだと聞いて、驚きました。
渡辺：気持ち悪いよね、あれ(笑)。北川原が考えたんですよ。
As'まりあ：盾がないときは、拳が生えているんですよね。
渡辺：そうそう、デジモンあるあるです。結局、デジモンはデジタルな生き物なので、ホルスターがなくても銃は持ってますし、鞘がなくても剣が腰についているやつもいます。「どうして」となったら、「データ上付いている」ということになるんです。
森山：エンジェモンも顔があるのかどうか、散々聞かれましたね。
As'まりあ：昔聞いたのは、中身は3DCGでいう「レンダリング前のワイヤーフレーム状で、顔の状態になっていない」と。
渡辺：エンジェモンも顔がないわけじゃないんですよ。面を着けたモデリングになっているだけで、外したら瞬時に再モデリングされて顔になるんです。ただ、外さないよ。
森山：あと、構図を描くときに、傷の位置とか踏襲すべきなのかと気になりますよね。
渡辺：傷がいつもあるかどうか、わからないですよね。データなので、次の瞬間には治っているかもしれない。カッコよく見せたい、渡辺が描いたと思わせるために、あえて傷を入れることはしますけどね。

これからのX抗体

――森山さんは「ティラノモン（X抗体）」、As'まりあさんは「ディアボロモン（X抗体）」、中野さんは「ドラコモン（X抗体）」、渡辺さんは「サクヤモン（X抗体）」、姫野さんは「レナモン（X抗体）」「ベルスターモン（X抗体）」をご担当いただき、描き下ろしていただきます。これから、新たなX抗体デジモンを描く上で、方針など考えていることがあれば教えてください。



渡辺さんの描いたサクヤモン（X抗体）のラフ。


As'まりあさんの描いたディアボロモン（X抗体）のラフ。



中野さんの描いたドラコモン（X抗体）のラフ。

森山：ティラノモンはパーツを増やすところがないからなぁ…、難しいなと思っています(笑)。ディティールが思いつかなくてモヤモヤしてる。
姫野：シンプルなのが難しいですよね。
森山：他の方のラフを見てみると、やはりX抗体のモチーフになるものを入れないとな、解像度を上げるとはこういうことなんだな、と感じます。
As'まりあ：最近はゲームで使われることが多いので、ゲーム用に必殺技などギミックを提案するようにしています。そこまでやっておかないと、想定していないところからビームが出ていたりするので(笑)。
姫野：線のタッチとか守ったら良いのかなとか、考えちゃいますね。
渡辺：自由に描いて頂いて良いんです。姫野さんが描きやすいように描いてください。
As'まりあ：とりあえずX抗体に関してはアズマグリーンとなべけんレッドじゃないですか。
森山：とりあえず緑色に光るクリスタルみたいなのは入れます。どこに入れるか、ですね。

――貴重なお話、ありがとうございました！

デジモンペンデュラム開発者インタビュー

ATTENDEES

北川原真さん × 渡辺けんじさん × 前川祐輔さん × 田岡大夢さん

株式会社WiZ所属。「たまごっち」や「デジタルモンスター」シリーズの開発に携わる。当時は「北川原名人」として、大会や攻略本で表舞台に立っていた。

キャラクターデザイナー。「デジモン」シリーズ開発当時は、株式会社WiZ所属。現在ビジュアルドールの販売を行う、WOW FACTORYの代表を務める。

株式会社WiZ所属。「デジタルモンスターver.20th」を始め、「デジモンペンデュラムver.20th」「デジヴァイス ver.15th」などの企画・開発に携わる。

株式会社バンダイ ボーイズ事業部所属。「ペンデュラムver.20th」や「等身大ぬいぐるみ」シリーズに携わる。ビッグドリーマー田岡としても活躍中。

「ペンデュラム」当時

──みなさまは「ペンデュラム」当時、どのようなことをやられていたのでしょうか？

北川原：僕は、WiZで開発を担当していました。

渡辺：企画自体は北川原さん、ボルケーノ太田さんがバンダイの担当で、僕はキャラクターを描いたりするアートディレクションの役割です。

前川：20年前、僕は学生でした。ゲームセンターでアルバイトをしていて、ブイモンやギルモン、テリアモンなどのぬいぐるみがUFOキャッチャーで置かれているのを見たのが、デジモンとの出会いでした。

田岡：僕はまだ5歳ですね。父親に買ってもらい、「デジモンペンデュラム」で遊んだのが最初です。CMがインパクトがあって覚えています。

北川原：海パンの男たちが「モンモンデジモンペンデュラム」と踊ってるやつですね。

田岡：あれはどなたが考えられたんですか？

北川原：広告代理店さんの案だったと思います。いろいろな案がでている中から、太田さんが「これだ！」と決定したそうです。

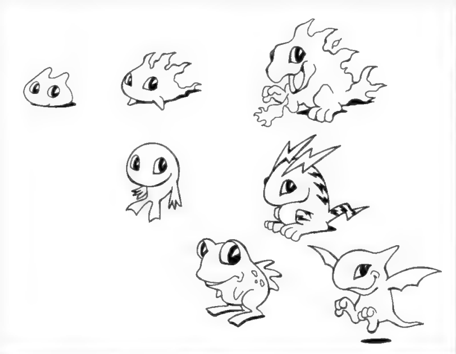
渡辺：太田さんがそれを決めて「CMいいだろ」と言ってきたんですが、最初「バカにしてるのか」と思いましたよね。ですが、あれでデジモンの印象を視聴者に強く残すことができました。

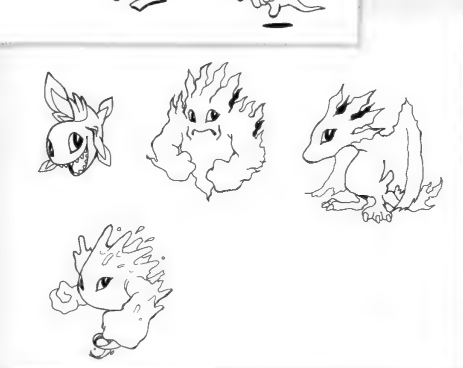
「デジタルモンスター」の開発

北川原：僕がWiZに入社した当初は、ゲームの部署にいたんです。学生のときからゲーム部門でアルバイトをしていて、卒業と同時に入社したんです。

渡辺：WiZは玩具の企画制作会社ですが、当時はプレイステーションのソフトの開発もしていたんです。その後に、たまごっちの人気が出て、仕事が増えてきたので玩具の部署の人員が足りなくってしまったんです。なので、ゲームの部門から無理やり引っ張ってきたんです。

北川原：ゲーム部門で1年ほどやった頃でしょうか。僕は全く玩具に興味がなかったのと、アミューズメントなどのエンターテインメント系をやりたくてゲーム部門にいたかったので、渋々でした(笑)。そこから、「新種発見！たまごっち」でデバッグや仕様書のお手伝いをしつつ、途中で男の子版のたまごっちを作る話が出て、そちらの作業にも加わりました。当時はまだ「カプセルザウルス」で、仮称「おとこっち」と呼んでいました。





「カプセルザウルス」のモンスターデザイン。

北川原：液晶玩具「デジタルモンスター」はバンダイの堀村さんという方と、一緒に開発していました。「Ver.1」が好

当時の開発スタッフと現在の開発スタッフが、「デジモンペンデュラム」の裏側や、これからの「デジタルモンスター」の展開について語る。

評だったので、シリーズ化することが決まりました。元々単発で終わる予定だったので、「バージョン」という概念がなく、「Ver.2」では通信ができるように無理やり作り直しました。

渡辺：僕たちは何度も同じ玩具を作るという、発想がなかったんです。たまごっちは通信機能とかもなかったので、同じテーブルで中身を全部入れ替えればよかっただけだった。

北川原：デジモンは対戦できないといけないので、制限がいろいろとあったんです。あと、当時はドット絵を作るのにもひと苦労でした。

渡辺：デジモンのドット絵は、方眼紙を黒く塗りつぶして描いていたんです。それをプログラマーに渡して、打ち込んでもらっていました。

北川原：プログラムで、座標軸をとって打ち込むんですよね。

渡辺：要するにグラフィックデータではないんです。「ドットをここに置く」という、プログラムデータなんですよ。なので、後からグラフィックだけを取り出そうと思ってもできなくて、困ったことがあります。みんなでずっと徹夜して、プログラムを組んでいましたね。

北川原：実は当時の「デジタルモンスター」に、バンダイさんに内緒で秘密の裏技をいくつか仕込んでいました。

渡辺：WiZって、そういうの黙ってることが多いよね。

北川原：どのバージョンかは忘れてしまいましたが、プロテインを一定数食べさせると絶対に勝つ、でも1つでも多く与えると死んじゃうとか、トレーニングで特定の行動をすると寿命が伸びるとか。プログラマーさんとお遊びでやっていました。当時はおおらかな時代だったので。

渡辺：当時でもおおらかじゃないですよ(笑)。

北川原：その後、太田さんに「すみません」と言いながら、裏技の仕様をまとめて提出しました。

渡辺：太田さんが「もうないですか」っていいながら(笑)。

田岡：「ペンデュラム」には裏技は入っていないんですか？

北川原：入れなかったですね。容量に余裕がなく、ギリギリでしたので。逆に「ver.20th」には？

前川：入っていないです(笑)。

「デジモンペンデュラム」への道筋

——どのような経緯で「デジタルモンスター」から「デジモンペンデュラム」へと遷移したのでしょうか？

渡辺：元々「デジタルモンスター」は堀村さんが担当していましたが、ボルケーノ太田さんに担当が変わったのが大きいでしょうか。あと「デジモン自体に自分が関われる」システムを入れたい、という思いがあったんです。

北川原：「デジタルモンスター Ver.4」の開発中に、デジモンの新しい玩具を作ろう、という話が出てきました。実は、「Ver.5」の予定はなかったんですよ。次のは少し技術も発達して、容量も増やせるということになり、それでも画面が小さい携帯液晶ゲームで何ができるか、キャラクターを変更するだけでは面白くない、と試行錯誤していたんです。

当時は「万歩計」が流行していて、ふと液晶ゲームの中に万歩計機能を入れたら面白いんじゃないかと思いつきました。ただ、歩いたら強くなるだけでは簡単すぎるから、前作ではできなかった「技入力」を万歩計機能でやってみようとなったんです。

渡辺：デジモンを育てるだけでなく、バトルに介入できる、というところです。自分のテクニックがデジモンの運命を左右したら面白いと思ったんです。

——「ペンデュラム」では、収録デジモンがテーマ別になっていましたが、どのように考えられていったのでしょうか？

北川原：最初から「メタルエンパイア」まで、収録デジモンを含めて太田さんと渡辺さんと話をしながら決めていました。「デジタルモンスター」の頃はあまり脈絡がなく、思いついたデジモンに進化させていたのですが、「ペンデュラム」はシリーズ化することがすでに決まっていたので、しっかりカテゴライズしておこうとなったんです。

渡辺：進化が系統的になったのと、テーマ分けされたことで、デザインの描き分けがしやすくなったのを覚えています。

北川原：いろいろな種類を盛り込みたかったので自然系でまとめた「ネイチャースピリッツ」、今まであまりやってこなかった海系を出したいと「ディープセイバーズ」。3つ目はハロウィンの時期に出る予定だったので、ハロウィンなんちゃらという名前でした。パンプモンなどハロウィンを意識したデジモンを作っていましたが、開発に時間がかかり発売時期がずれてしまうということで、急遽「ナイトメアソルジャーズ」に変更しました。

渡辺：結果、格好良くなった。

北川原：変えてよかったと思います。

——究極体が出たことも含めて、収録されるデジモンの数も増えていました。

北川原：やはり、容量が増えたのが大きいです。万歩計機能からの「技入力」と、キャラクターをもっと入れようと話をしていて。単純にキャラクターを増やすだけでは面白くないので、完全体を超える存在「究極体」を作りました。

田岡：「究極体」という命名はどなたがされたんですか？

北川原：僕です。「これ以上ない」というつもりで究極体にしたのですが、今は数が多いですよね(笑)。同時期に「たまごっち オスっち・メスっち」というのを、僕が担当していたんです。「ブリード」すると、オスとメスが結婚して子どもができる機能がついていて、デジモンもせっかく接続ができるなら、掛け合わせて強くなる機能をつけようということで、「ジョグレス進化」が生まれました。ぶっちゃけ、もう1個買ってほしいという商売っ気があったんですけど(笑)。とにかく、新しい要素をいろいろ入れて、楽しんでもらいたいという気持ちで作っていました。

「ペンデュラム」機能の誕生まで

――開発当時に苦労された点はどこでしょうか？

北川原：振り子機能がなかなかうまくいかなくて。

渡辺：万歩計は一定の期間でカチカチしないと、万歩計としての機能を果たさないんですよね。

北川原：いろいろな万歩計を買ってきて、検証しました。振り子式もあれば、バネ式もある、玉が中で回っているのもあり、どういう形式がいいのだろうかと。結果、「カツンカツン」と振った感じがしっかりと出る、フリック感が出るものにしました。そこから派生して、キャラクターごとに何回振ったら必殺技が出るか、考えるのはしんどかったです。一方でその頃になると、ドットエディターができていたので方眼紙の必要がなくなり、その苦労からは解放されました。

渡辺：あと「万歩計機能」と言ったらいけない、というのがありました。「万歩計」と表示するにはしっかりとした基準があるんです。導入した機能は基準を満たしてはなかったので。なので「ペンデュラム」という言葉が生まれたんです。考えたのは太田さんだっけ？

北川原：僕です！　本当の「ペンデュラム」の意味は、吊って左右に揺れる振り子なので、本当は違うんですけどね。当初は「ペ」で始まるので、チームの周りの人たちには抵抗感があったようで、ダサいと言われてしまいましたが。

渡辺：バンダイさんとしては、男の子向けには絶対に濁音を使うという、ルールみたいなのがあって。

北川原：候補をたくさんつくり、当時のバンダイさんのゼネラルマネージャーに直談判しに行きました。「どれが良いと思っているの？」と聞かれたので、「デジモンペンデュラムが良いです」と押し切りました。

――本体の形も大きく変更されていましたね。

渡辺：「デジタルモンスター」のときは、動物を閉じ込めた檻をイメージしていたんですけど、「ペンデュラム」はもっとハイテクな形にしようと。

北川原：そうそう、培養器みたいな。大学の研究室に置いてあり、バカっと開けてふわーと煙がでてくるような。

渡辺：ラボ感ですよね。

北川原：デジモンの研究が進んでこうなった、という。「デジタルモンスター」は、多くのパターンを考えましたが、ペンデュラムではあまり悩みませんでした。

渡辺：太田さんと3人で決めれば、その案が通るようにもなっていました。バンダイさんの商品の中でも「男の玩具たるもの！」という雰囲気にとらわれない、独自の路線に突き進み始めたタイミングですね。

「ペンデュラム」発売の反応

――「デジタルモンスター」から「デジモンペンデュラム」になったことで、反響はありましたか？

北川原：ユーザーがバトルに介入できるのは面白いと、好評でした。あと、やっぱり「ペンデュラム」でのコマンド入力は難しいと言われましたね。でも、みんな必殺技の回数を導き出していて、やりこんでくれているようでした。大会で各地を見て回っていたのですが、すごいなぁと思いましたね。

渡辺：大会もありましたね～。

北川原：「D-1 グランプリ」にゲスト出演したこともありました。優勝者は僕とバトルができるという名目で。デバッカーに育ててもらったデジモンで挑みました(笑)。

田岡：最強じゃないですか(笑)。

北川原：さも自分が育てたかのように披露して、勝っちゃいました。ユーザーに勝ってもらわないといけないのに。

渡辺：さすが北川原名人(笑)。

北川原：当時、太田さんが地方を巡業して大会を盛んに開催してくれていたので、大会だけで販売する、一部キャラを差し替えた「.5」シリーズも作りました。結局は一般販売しましたが。ちなみに「.8」シリーズという、お店の店長だけが持てるバージョンもありました。これはキャラクターを育てる必要がない、セレクトできるものです。

渡辺：販促用に作っていたんです。



店長バージョンは側面に「1.8」などラベルが貼ってあった。

北川原：小さい店舗でも大会を開いてくださっていて、最後は強い店長と戦ってくださいね、と。店長は忙しくて育てる余裕がないと思いまして。外見は基本的に一緒ですが、一部印がついていました。

渡辺：デジモンが良かったのは、カードゲームが同じように盛り上がってくれたことでした。「D-1 グランプリ」で一緒に開催していたからね。こっちはボルケーノ太田が、向こうでは狸小路カネキが登壇してた(笑)。

アニメとの関わり

——「ペンデュラム」の途中で、アニメも始まりました。

北川原：「ペンデュラム」を5.0まで作ろうと決めていた中で、途中からアニメの話が立ち上がりました。アニメが放映される前年の秋に決定しましたが、半年ではどうしてもアニメ合わせのグッズ制作は、間に合いませんでした。

渡辺：そもそもアニメグッズを作る気がなかったんです。そうしたら、東映アニメーションさんから怒られたんですよ。「バンダイとWiZだけのために、東アニはアニメを作るわけじゃない」と。その時初めて、マルチメディア、マーチャンダイジングの意味を理解しました。キャラクター商売ですもんね。

北川原：僕と渡辺さんは、どのキャラクターを出すかなど、元々アニメ制作に関わっていました。なので、僕が合わせてデジヴァイスのデザインや、グッズ化の企画も考えました。デジヴァイス自体のデザインイメージや、収録されるキャラクターやその設定など、全部僕がやっていました。

渡辺：「ウォーゲーム」でオメガモンが登場したときは、「ZERO」を作りオメガモン出しましたね。

北川原：それ以降は、アニメ商品に注力することになりました。

「デジモンペンデュラムver.20th」

——企画の立ち上がりについて教えていただけますでしょうか？

田岡：2017年の6月に「デジタルモンスター ver.20th」が出て、やはり来年は「ペンデュラム」だよね、というところからスタートしています。

渡辺：昔の玩具を同じように作るのは大変なので、苦労するだろうなと思って見てました。

北川原：20年経って、復刻していただけるのはありがたいですね。しかもそれを待ってくださっているファンがいるので、本当に作ったかいがありました。

——育成デジモンが2色で違いましたが、どのような意図があったのでしょうか？

田岡：グレイモンなどデジタマによって登場キャラが被るものがいるので、被らないように、また相対するシリーズは別々になどと考えていたら、素直に奇数と偶数で分けたらキレイにまとまりました。

前川：系統も意識したところです。

田岡：「.5」シリーズも全部入れなきゃだめだよね、というのは最初から考えていました。



「デジモンペンデュラムver.20th」企画書

渡辺：容量はどのくらい増えてるの？
前川：オリジナルは20体のデジモンが入っているのに対し、今作は120ほどなので、単純に６倍ですよ。
――容量が増えたことで、中身や仕様なども変わっていますか？
前川：全然違いますよ。プログラムも全然違います。元々の仕様は参考にしていますが、挙動も含めて全部作り直しました。
田岡：中身もそうですが、外側も全部新規です。
前川：当時の金型がもうなかったので、金型から作りました。
田岡：何がよかったかって、ウェルドライン※1も全部再現できているところです。



前川：消せなかったんですよ(笑)。
北川原：この形状だと、どうしても入ってしまうんですよね。
前川：工場に「どうにかならない？」と相談はしてみましたが「無理」と言われました。
田岡：消さなくて良かったと思います。
――特殊デジタマや２体同時育成など、新要素がたくさん入っています。どのように方向性を固めたのでしょうか？
田岡：やはり昔遊んでいた子どもたち、今の大人が手に取る、ということを意識しました。「デジタルモンスターver.20th」で２体同時はもうありましたのでそれは絶対に入れつつ、忙しくてお世話できない人を想定して「コールドモード」を入れて。
前川：コピモンについては、発売には至りませんでしたが、「デジモンツイン」の２弾目の「デジモンツイン タッグアタック」という企画から引っ張ってきた仕様なんです。「ダウンロード」という、デジモンを赤外線で移せるという機能を考えていて、その案を復活させたかったんです。
田岡：コピモンはきちんとユーザーに受け入れてもらえるか、発売するまでドキドキしていました。でも、ジョグレスとしても役に立ちますし、動いているのもカワイイので、やってよかったと思います。
渡辺：まるっきり同じだと、当時の「ペンデュラム」を持っている人が楽しめないですし。２体育成とか見ていると、テリアモンとロップモンを一緒に置いて眺めるなど、戦う以外の楽しみ方を見つけていたりして、面白いなと思いますね。外見は同じでも、今だからこそできる遊び方が盛り込まれていて、良かったです。
――新しいLegend-Armsである、「ルドモン」も誕生しました。
田岡：やはり、「キャプテン・アメリカ」を意識されましたか？
渡辺：あまり考えてはいませんでしたが(笑)。あえて少し地味な感じにしてみました。最近、派手なデジモンが多い中で、泥臭い雰囲気を出したかったんです。進化したら派手になりますが(笑)。地味なやつが活躍する姿を想像すると、面白いですよね。１体１体は派手ではないですが、トータルでデジモン感が出るようになればいいと思いました。

これからの「デジモン」

――今後の玩具の展開についてお伺いできればと思います。
田岡：「デジタルモンスターX」というのを、以前発表させていただきました。「ペンデュラムエックス」の続きというか、その後のデジモンの世界観がどのようになっているか見つめ直そう、というのが発端です。２つの「ver.20th」が出て、ユーザーの皆さんに、復刻だけど新しい玩具で楽しんでもらえたと思うんです。そうしたら、また一歩先の「新しさ」でデジモンを盛り上げられたらと思うんです。
前川：当然、続けていって新しい「デジタルモンスター」の世界を出してきたいと思ってもいます。
田岡：前川さんと相談をしていますが、僕は「Legend-Arms」や「ロイヤルナイツ」の活躍の場を広げつつ、盛り上げのポイントにしていきたいんです。
渡辺：元々あった設定を活かしながら膨らませていくのは、いろいろできそうですよね。玩具でどうやるのかは、楽しみです。
前川：新たな玩具シリーズでは、なかなか活躍できていないデジモンたちが日の目を見るような場でありたいです。
田岡：あと、新作はドットに注目していただきたいです。16×16のドットで、バトルのときにカットインが入って顔のアップになるなど、X抗体デジモンのカッコよさが存分に発揮できる演出を入れていきます。あと「XAIシステム」も搭載する方向です。
前川：その方向で、というか、やらざるを得ないですよね。
――液晶玩具での、今後の目標などがあれば教えてください。
田岡：やはり、今までの液晶玩具に、トータルで負けないような面白いものにしたいですよね。
渡辺：強気だ(笑)。
田岡：あとできるだけ、Bluetoothや赤外線などの先端技術も入れていきたいです。
渡辺：液晶玩具は、制限があるなかでどれだけ詰め込めるかはチャレンジだよね。携帯して遊ぶことを考えると豪華にできないし、プログラムで使える容量も少ないし。

※1…プラスチック成形のときに出てしまう線。



「デジタルモンスターX」企画書





前川：スマホでアプリゲームも出ている中ですから。
渡辺：その上、専用機ですもんね。かつて携帯も普及してないときに"デジタル"で打ち出していって、今では圧倒的なアナログで勝負をしているところが、すごいなと思います。一周回って、おしゃれな気がする。
田岡：ドット絵は、今でも古臭くなくて、おしゃれなイメージですよね。
北川原：ドット絵がこれまで愛されるようになるとは、思わなかったです。20年経っても「デジモンペンデュラム」が続くとも全く予想もしていませんでした。途中アニメ関連のグッズ中心展開に切り替わり、何年も新しい液晶玩具も出ていませんでしたから。感無量です。
前川：20年続いているデジモンに関われる、有難さを感じますね。あと、これから先20年を作っていく土台のひとつとして、「ver.20th」ができたかなと思います。他でもそういう土台をしっかり作っていきたいです。あと、いつかカラー化したい。
北川原：やっぱり、カラー化はみんな考えるよね。
北川原：昔ドット絵で、アイコン用にカラーを作ったんです。渡辺さんのイラストをベースにしてみました。これを使うこ

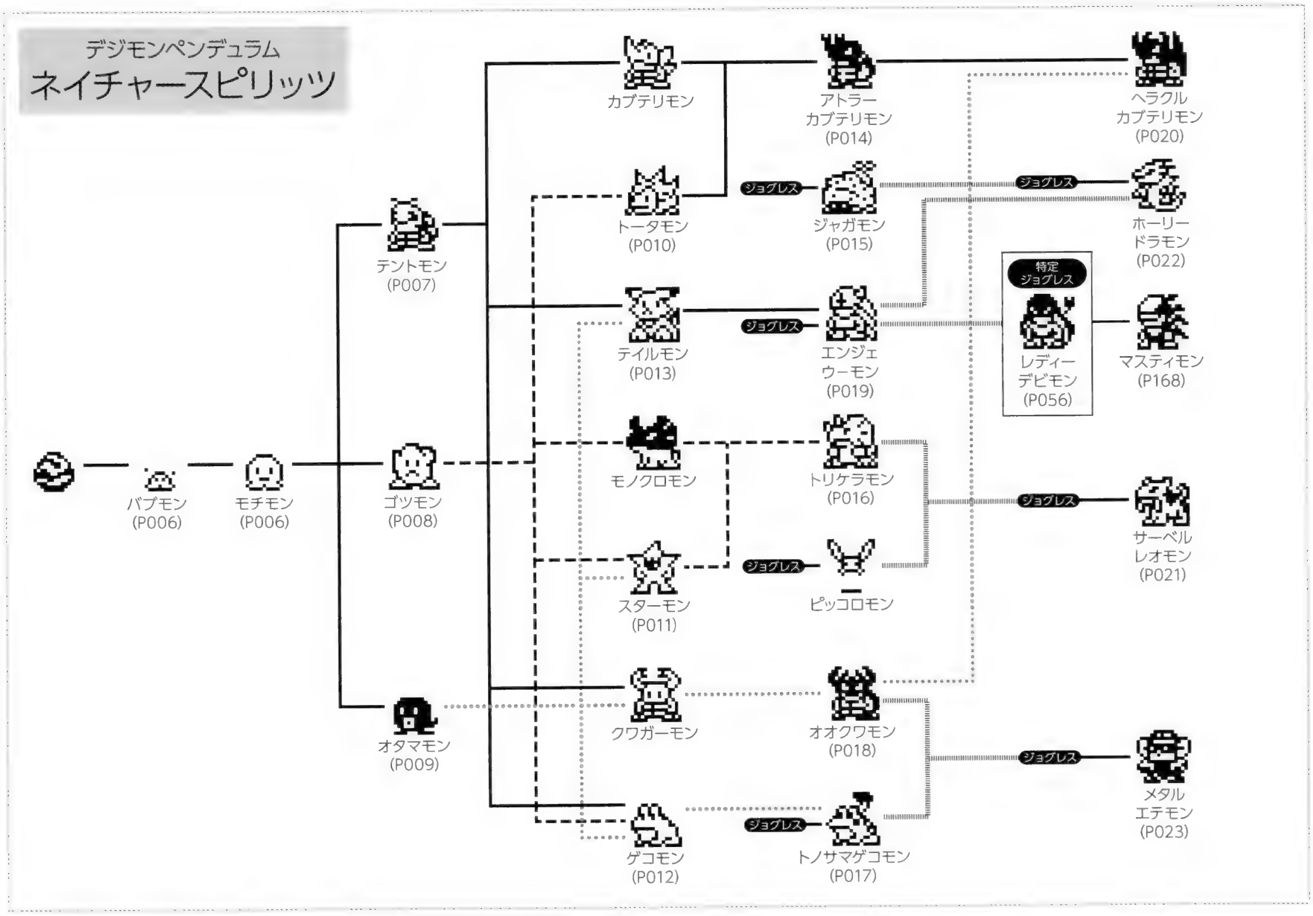


北川原さんの作成したカラードット。

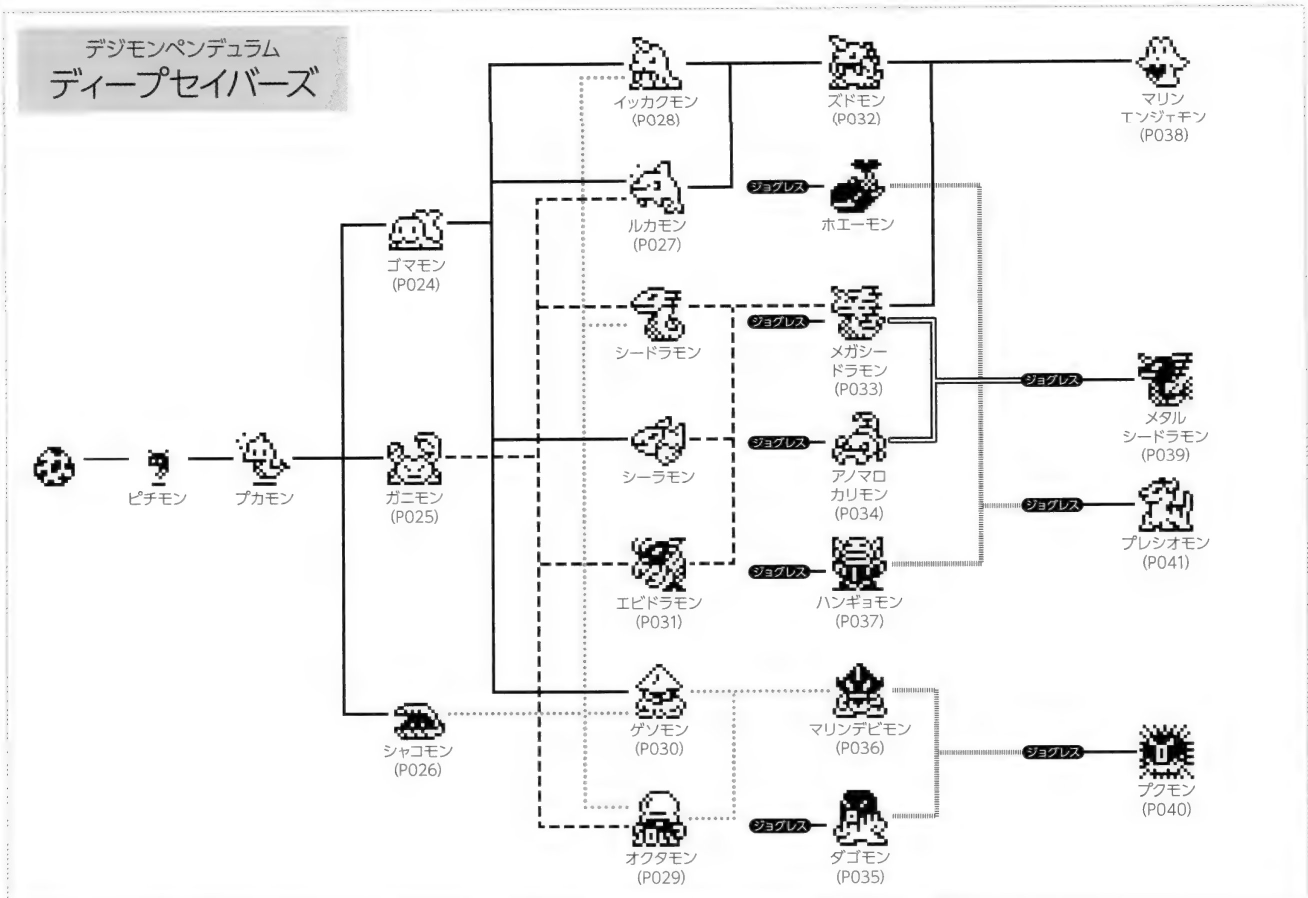
とはありませんでしたが。
前川：ホームページで配布していませんでしたっけ？
北川原：そうだっけ？　当時、カラー液晶は高価なものだったので、志半ばで全然作れませんでした。
田岡：カラードットもやりたいですね。ゲームやアニメなど、いろいろな展開がありますが、今後も液晶玩具は出し続けていきたいです。
前川：ゆくゆくは親子二世代で、遊んでもらえるようになったらいいなと、心のそこから思います。

「ペンデュラムver.20th」デジモン進化系譜

デジモンペンデュラム ネイチャースピリッツ



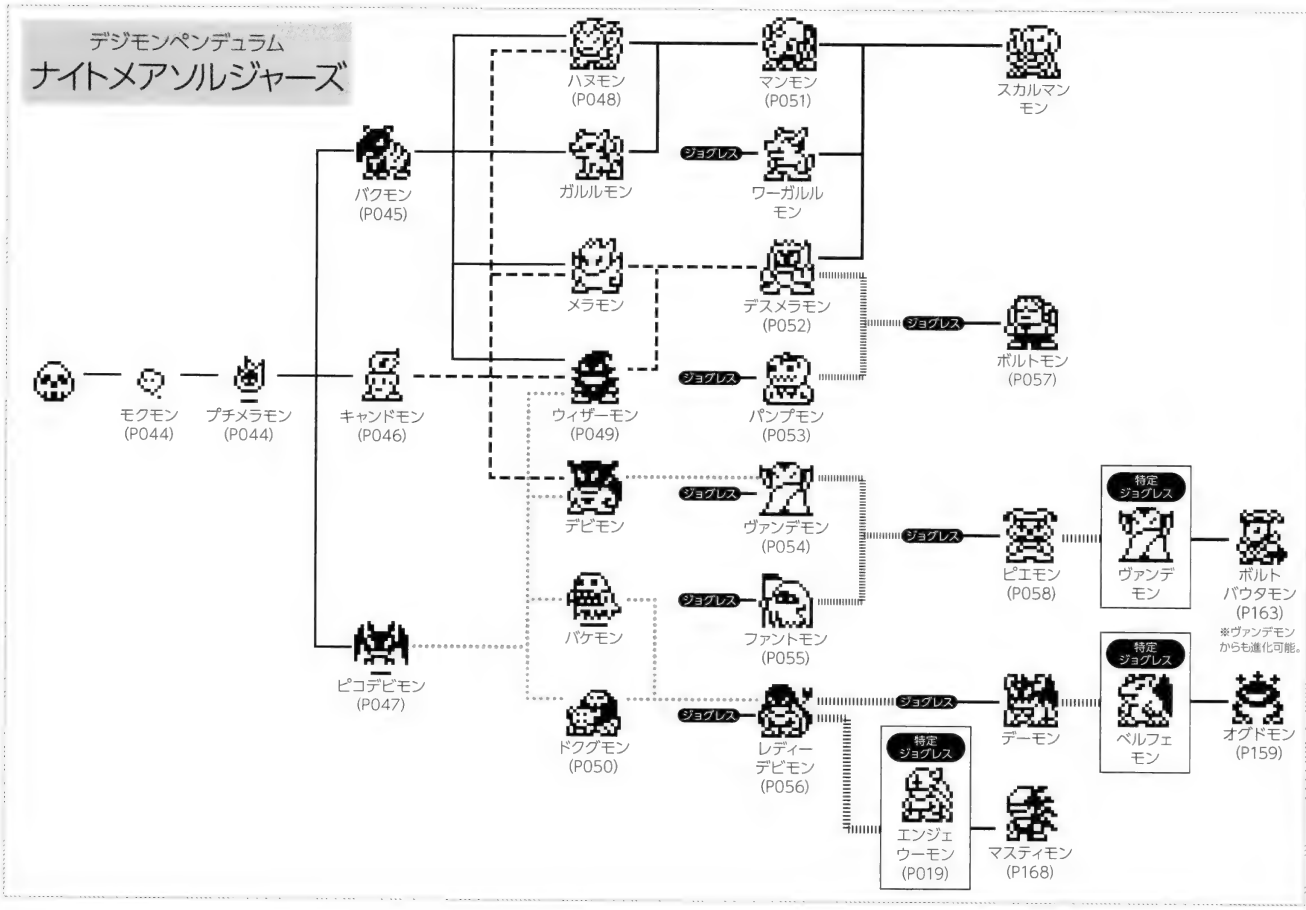
デジモンペンデュラム ディープセイバーズ

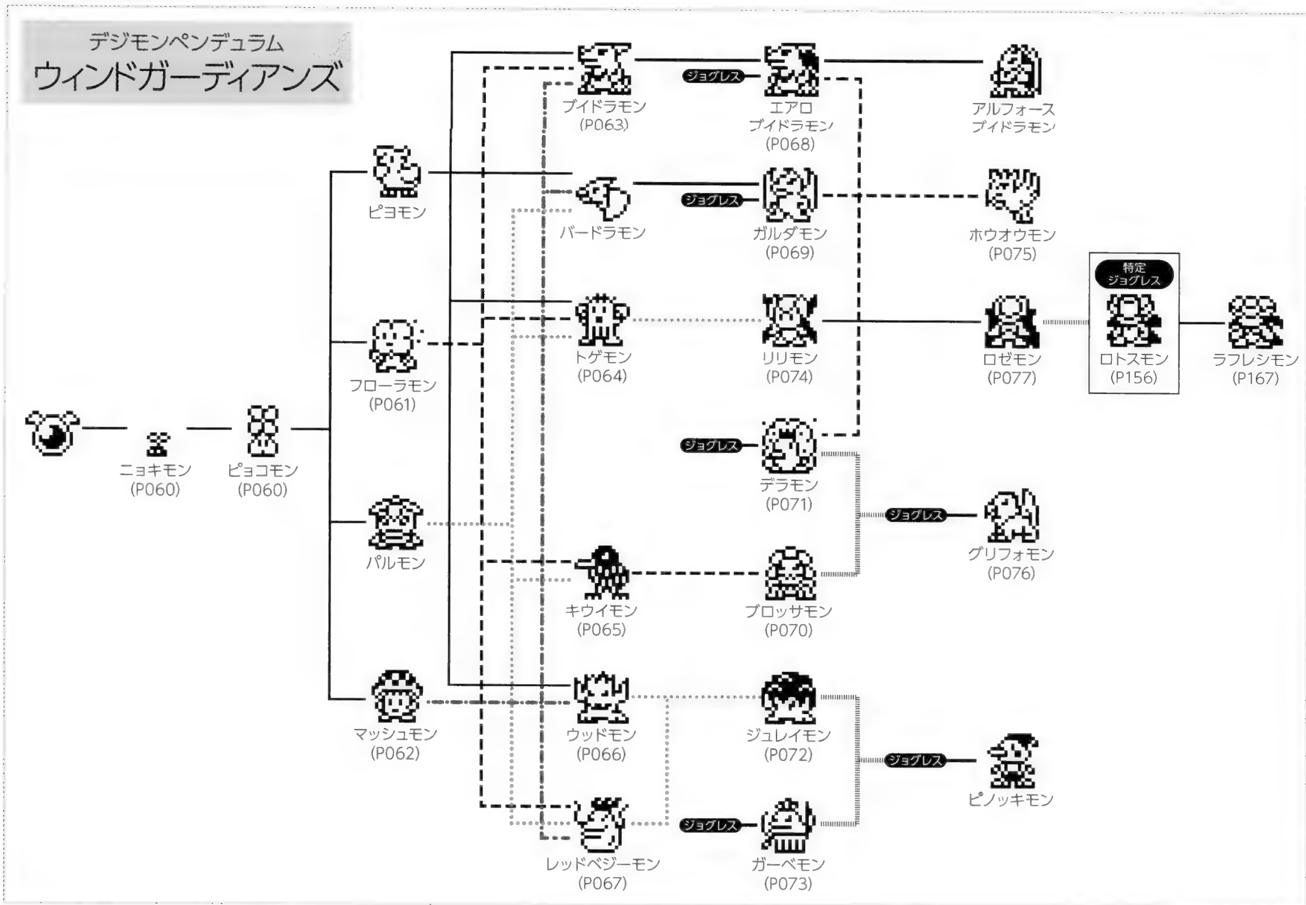


※「特定ジョグレス」は、表記している相手でないとジョグレス進化できないことを意味します。
※成熟期からは完全体へのジョグレス進化の、進化元となるデジモンの名前は省略しています。
※究極体へのジョグレス進化の線は、進化元を表しています。線が引いてあるデジモン同士がジョグレスして、進化するということではありません。

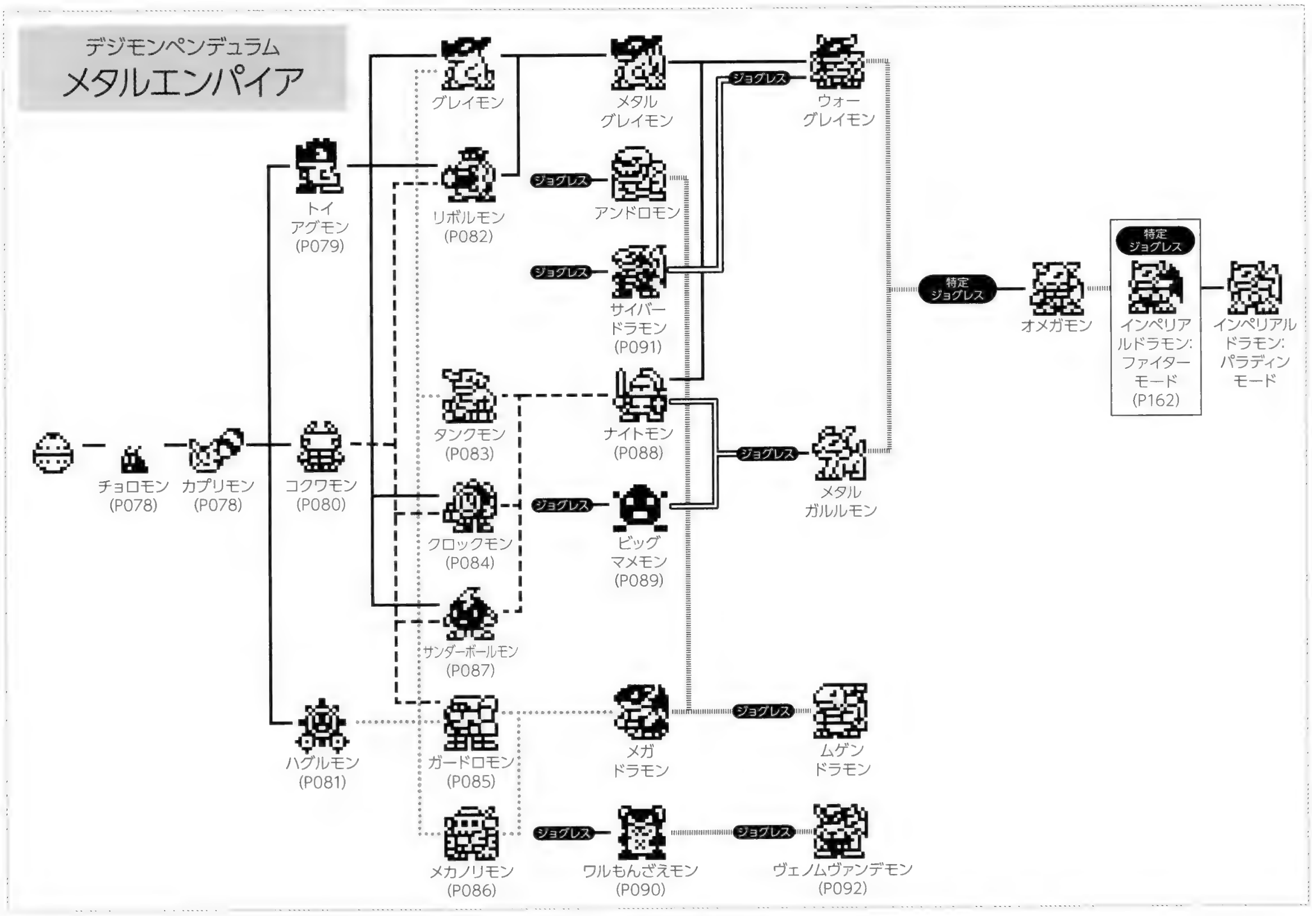
「ver.20th」の進化ツリーを一挙掲載。「ジョグレス進化」もあるため、より複雑な進化系譜になっている。　※一部省略している箇所があります。

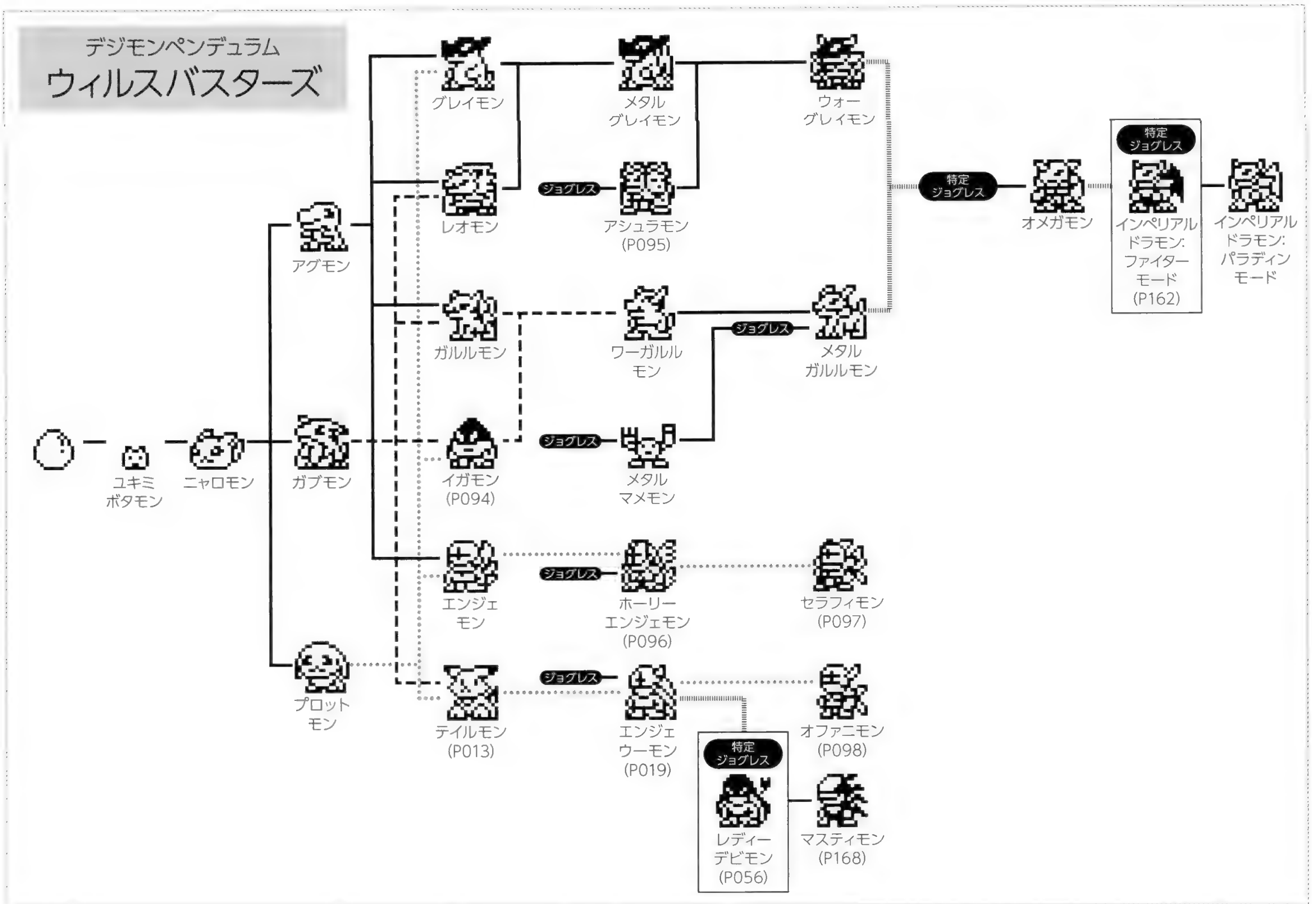
PENDULUM Ver.20th
EVOLUTION GENEALOGY



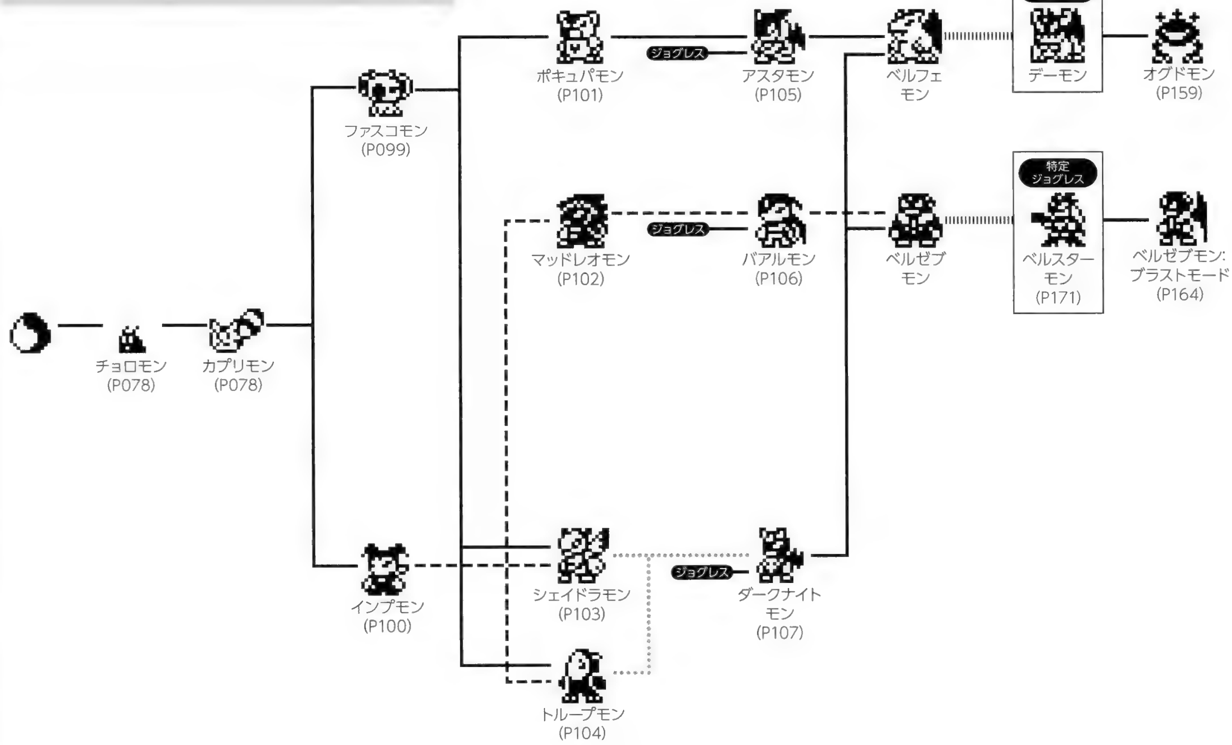


「ペンデュラムver.20th」デジモン進化系譜

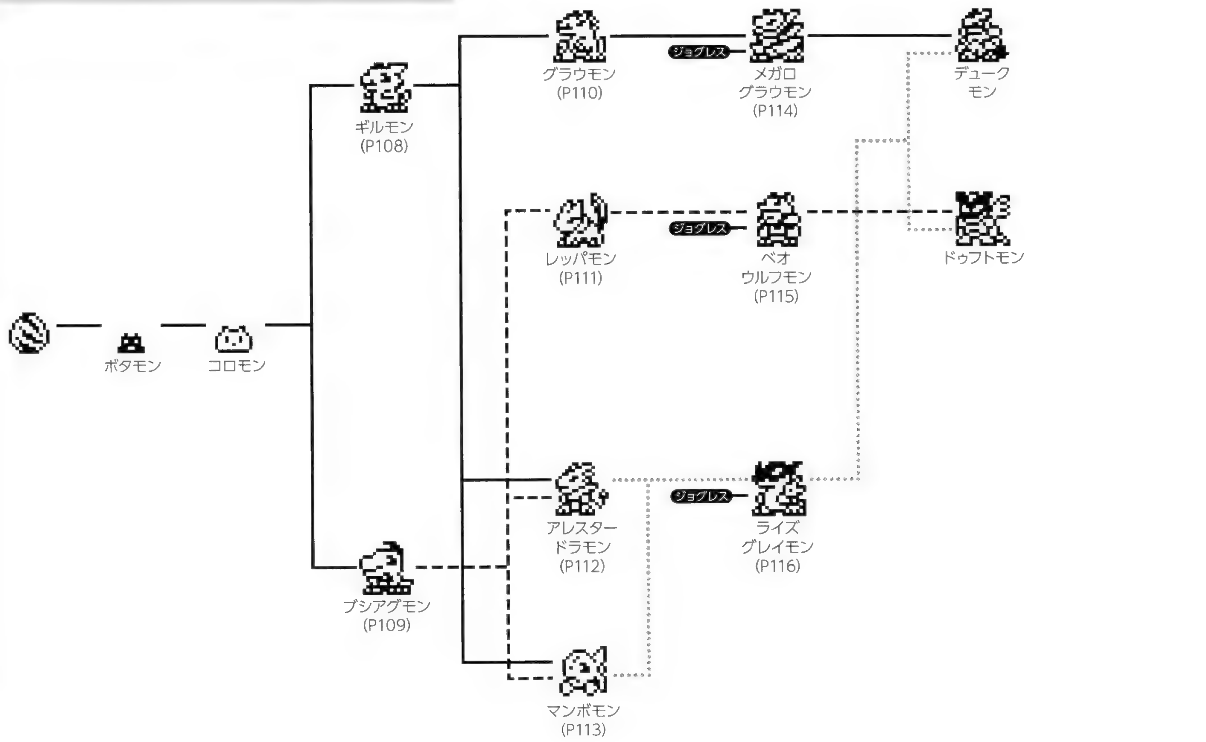




デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ1系列

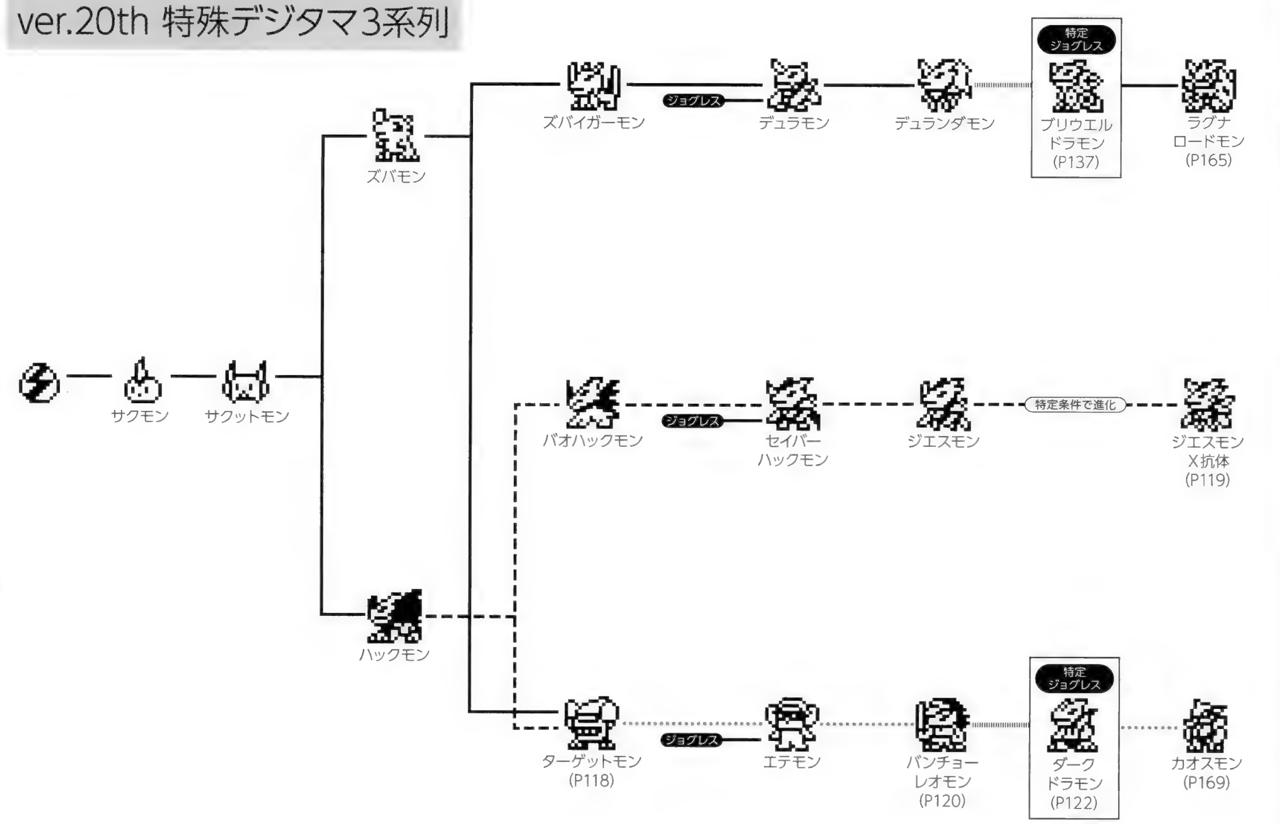


デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ2系列

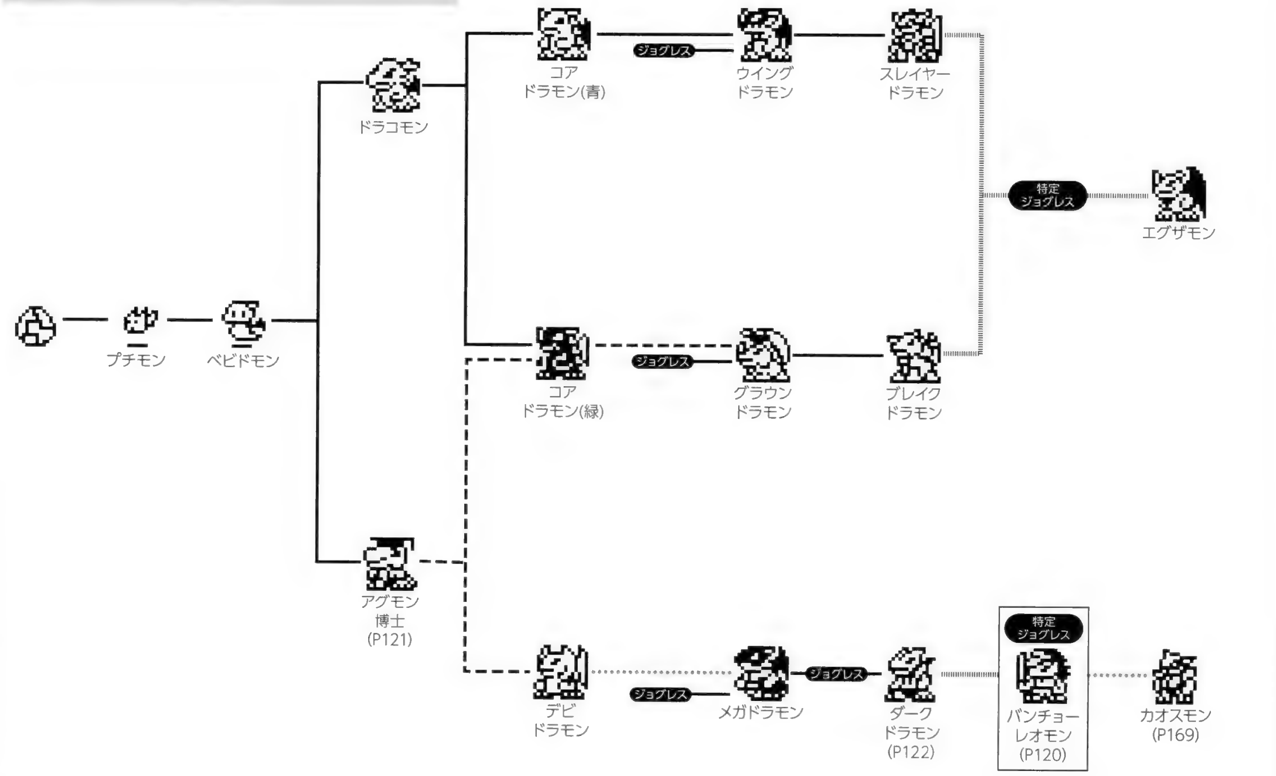


「ペンデュラムver.20th」デジモン進化系譜

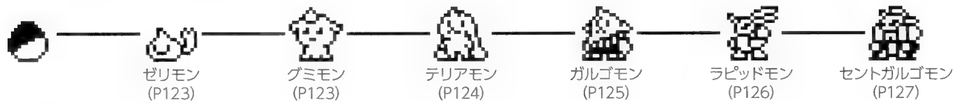
デジモンペンデュラム ver.20th 特殊デジタマ3系列



デジモンペンデュラム ver.20th 特殊デジタマ4系列



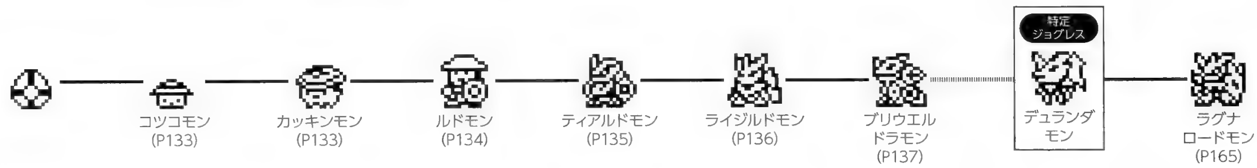
デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ5系列



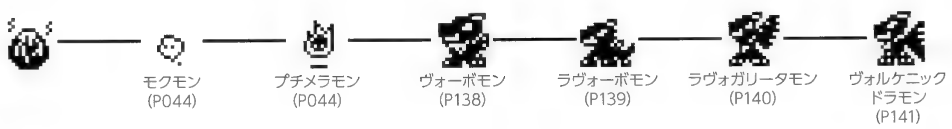
デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ6系列



デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ7系列

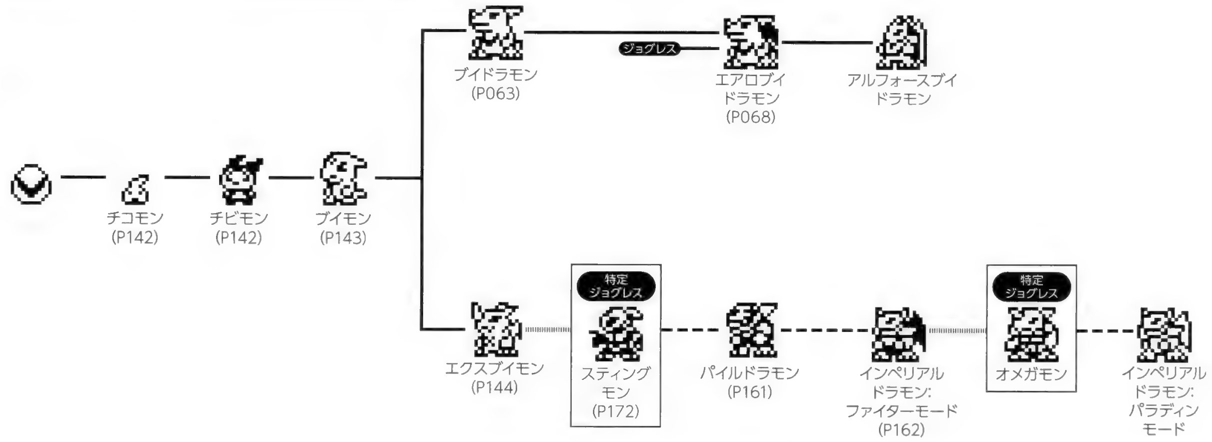


デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ8系列

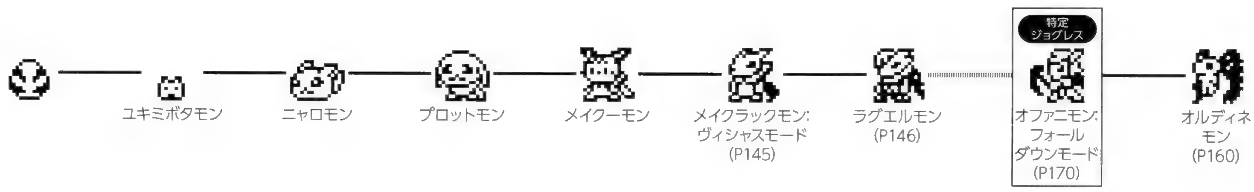


「ペンデュラムver.20th」デジモン進化系譜

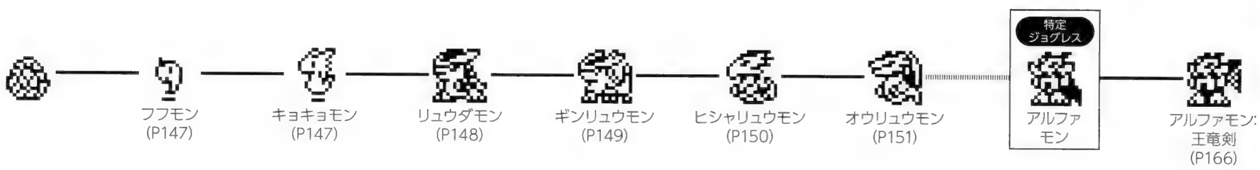
デジモンペンデュラム ver.20th 特殊デジタマ9系列



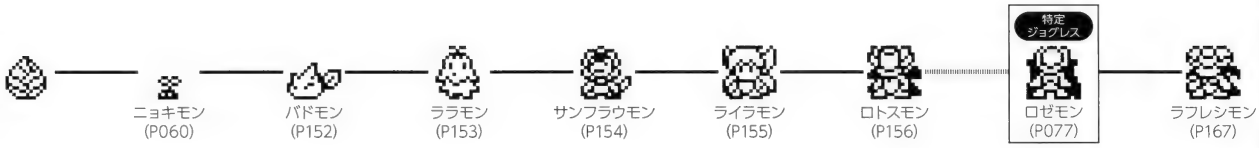
デジモンペンデュラム ver.20th 特殊デジタマ10系列



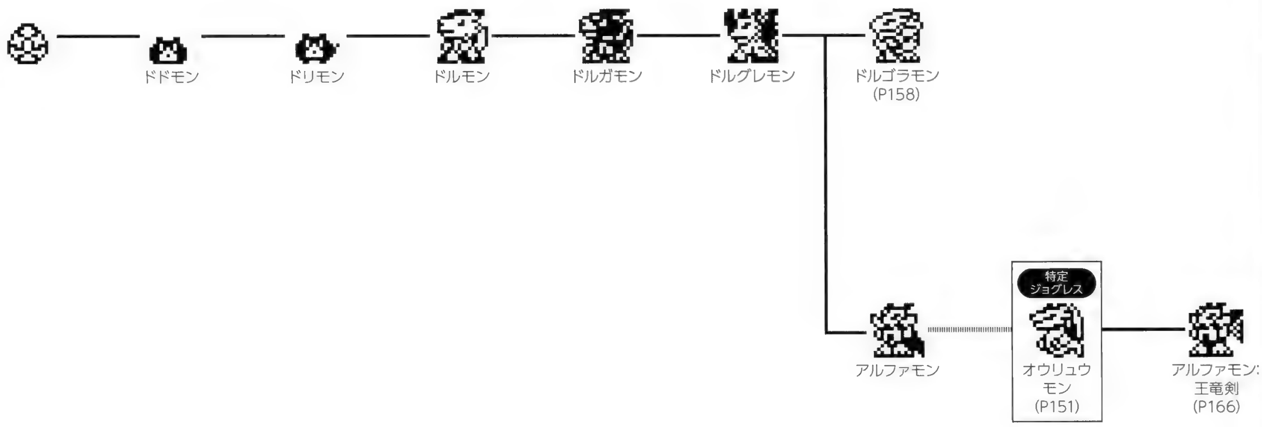
デジモンペンデュラム ver.20th 特殊デジタマ11系列



デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ12系列



デジモンペンデュラム
ver.20th 特殊デジタマ13系列



50音引き索引

本書に登場するデジモンたちを、50音順に掲載。太字になっているページ数に、大きくイラストが乗っているぞ。(コラムや進化系譜のみのデジモンも掲載しています。)

デジタルモンスター
DIGITAL MONSTER
ART BOOK Ver.PENDULUM

発売元　株式会社バンダイ
東京都台東区駒形1-4-8　〒111-8081

発行　2018年12月1日発行

協力　渡辺けんじ
森山 奏
中野 牌人
As'まりあ
姫野かげまる
兎塚クニアキ
株式会社ウィズ
編集　キャラメル・ママ
デザイン　Kプラスアートワークス有限会社
印刷　株式会社シナテック

対象年齢15才以上　2451221

⚠注 意　お買上げのお客様へ　必ずお読みください。
●本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないで下さい。
※イラストや設定などは当時のものを掲載しております。
そのため、現在とは表現が異なる物もございますのでご了承ください。

≪電話受付先≫　バンダイお客様相談センター
〒277-8511　柏市豊四季241-22　ナビダイヤル　0570-041-101
●受付時間 10時～17時（祝日、夏季・冬季休業日を除く）
PHS、IP電話等をご利用の方は04-7146-0371におかけください。

≪商品・修理品送付先≫　バンダイ　栃木修理・配送センター
〒321-0298　栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち4-2-20
●営業時間 10時～17時（土、日、祝日、夏季・冬季休業日を除く）　電話番号はお客様相談センター共通
海外からのお問い合わせは受け付けておりません。
Customer service inquiries are not accepted from outside Japan.



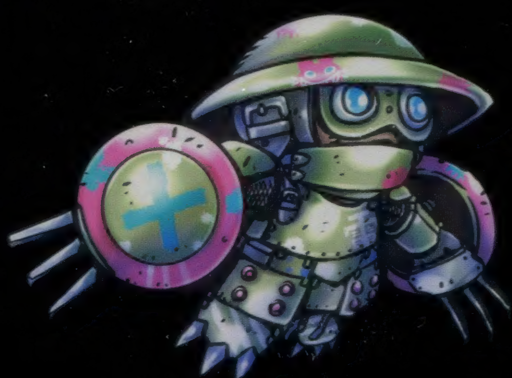
デジタルモンスター

DIGITAL MONSTER

ART BOOK Ver.PENDULUM









DIGITALMONSTER ART BOOK Ver.PENDULUM

